

子+N-95

特14
15
0203

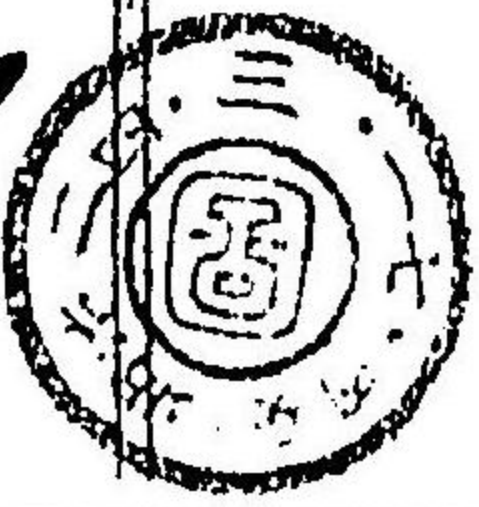


判事樋山廣業編纂

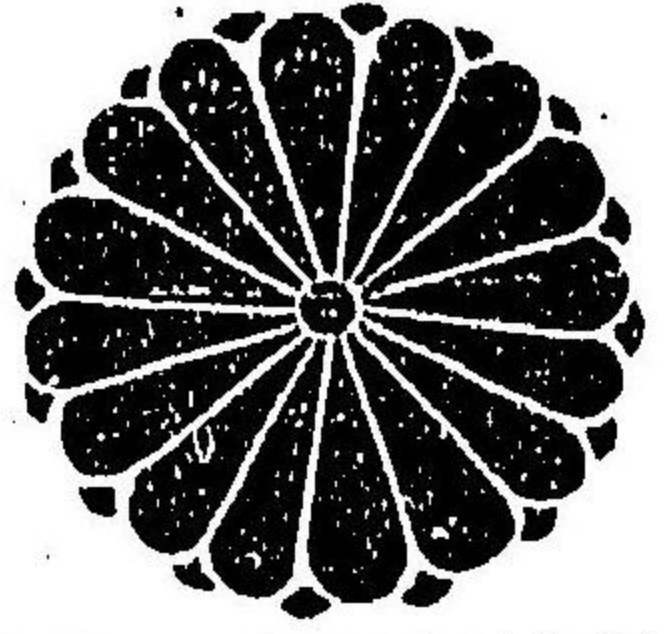
六法大全

版權所有

寶文館藏版







告文

皇朕レ謹ミ畏ミ

皇祖

皇宗ノ神靈ニ告ケ白サク皇朕レ天壤
無窮ノ宏謨ニ循ヒ惟神ノ寶祚ヲ承繼
シ舊圖ヲ保持シテ敢テ失墜スルコト
無シ顧ミルニ世局ノ進運ニ膺リ人文
ノ發達ニ隨ヒ宜ク
皇祖

皇宗ノ遺訓ヲ明徴ニシ典憲ヲ成立シ
條章ヲ昭示シ内ハ以テ子孫ノ率由ス
ル所ト爲シ外ハ以テ臣民翼賛ノ道ヲ
廣メ永遠ニ遵行セシメ益、國家ノ丕基
ヲ鞏固ニシハ洲民生ノ慶福ヲ増進ス
ヘシ茲ニ皇室典範及憲法ヲ制定ス惟
フニ此レ皆

皇祖

皇宗ノ後裔ニ貽シタマヘル統治ノ洪

範ヲ紹述スルニ外ナラス而シテ朕カ
躬ニ逮テ時ト俱ニ舉行スルコトヲ得
ルハ洵ニ

皇祖

皇宗及我カ

皇考ノ威靈ニ倚藉スルニ由ラサルハ
無シ皇朕レ仰テ

皇祖

皇宗及

皇考ノ神祐ヲ禱リ併セテ朕カ現在及
将来ニ臣民ニ率先シ此ノ憲章ヲ履行
シテ愆ヲサラムコトヲ誓フ庶幾クハ
神靈此レヲ鑒ミタマヘ

憲法發布勅語

朕國家ノ隆昌ト臣民ノ慶福トヲ以テ
中心ノ欣榮トシ朕カ祖宗ニ承クルノ
大權ニ依リ現在及將來ノ臣民ニ對シ
此ノ不磨ノ大典ヲ宣布ス
惟フニ我カ祖我カ宗ハ我カ臣民祖先
ノ協力輔翼ニ倚リ我カ帝國ヲ肇造シ
以テ無窮ニ垂レタリ此レ我カ神聖ナ
ル祖宗ノ威徳ト竝ニ臣民ノ忠實勇武

ニシテ國ヲ愛シ公ニ殉ヒ以テ此ノ光
輝アル國史ノ成跡ヲ貽シタルナリ朕
我カ臣民ハ即チ祖宗ノ忠良ナル臣民
ノ子孫ナルヲ回想シ其ノ朕カ意ヲ奉
體シ朕カ事ヲ獎順シ相與ニ和衷協同
シ益我カ帝國ノ光榮ヲ中外ニ宣揚シ
祖宗ノ遺業ヲ永久ニ鞏固ナラシムル
ノ希望ヲ同クシ此ノ負擔ヲ分ツニ堪
フルコトヲ疑ハサルナリ

日本
憲法大全

總目錄

第一編 憲法

第一章 大日本憲法

第二章 皇室典範

第三章 議院法

第一節 貴族院令

第二節 貴族院事務局官制

第三節 貴族院伯子男爵議員選舉規則

第四節 貴族院多額納稅者議員互選規則

第五節 貴族院令并伯子男爵及多額納稅者

議員互選規則施行ノ詔勅

第六節 貴族院議員資格及互選舉爭訟判決

規則

第七節 貴族院議員互選規則取扱方

一 丁

九 丁

十 丁

十四 丁

二十四 丁

二十六 丁

二十七 丁

二十九 丁

三十二 丁

全 丁

三十五 丁

○總目錄

一

第八節	貴族院并衆議院成立規則	全	丁
第九節	衆議院事務局官制	三十九	丁
第十節	衆議院議員選舉法	全	丁
第十一節	議會并議員保護ニ關スル罰則	六十七	丁
第十二節	衆議院議員選舉法施行規則	六十八	丁
第十三節	衆議院議員選舉法罰則補則	七十一	丁
第十四節	衆議院議員選舉法事務取扱方	七十三	丁
第十五節	衆議院議員選舉法及貴族院令ニ於テ直接國稅ト稱スル種目	七十五	丁
第四章 會計法		全	丁
第一節	會計法補則	八十一	丁
第五章 裁判所構成法		八十三	丁
第一節	裁判所構成法施行條例	百七	丁
第二節	裁判所位置及管轄區域表	百十	丁
第三節	地方裁判所支部及其管轄表	百五十五	丁

第四節	判事檢事官等俸給令	百六十二	丁
第五節	判事懲戒法	百六十七	丁
第六節	裁判官檢察官裁判所書記ノ官名及裁判官休職ニ係ル規定	百七十三	丁
第七節	裁判所書記長書記官等俸給	百七十四	丁
第八節	執達吏規則	百七十五	丁
第九節	執達吏登用規則	百七十八	丁
第十節	執達吏手數料規則	百八十二	丁
第十一節	市町村長ニ對スル行政訴訟法ハ始審裁判所ニ於テ取扱ハシム	百八十七	丁
第十二節	違警罪即決例	全	丁
第十三節	普通治罪法陸軍治罪法海軍治罪法	百八十九	丁
第十四節	治安裁判所出張所ヲ置キ裁判事務ヲ取扱ハシム	百九十	丁

○續目錄

第十五節	小笠原島裁判事務取扱管轄	全	四
第十六節	伊豆七島裁判事務取扱管轄	全	丁
第十七節	樺戸集治監囚人ノ裁判管轄	全	丁
第十八節	空知集治監囚人ノ裁判管轄	全	丁
第十九節	釧路集治監囚人ノ裁判管轄	全	丁
第二十節	清國並朝鮮駐在領事裁判規則	全	丁
第六章	行政裁判法	百九十三	丁
第一節	行政裁判所評定官及書記定員並ニ職務	百九十九	丁
第二節	行政裁判所處務規程	二百	丁
第三節	訴願法	二百一	丁
第四節	行政廳ノ違法處分ヲ行政裁判所ニ出訴シ得ヘキ事件	二百四	丁
第五節	行政訴訟豫納金手續	二百五	丁
第七章	法例	全	丁

第二編 民法

第一章	人事編	二百八	丁
第二章	財產編	二百四十九	丁
第一節	供託規則	三百六十二	丁
第二節	供託物取扱規程	全	丁
第三節	財產委棄法	三百七十二	丁
第四節	裁判上代位法	全	丁
第五節	辨濟提供規則	三百七十三	丁
第三章	財產取得編	三百七十四	丁
第四章	債權擔保編	四百五十五	丁
第一節	增價競賣法	五百二十一	丁
第二節	登記法	五百二十二	丁
第三節	登記法改正追加	五百二十八	丁
第四節	登記法取扱規則	五百三十一	丁
第五節	登記印紙規則	五百四十	丁

○附頁

第六節 抗告手續 五百四十二丁
第五章 證據編 五百四十三丁

第一節 公證人規則 五百七十四丁
第二節 公證人規則施行條例 五百八十五丁
第三節 抗告手續 五百九十二丁

第三編 商法

第一章 商法

第一節 商法施行條例 五百九十二丁
第二節 商法ニ依リ株式會社債券發行方 七百四十八丁
第三節 商事非訟事件印紙法 七百五十四丁
第四節 商業會議所條例 七百五十五丁
第五節 商業船舶ノ登記ニ關スル手續料 七百五十七丁
第六節 商業及船舶ノ登記ニ關スル追加 七百六十二丁
第七節 商業及船舶登記公告取扱規則 七百六十二丁
第八節 沖繩縣ニ商法施行延期 七百六十五丁

第九節 有罪破産者處斷方 全 丁
第十節 財産委棄法 全 丁

第十一節 商法及商法施行條例施行期限法 七百六十六丁
律延期ノ件
第十二節 商法ニ關スル法律施行期限法律 全 丁
延期ノ件

第四編 民事訴訟法

第一章 民事訴訟法

第一節 民事訴訟法施行條例 七百六十七丁
第二節 婚姻事件養子縁組事件及禁治産事 九百十丁
件ニ關スル訴訟規則 九百一十一丁
第三節 民事訴訟費用法 九百十六丁
第四節 民事訴訟用印紙法 九百十八丁
第五節 家資分散法 九百二十丁
第六節 非訟事件手續法 九百二十一丁

○總目録

第七節	負債者失踪後ノ訴訟方法	九百二十七丁
第八節	上告預納金ノ事	全丁
第九節	國ヲ代表スルニ付テノ規定	九百二十八丁

第五編 刑法

第一章	刑法	九百二十九丁
第一節	刑法附則	九百八十六丁
第二節	刑法附則中改正	九百九十四丁
第三節	賭博犯特別例廢止	九百九十五丁
第四節	竊盜罪ノ件	全丁
第五節	公署公吏公署印文書及免狀鑑札ノ事件	九百九十六丁

第六編 刑事訴訟法

第一章	刑事訴訟法	九百九十七丁
第一節	輕罪控訴規則	千四十五丁
第二節	輕罪控訴規則改正	千四十六丁

第三節	重罪控訴豫納金規則	全丁
第四節	重輕罪ノ公訴ニ對シ控訴上告ノ時被告人費用ノ件	千四十七丁

第二章	間接國稅犯則處分法	千四十八丁
-----	-----------	-------

第一節	間接國稅犯則者處分ニ關スル書類送達ノ件	千五十一丁
-----	---------------------	-------

第二節	間接國稅犯則者處分法施行細則	千五十二丁
第三章	辯護士事務取扱ノ件	千五十八丁

日本六法大全

第一編 憲法

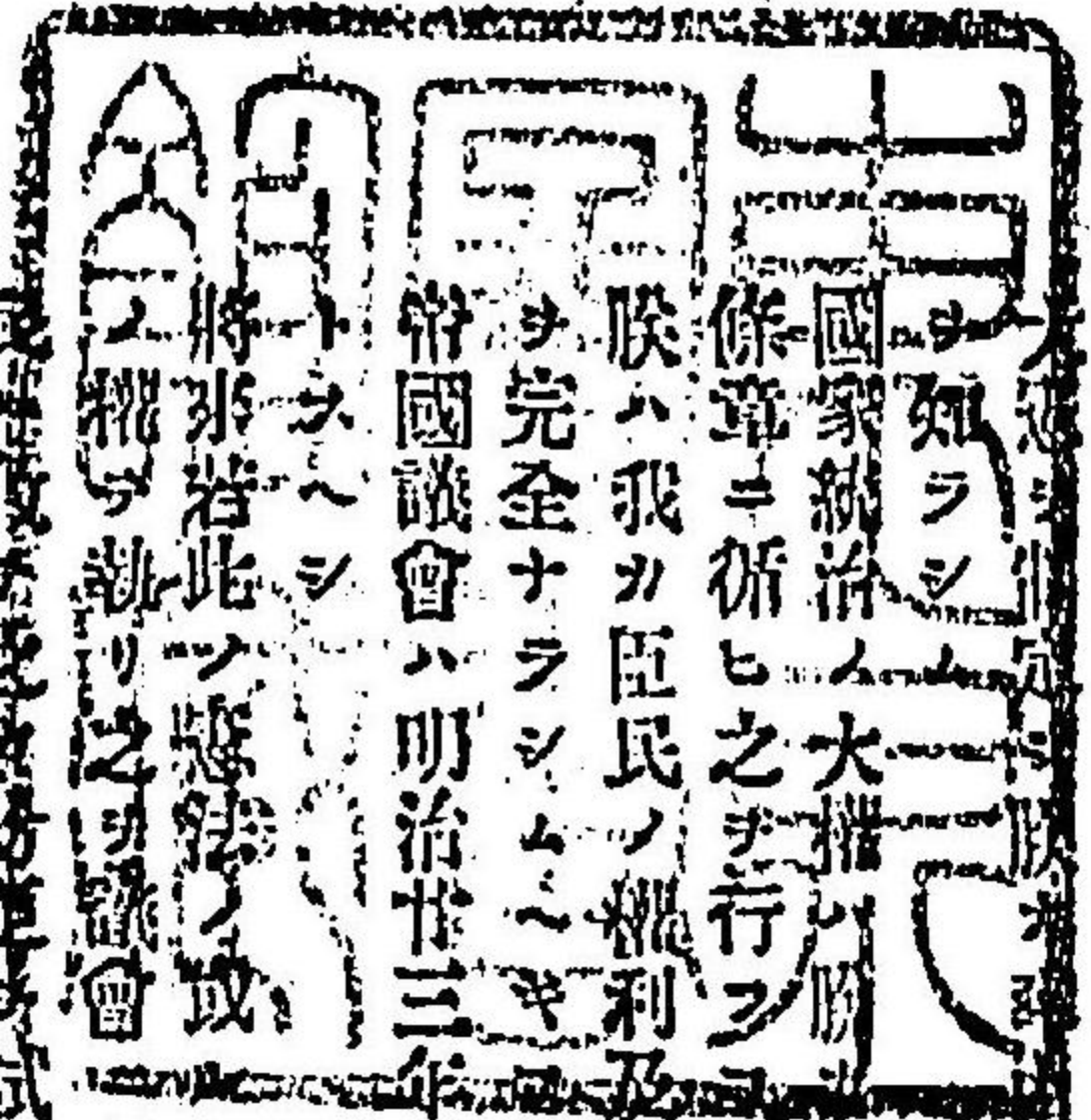
第一章 大日本憲法

樋山 廣業 編纂

○明治二十二年二月十一日制定

朕祖宗ノ遺烈ヲ承ケ萬世一系ノ帝位ヲ踐ミ朕カ親愛スル所ノ臣民ハ即チ朕カ祖宗ノ惠撫慈養シタ
マヒシ所ノ臣民ナルヲ念ヒ其ノ康福ヲ増進シ其ノ懿德貞能ヲ發達セシムコトヲ願ヒ又其ノ烈賢
ニ依リ與ニ俱ニ國家ノ進運ヲ扶持セムコトヲ望ミ乃チ明治十四年十月十二日ノ詔命ヲ履踐シ茲ニ
國家統治ノ大權ヲ朕ノ子孫ニ傳ケテ之ヲ子孫ニ傳フル所ナリ朕及朕カ子孫ハ將來此ノ憲法ノ
條章ニ循ヒ之ヲ行フコトヲ愆ラサルヘシ

朕ハ我カ臣民ノ權利及財產ノ安全ヲ貴重シ及之ヲ保護シ此ノ憲法及法律ノ範圍内ニ於テ其ノ享有
ヲ完全ナラシムヘシトヲ宣言ス



帝國議會ハ明治廿三年ヲ以テ之ヲ召集シ議會開會ノ時ヲ以テ此ノ憲法ヲシテ有効ナラシムルノ期
トスヘシ
將若此ノ憲法ノ條章ヲ改定スルノ必要ナル時宜チ見ルニ至ラハ朕及朕カ繼統ノ子孫ハ發議
ノ權ヲ執リ之ヲ議會ニ付シ議會ハ此ノ憲法ニ定メタル要件ニ依リ之ヲ議決スルノ外朕カ子孫及臣
民ハ朕カ之ヲ行フ事ヲ試ミルコトヲ得サルヘシ
朕カ在任ノ大臣ハ朕カ爲コ此ノ憲法ヲ施行スルノ責ニ任スヘシ朕カ現在及將來ノ臣民ハ此ノ憲法
ニ對シ永遠ニ從順ノ義務ヲ負フヘシ

御名 御璽

○第一編憲法○第一章大日本憲法

内閣總理大臣	伯爵	黑田清隆
樞密院議長	伯爵	伊藤博文
外務大臣	伯爵	大隈重信
海軍大臣	伯爵	西園寺公望
農商務大臣	伯爵	井上馨
司法大臣	伯爵	田中顯
大藏大臣兼 内務大臣	伯爵	松方正義
陸軍大臣	伯爵	大山久
文部大臣	伯爵	森有武
逓信大臣	子爵	榎本武揚

大日本憲法目錄

- 第一章 天皇
- 第二章 臣民權利義務
- 第三章 帝國議會
- 第四章 國務大臣及樞密顧問
- 第五章 司法
- 第六章 會計
- 第七章 補則

大日本帝國憲法

- 第一章 天皇
 - 第一條 大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス
 - 第二條 皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ皇男子孫之ヲ繼承ス
 - 第三條 天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラス
 - 第四條 天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ此憲法ノ條規ニ依リ之ヲ行フ
 - 第五條 天皇ハ帝國議會ノ協贊ヲ以テ立法權ヲ行フ
 - 第六條 天皇ハ法律ヲ裁可シ其公布及ヒ執行ヲ命ス
 - 第七條 天皇ハ帝國議會ヲ召集シ其開會閉會停會及ヒ衆議院ノ解散ヲ命ス
 - 第八條 天皇ハ公共ノ安全ヲ保持シ又ハ其災厄ヲ避クル爲メ緊急ノ必要ニ由リ帝國議會閉會ノ場
合ニ於テ法律ニ代ルヘキ勅令ヲ發ス此勅令ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出スヘシ若シ議會ニ
於テ承諾セサルハ政府ハ將來ニ向テ其効力ヲ失フコトヲ公布スヘシ
 - 第九條 天皇ハ法律ヲ執行スル爲メニ又ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及ヒ臣民ノ幸福ヲ増進スル爲
メ必要ナル場合ヲ發シ又ハ發セシム但命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得ス
 - 第十條 天皇ハ行政各部ノ官制及ヒ文武官ノ俸給ヲ定メ及ヒ文武官ヲ任免ス但此憲法又ハ他ノ法
律ニ特例ヲ掲ケタルモノハ各其條項ニ依ル
 - 第十一條 天皇ハ陸海軍ヲ統帥ス
 - 第十二條 天皇ハ陸海軍ノ編制及ヒ常備兵額ヲ定ム
 - 第十三條 天皇ハ戰ヲ宣シ和ヲ講シ及ヒ諸般ノ條約ヲ締結ス
 - 第十四條 天皇ハ戒嚴ヲ宣告ス

○第一編憲法○第一章大日本憲法

第十五條 天皇ハ爵位勳章及ヒ其他ノ榮典ヲ授與ス

第十六條 天皇ハ大赦特赦減刑及復權ヲ命ス

第十七條 攝政ヲ置クハ皇室典範ノ定ムル所ニ依ル

攝政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フ

第二章 臣民權利義務

第十八條 日本臣民タルノ要件ハ法律ノ定ムル所ニ依ル

第十九條 日本臣民ハ法律命令ノ定ムル所ノ資格ニ應ジ均シク文武官ニ任セラレ及ヒ其他ノ公務ニ就クコトヲ得

第二十條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ兵役ノ義務ヲ有ス

第二十一條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ納税ノ義務ヲ有ス

第二十二條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ居住及ヒ移轉ノ自由ヲ有ス

第二十三條 日本臣民ハ法律ニ依ルニアラスシテ逮捕監禁審問處罰ヲ受クルコトナシ

第二十四條 日本臣民ハ法律ニ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受クルノ權ヲ奪ハル、コトナシ

第二十五條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外其許諾ナクシテ住所ニ侵入セラレ及ヒ搜索セラレ、コトナシ

第二十六條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外信書ノ秘密ヲ侵サル、コトナシ

第二十七條 日本臣民ハ其所有權ヲ侵サル、コトナシ

第二十八條 日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨ケス及ヒ臣民タルノ義務ニ背カサル限ニ於テ信教ノ自由ヲ有ス

第二十九條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ言論著作印行集會及ヒ結社ノ自由ヲ有ス

第三十條 日本臣民ハ相當ノ敬禮ヲ守リ別ニ定ムル所ノ規定ニ從ヒ請願ヲ爲スコトヲ得

第三十一條 本章ニ掲ケタル條規ハ戰時又ハ國家事變ノ場合ニ於テ天皇大權ノ施行ヲ妨グルコトナシ

第三十二條 本章ニ掲ケタル條規ハ陸海軍ノ法令又ハ紀律ニ牴觸セサルモノニ限り軍人ニ準行ス

第三章 帝國議會

第三十三條 帝國議會ハ貴族院衆議院ノ兩院ヲ以テ成立ス

第三十四條 貴族院ハ貴族院令ノ定ムル所ニ依リ皇族華族及ヒ勅任セラレタル議員ヲ以テ組織ス

第三十五條 衆議院ハ選舉法ノ定ムル所ニ依リ公選セラレタル議員ヲ以テ組織ス

第三十六條 何人モ同時ニ兩議院ノ議員タルコトヲ得ス

第三十七條 凡テ法律ハ帝國議會ノ協賛ヲ經ルヲ要ス

第三十八條 兩議院ハ政府ノ提出スル法律案ヲ議決シ及ヒ各々法律案ヲ提出スルコトヲ得

第三十九條 兩議院ノ一ニ於テ否決シタル法律案ハ同會期中ニ於テ再ヒ提出スルコトヲ得ス

第四十條 兩議院ハ法律又ハ其ノ他ノ事件ニ付各々其ノ意見ヲ政府ニ建議スルコトヲ得但シ其ノ採納ヲ得サルモノハ同會期中ニ於テ再ヒ建議スルコトヲ得ス

第四十一條 帝國議會ハ毎年之ヲ召集ス

第四十二條 帝國議會ハ三個月ヲ以テ會期トス必要アル場合ニ於テハ勅命ヲ以テ之ヲ延長スルコトアルヘシ

第四十三條 臨時緊急ノ必要アル場合ニ於テ常會ノ外臨時會ヲ召集スヘシ

臨時會ノ會期ヲ定ムルハ勅命ニ依ル

第四十四條 帝國議會ノ開會閉會會期ノ延長及ヒ停會ハ兩院同時ニ之ヲ行フヘシ

衆議院解散ヲ命セラレタルハ貴族院ハ同時ニ停會セラレヘシ

第四十五條 衆議院解散ヲ命セラレタルハ勅命ヲ以テ新ニ議員ヲ選舉セシメ解散ノ日ヨリ五個月以内ニ之ヲ召集スヘシ

第四十六條 兩議院ハ各其ノ總議員三分ノ一以上出席スルニ非ツレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第四十七條 兩議院ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナル時ハ議長ノ決スル所ニ依ル

第四十八條 兩議院ハ會議ハ公開ス但政府ノ要求又ハ其ノ院ノ決議ニ依リ秘密會ト爲スヲ得

第四十九條 兩議院ハ各天皇ニ上奏スルコトヲ得

第五十條 兩議院ハ臣民ヨリ呈出スル請願書ヲ受クルコトヲ得

第五十一條 兩議院ハ此憲法及ヒ議院法ニ掲クルモノ、外内部ノ整理ニ必要ナル諸規則ヲ定ムルコトヲ得

第五十二條 兩議院ノ議員ハ議院ニ於テ發言シタル意見及ヒ表決ニ付キ院外ニ於テ責ヲ負フコトヲ得

第五十三條 兩議院ノ議員ハ現行犯罪又ハ内亂外患ニ關ル罪ヲ除ク外會期中其院ノ職務ナクシテ逮捕セラル、コトナシ

第五十四條 國務大臣及政府委員ハ何時アリトモ各議院ニ出席シ及ヒ發言スルコトヲ得

第五十五條 國務各大臣ハ天皇ヲ輔弼シ其責ニ任ス

第五十六條 凡テ法律勅令其他國務ニ關ル詔勅ハ國務大臣ノ副署ヲ要ス

第五十七條 樞密顧問ハ樞密院官制ノ定ムル所ニ依リ天皇ノ諮詢ニ應ヘ重要ノ國務ヲ審議ス

第五十八條 司法 司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フ

第五十九條 裁判所ノ構成ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第六十條 裁判官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルノ外其職ヲ免セラル、コトナシ

第六十一條 懲戒ノ條規ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第六十二條 又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得

第六十三條 特別裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第六十四條 行政官廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスルノ訴訟ニシテ別ニ法律ヲ以テ定メタル行政裁判所ノ裁判ニ屬スヘキモノハ司法裁判所ニ於テ受理スルノ限ニ在ラズ

第六十五條 第六十六條 第六十七條 第六十八條

第六十九條 第六十條 第六十一條 第六十二條

第六十三條 第六十四條 第六十五條 第六十六條

第六十七條 第六十八條 第六十九條 第七十條

第六十九條 避シヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フ爲メ又ハ豫算ノ外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツル爲メ豫備費ヲ設クヘシ

第七十條 公共ノ安全ヲ保持スル爲メ緊急ノ需用アル場合ニ於テ内外ノ情形ニ因リ政府ハ帝國議會ヲ召集スルコト能ハサルハ勅令ニ依リ財政上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第七十一條 帝國議會ニ於テ豫算ヲ議定セヌ又ハ豫算成立ニ至ラサルハ政府ハ前年度ノ豫算ヲ施行スヘシ

第七十二條 國家ノ歳入歳入ノ決算ハ會計検査院之ヲ検査確定シ政府ハ其検査報告ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

會計検査院ノ組織及職權ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第七十三條 將來此憲法ノ條項ヲ改正スルノ必要アルハ勅令ヲ以テ議案ヲ帝國議會ノ議ニ付スヘシ

此場合ニ於テ兩院ハ各其總員三分ノ二以上出席スルニアラサレハ議事ヲ開クコトヲ得ス出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ得ルニアラサレハ改正ノ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第七十四條 皇室典範ノ改正ハ帝國議會ノ議ヲ經ルヲ要セス

皇室典範ヲ以テ此憲法ノ條規ヲ變更スルコトヲ得ス

第七十五條 憲法及ヒ皇室典範ハ攝政ヲ置クノ間之ヲ變更スルコトヲ得ス

第七十六條 法律規則命令又ハ何等ノ名稱ヲ用ヰタルニ拘ラヌ此憲法ニ矛盾セサル現行ノ法令ハ總テ理由ノ效力ヲ有ス

濠洲上政府ノ義務ニ係ル現在ノ契約又ハ命令ハ總テ第六十七條ノ例ニ依ル

皇室典範

天佑ヲ享有シタル我日本帝國ノ寶祚ハ萬世一系歷代繼承シ以テ朕カ躬ニ至ル惟フニ祖宗肇國ノ初大憲一タヒ定マリ昭ナルコト日星ノ如シ今ノ時ニ當リ宜ク遺訓ヲ明徴ニシ皇家ノ成典ヲ制立シ以テ丕基ヲ永遠ニ鞏固ニスヘシ茲ニ樞密顧問ノ諮詢ヲ經皇室典範ヲ裁定シ朕カ後嗣及子孫ヲシテ遵守スル所アラシム

御名 御璽

明治二十二年二月十一日

皇室典範

第一章 皇位繼承

第一條 大日本國皇位ハ祖宗ノ皇統ニシテ男系ノ男子之ヲ繼承ス

第二條 皇位ハ皇長子ニ傳フ

第三條 皇長子在ラサルトキハ皇長孫ニ傳フ皇長子及其ノ子孫皆在ラサルトキハ皇次子及其ノ子孫ニ傳フ以下皆之ニ例ス

第四條 皇子孫ノ皇位ヲ繼承スルハ嫡出ヲ先ニス皇庶子孫ノ皇位ヲ繼承スルハ皇嫡子孫皆在ラサルトキニ限ル

第五條 皇子孫皆在ラサルトキハ皇兄弟及其ノ子孫ニ傳フ

第六條 皇兄弟及其ノ子孫皆在ラサルトキハ皇伯叔父及其ノ子孫ニ傳フ

第七條 皇伯叔父及其ノ子孫皆在ラサルトキハ其ノ以上ニ於テ最近親ノ皇族ニ傳フ

○第一編 第一章 皇室典範

第八條 皇兄弟以上ハ同等内ニ於テ嫡先ニシテ庶先ニシテ長先ニシテ幼先ニシテ後ニシテ
第九條 皇嗣精神若ハ身体ノ不治ノ重患アリ又ハ重大ノ事故アルトキハ皇族會議及樞密顧問ニ諮
詢シ前數條ニ依リ繼承ノ順序ヲ換フルコトヲ得

第二章 踐祚即位
第十條 天皇崩スルトキハ皇嗣即チ踐祚シ祖宗ノ神器ヲ承ク
第十一條 即位ノ禮及大嘗祭ハ京都ニ於テ之ヲ行フ
第十二條 踐祚ノ後元號ヲ建テ一世ノ間ニ再ヒ改メサルコト明治元年ノ定制ニ從フ

第三章 成年立后立太子
第十三條 天皇及皇太子皇太孫ハ滿十八年ヲ以テ成年トス
第十四條 前條ノ外ノ皇族ハ滿二十年ヲ以テ成年トス
第十五條 儲嗣タル皇子ヲ皇太子トス皇太子在ラサルトキハ儲嗣タル皇孫ヲ皇太孫トス

第十六條 皇后皇太子皇太后ヲ立ツルトキハ詔書ヲ以テ之ヲ公布ス
第四章 敬稱
第十七條 天皇、太皇太后、皇太后、皇后ノ敬稱ハ陛下トス
第十八條 皇太子、皇太子妃、皇太孫、皇太孫妃、親王、親王妃、內親王、王、王妃、女王ノ敬稱ハ殿下トス

第五章 攝政
第十九條 天皇未ダ成年ニ達セサルトキハ攝政ヲ置ク
天皇久キニ亘ルノ故障ニ由リ大政ヲ親ラヌルコト能ハサルトキハ皇族會議及ヒ樞密顧問ノ議ヲ經テ攝政ヲ置ク

第二十條 攝政ハ成年ニ達シタル皇太子又ハ皇太孫之ニ任ス
第二十一條 皇太子皇太孫在ラサルカ又ハ未ダ成年ニ達セサルトキハ左ノ順序ニ依リ攝政ニ任ス

第一 親王及王

第二 皇后

第三 皇太后

第四 太皇太后

第五 內親王及女王

第二十二條 皇族男子ノ攝政ニ任スルハ皇位繼承ノ順序ニ從フ其ノ女子ニ於ルモ亦之ニ準ス

第二十三條 皇族女子ノ攝政ニ任スルハ其ノ配偶アラサル者ニ限ル

第二十四條 最近親ノ皇族未ダ成年ニ達セサルカ又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ他ノ皇族攝政ニ任シタルトキハ後來最近親ノ皇族成年ニ達シ又ハ其事故既ニ除クト雖皇太子及皇太孫ニ對スルノ外其ノ任ヲ讓ルコトナシ

第二十五條 攝政又ハ攝政タルヘキ者精神若ハ身體ノ重患アリ又ハ重大ノ事故アルトキハ皇族會議及ヒ樞密顧問ノ議ヲ經テ其ノ順序ヲ換フルコトヲ得

第六章 太傅

第二十六條 天皇未ダ成年ニ達セサルトキハ太傅ヲ置キ保育ヲ掌ラシム

第二十七條 先帝遺命ヲ以テ太傅ヲ任セサルコトキハ攝政ヨリ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シ之ヲ選任ス

第二十八條 太傅ハ攝政及其ノ子孫之ニ任スルコトヲ得ス

第二十九條 攝政ハ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シタル後ニ非サレハ太傅ヲ退職セシムルコトヲ得ス

第七章 皇族

第三十條 皇族ト稱フルハ太皇太后、皇太后、皇后、皇太子、皇太子妃、皇太孫、皇太孫妃、親王、親王妃、內親王、王、王妃、女王、ヲ謂フ

第三十一條 皇子ヨリ皇太孫ニ至ル迄ハ男ヲ親王、女ヲ內親王トシ五世以下ハ男ヲ王、女ヲ女王ト

○第一編憲法 第二章 皇室典範

第三十二條 天皇支系ヨリ入テ大統ヲ承ルトキハ皇兄弟姊妹ノ王、女王タル者ニ特ニ親王、内親王ノ號ヲ宣賜ス

第三十三條 皇族ノ誕生命名婚嫁薨去ハ宮内大臣之ヲ公告ス

第三十四條 皇統譜及ヒ前條ニ關ル記録ハ圖書寮ニ於テ尙藏ス

第三十五條 皇族ハ天皇之ヲ監督ス

第三十六條 攝政在任ノ時ハ前條ノ事ヲ攝行ス

第三十七條 皇族男女幼年ニシテ父ナキ者ハ宮内ノ官寮ニ命シ保育ヲ掌ラシム時宜ニ依リ天皇ハ其ノ父母ノ選舉セル後見人ヲ認可シ又ハ之ヲ勅選スヘシ

第三十八條 皇族ノ後見人ハ成年以上ノ皇族ニ限ル

第三十九條 皇族ノ婚嫁ハ同族又ハ勅旨ニ由リ特ニ認許セラレタル華族ニ限ル

第四十條 皇族ノ婚嫁ハ勅許ニ由ル

第四十一條 皇族ノ婚嫁ヲ許可スルノ勅書ハ宮内大臣之ヲ副署ス

第四十二條 皇族ハ養子ヲ爲スコトヲ得ス

第四十三條 皇族國疆ノ外ニ旅行セムトスルトキハ勅許ヲ請フヘシ

第四十四條 皇族女子ノ臣籍ニ嫁シタル者ハ皇族ノ列ニ在ラス但シ特旨ニ依リ仍内親王女王ノ稱ヲ有セシムルコトアルヘシ

第八章 世傳御料

第四十五條 土地物件ノ世傳御料ト定メタルモノハ分割讓與スルコトヲ得ス

第四十六條 世傳御料ニ編入スル土地物件ハ樞密顧問ニ諮詢シ勅書ヲ以テ之ヲ定メ宮内大臣之ヲ公告ス

第九章 皇室經費

第四十七條 皇室諸般ノ經費ハ特ニ常額ヲ定メ國庫ヨリ支出セシム

第四十八條 皇室經費ノ豫算、決算、検査及其ノ他ノ規則ハ皇室會計法ノ定ムル所ニ依ル

第十章 皇族訴訟及ヒ懲戒

第四十九條 皇族相互ノ民事ノ訴訟ハ勅旨ニ依リ宮内省ニ於テ裁判員ヲ命シ裁判セシメ勅裁ヲ經テ之ヲ執行ス

第五十條 人民ヨリ皇族ニ對スル民事ノ訴訟ハ東京控訴院ニ於テ之ヲ裁判ス但シ皇族ハ代人ヲ以テ訴訟ニ當ラシメ自ラ訴訟ニ出ルヲ要セス

第五十一條 皇族ハ勅許ヲ得ルニ非サレハ勾引シ又ハ裁判所ニ召喚スルコトヲ得ス

第五十二條 皇族其品位ヲ辱ムルノ所行アリ又ハ皇室ニ對シ忠順ヲ缺クトキハ勅旨ヲ以テ之ヲ懲戒シ其重キ者ハ皇族特權ノ一部又ハ全部ヲ停止シ若ハ剝奪スヘシ

第五十三條 皇族遺產ノ所行アルトキハ勅旨ヲ以テ治産ノ禁ヲ宣告シ其ノ管財者ヲ任スヘシ

第五十四條 前二條ハ皇族會議ニ諮詢シタル後之ヲ勅裁ス

第十一章 皇族會議

第五十五條 皇族會議ハ成年以上ノ皇族男子ヲ以テ組織シ内大臣、樞密院議長、宮内大臣、司法大臣、大審院長ヲ以テ參列セシム

第五十六條 天皇ハ皇族會議ニ親臨シ又ハ皇族中ノ一員ニ命シテ議長ヲラシム

第十二章 補則

第五十七條 現在ノ皇族五世以下親王ノ號ヲ宣賜シタル者ハ舊ニ依ル

第五十八條 皇位繼承ノ順序ハ總テ實系ニ依ル現在皇養子、皇猶子又ハ他ノ繼承タルノ故ヲ以テ之ヲ混スルコトナシ

第五十九條 親王、内親王、王、女王、ノ品位ハ之ヲ廢ス

第六十條 親王ノ家格及ヒ其他此典範ニ抵觸スル例規ハ總テ之ヲ廢ス

○第一編憲法○第二章皇室典範

第六十一條 皇族ノ財産、歳費及諸規則ハ別ニ之ヲ定ムヘシ
第六十二條 將來此典範ノ條項ヲ改正シ又ハ増補スヘキノ必要アルニ當テハ皇族會議及ヒ樞密顧問ニ諮詢シテ之ヲ勅定スヘシ

第三章 議院法

明治二十二年二月法律第二號
朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ議院法ヲ裁可シ之ヲ公布セシメ併セテ貴族院及衆議院成立ノ日ヨリ各々本法ニ依リ施行スヘキコトヲ命ズ

御名 御璽

法律第二號

議院法

第一章 帝國議會ノ召集成立及開會

第一條 帝國議會召集ノ勅諭ハ集會ノ期日ヲ定メ少クトモ四十日前ニ之ヲ發布スヘシ

第二條 議員ハ召集ノ勅諭ニ指定シタル期日ニ於テ各議院ノ會堂ニ集會スヘシ

第三條 衆議院ノ議長副議長ハ其ノ院ニ於テ各々三名ノ候補者ヲ選舉セシメ其ノ中ヨリ之ヲ勅任スヘシ

議長副議長ノ勅任セラル、マテハ書記官長議長ノ職務ヲ行フヘシ

第四條 各議院ハ抽籤法ニ依リ總議員ヲ數部ニ分割シ每部々長一名ヲ部員中ニ於テ互選スヘシ

第五條 兩議院成立シタル後勅命ヲ以テ帝國議會開會ノ日ヲ定メ兩院議員ヲ貴族院ニ會合セシメ開院式ヲ行フヘシ

第六條 前條ノ場合ニ於テ貴族院議長ハ議長ノ職務ヲ行フヘシ

第二章 議長書記官及經費

第七條 各議院ノ議長副議長ハ各々一員トス

第八條 衆議院ノ議長副議長ノ任期ハ議員ノ任期ニ依ル

第九條 衆議院ノ議長副議長辭職又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ闕位トナリタルトキハ繼任者ノ任期ハ仍前任者ノ任期ニ依ル

第十條 各議院ノ議長ハ其ノ議院ノ秩序ヲ保持シ議事ヲ整理シ院外ニ對シ議院ヲ代表ス

第十一條 議長ハ議會閉會ノ間ニ於テ仍其ノ議院ノ事務ヲ指揮ス

第十二條 議長ハ常任委員會及特別委員會ニ臨席シ發言スルコトヲ得但シ表決ノ數ニ預カラス

第十三條 各議院ニ於テ議長故障アルトキハ副議長之ヲ代理ス

第十四條 各議院ニ於テ議長副議長俱ニ故障アルトキハ假議長ヲ選舉シ議長ノ職務ヲ行ハシムヘシ

第十五條 各議院ノ議長副議長ハ任期滿限ニ達スルモ後任者ノ勅任セラル、マテハ仍ホ其ノ職務ヲ繼續スヘシ

第十六條 各議院ニ書記官長一人書記官數人ヲ置ク
第十七條 書記官長ハ勅任トシ書記官ハ奏任トス

書記官ハ議事録及其ノ他ノ文書案ヲ作り事務ヲ掌理ス
書記官ノ外他ノ必要ナル職員ハ書記官長之ヲ任ス

第十八條 兩議院ノ經費ハ國庫ヨリ之ヲ支出ス

第三章 議長副議長及議員歳費

第十九條 各議院ノ議長ハ歳費トシテ四千圓副議長ハ二千圓貴族院ノ被選及勅任議員及衆議院ノ議員ハ八百圓ヲ受ケ別ニ定ムル所ノ規則ニ從ヒ旅費ヲ受ク但シ召集ニ應セサル者ハ歳費ヲ受クルコトヲ得ス

議長副議長及議員ハ歳費ヲ辭スルコトヲ得ス
官吏ニシテ議員タル者ハ歳費ヲ受クルコトヲ得ス

第二十五條 協合ニ於テハ第一項歳費ノ外議院ノ定ムル所ニ依リ一日五圓ヨリ多カラサル手當ヲ受ク

第四章 委員

第二十條 各議院ノ委員ハ全院委員常任委員及特別委員ノ三類トス
全院委員ハ議院ノ全員ヲ以テ委員ト爲スモノトス

常任委員ハ事務ノ必要ニ依リ之ヲ數科ニ分割シ負擔ノ事件ヲ審査スル爲ニ各部ニ於テ同數ノ委員ヲ總議員中ヨリ選舉シ一會期中其任ニ在ルモノトス

特別委員ハ一事件ヲ審査スル爲ニ議院ノ選舉ヲ以テ特ニ付託ヲ受クルモノトス

第二十一條 全院委員長ハ一會期コトニ開會ノ始ニ於テ之ヲ選舉ス
常任委員長及特別委員長ハ各委員會ニ於テ之ヲ互選ス

第二十二條 全院委員會ハ議院三分ノ一以上常任委員會及特別委員會ハ其ノ委員半數以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第二十三條 常任委員會及特別委員會ハ議員ノ外傍聽ヲ禁ス但シ委員會ノ決議ニ由リ議員ノ傍聽ヲ禁スルコトヲ得

第二十四條 各委員長ハ委員會ノ經過及結果ヲ議院ニ報告スヘシ

第二十五條 各議院ハ政府ノ要求ニ依リ又ハ其ノ同意ヲ經テ議會閉會ノ間委員ヲシテ議案ノ審査ヲ繼續セシムルコトヲ得

第五章 會議

第二十六條 各議員ノ議長ハ議事日程ヲ定メテ之ヲ議院ニ報告ス
議事日程ハ政府ヨリ提出シタル議案ヲ先ニスヘシ但シ他ノ議事緊急ノ場合ニ於テ政府ノ同意ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス

第二十七條 法律ノ議案ハ三讀會ヲ經テ之ヲ議決スヘシ但シ政府ノ要求若クハ議員十人以上ノ要求ニ由リ議院ニ於テ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ可決シタルトキハ三讀會ノ順序ヲ省略スルコトヲ得

第二十八條 政府ヨリ提出シタル議案ハ委員ノ審査ヲ經スシテ之ヲ議決スルコトヲ得ス但シ緊急ノ場合ニ於テ政府ノ要求ニ由ルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條 凡テ議案ヲ發議シ及議院ノ會議ニ於テ議案ニ對シ修正ノ動議ヲ發スルモノハ二十人以上ノ賛成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

第三十條 政府ハ何時タリトモ既ニ提出シタル議案ヲ修正シ又ハ撤回スルコトヲ得

○第一編憲法○第三章議院法

第三十一條

凡テ議案ハ最後ニ議決シタル議院ノ議長ヨリ國務大臣ヲ經由シテ之ヲ奏上スヘシ但シ兩議院ノ一ニ於テ提出シタル議案ニシテ他ノ議院ニ於テ否決シタルトキハ第五十四條第二項ノ規定ニ依ル

十八

第三十二條 兩議院ノ議決ヲ經テ奏上シタル議案ニシテ裁可セラル、モノハ次ノ會期マテニ公布セラルヘシ

第六章 停會閉會

第三十三條 政府ハ何時タリトモ十五日以内ニ於テ議院ノ停會ヲ命スルコトヲ得

議院停會ノ後再ヒ開會シタルトキハ前會ノ議事ヲ繼續スヘシ

第三十四條 衆議院ノ解散ニ依リ貴族院ニ停會ヲ命シタル場合ニ於テハ前條第二項ノ例ニ依ラス

第三十五條 帝國議會閉會ノ場合ニ於テ議案建議請願ノ議決ニ至ラサルモノハ後會ニ繼續セス但シ第二十五條ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第三十六條 閉會ハ勅命ニ由リ兩議院合會ニ於テ之ヲ舉行スヘシ

第七章 秘密會議

第三十七條 各議院ノ會議ハ左ノ場合ニ於テ公開ヲ停ムルコトヲ得

一 議長又ハ議員十人以上ノ發議ニ由リ議院之ヲ可決シタルトキ

二 政府ヨリ要求ヲ受ケタルトキ

第三十八條 議長又ハ議員十人以上ヨリ秘密會議ヲ發議シタルトキハ議長ハ直ニ傍聽人ヲ退去セシメ討論ヲ用サスシテ可否ノ決ヲ取ルヘシ

第三十九條 秘密會議ハ履行スルコトヲ許サス

第八章 豫算案ノ議定

第四十條 政府ヨリ豫算案ヲ衆議院ニ提出シタルトキハ豫算委員ハ其ノ院ニ於テ受取リタル日ヨリ十五日以内ニ審査ヲ終リ議院ニ報告スヘシ

第四十一條 豫算案ニ就キ議院ノ會議ニ於テ修正ノ動議ヲ發スルモノハ三十人以上ノ贊成アルコト非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

第九章 國務大臣及政府委員

第四十二條 國務大臣及政府委員ノ發言ハ何時タリトモ之ヲ許スヘシ但シ之カ爲ニ議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ得ス

第四十三條 議院ニ於テ議案ヲ委員ニ付シタルトキハ國務大臣及政府委員ハ何時タリトモ委員會ニ出席シ意見ヲ述フルコトヲ得

第四十四條 委員會ハ議長ヲ經由シテ政府委員ノ説明ヲ求ムルコトヲ得

第四十五條 國務大臣及政府委員ハ議員タル者ヲ除ク外議院ノ會議ニ於テ表決ノ數ニ預カラス

第四十六條 常任委員會又ハ特別委員會ヲ開クトキハ每會委員長ヨリ其ノ主任ノ國務大臣及政府委員ニ報知スヘシ

第四十七條 議事日程及議事ニ關ル報告ハ議員ニ分配スルト同時ニ之ヲ國務大臣及政府委員ニ送付スヘシ

第十章 質問

第四十八條 兩議院ノ議員政府ニ對シ質問ヲ爲サムトスルハ三十人以上ノ贊成者アルヲ要ス

質問ハ簡明ナル主意書ヲ作り贊成者ト共ニ連署シテ之ヲ議長ニ提出スヘシ

第四十九條 質問主意書ハ議長之ヲ政府ニ轉送シ國務大臣ハ直ニ答辯ヲ爲シ又ハ答辯スヘキ期日ヲ定メ若答辯ヲ爲サ、ルトキハ其ノ理由ヲ示明スヘシ

第五十條 國務大臣ノ答辯ヲ得又ハ答辯ヲ得サルトキハ質問ノ事件ニ付議員ハ建議ノ動議ヲ爲スコトヲ得

第十一章 上奏及建議

第五十一條 各議院上奏セムトスルトキハ文書ヲ奉呈シ又ハ議長ヲ以テ總代トシ謁見ヲ請ヒ之ヲ

○第一編憲法○第三章議院法

十九

奉呈スルコトヲ得

各議院ノ建議ハ文書ヲ以テ政府ニ呈出スヘシ

第五十二條 各議院ニ於テ上奏又ハ建議ノ動議ハ三十人以上ノ賛成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

第十二章 兩議員關係

第五十三條 豫算ヲ除ク外政府ノ議案ヲ付スルハ兩議院ノ内何レヲ先コスルモ便宜ニ依ル

第五十四條 甲議院ニ於テ政府ノ議案ヲ可決シ又ハ修正シテ議決シタルトキハ乙議院ニ之ヲ移スヘシ乙議院ニ於テ甲議員ノ議決ニ同意シ又ハ否決シタルトキハ之ヲ奏上スルト同時ニ甲議院ニ通知スヘシ

乙議院ニ於テ甲議院ノ提出シタル議案ヲ否決シタルトキハ之ヲ甲議院ニ通知スヘシ

第五十五條 乙議院ニ於テ甲議院ヨリ移シタル議案ニ對シ之ヲ修正シタルトキハ之ヲ甲議院ニ回付スヘシ甲議院ニ於テ乙議院ノ修正ニ同意シタルトキハ之ヲ奏上スルト同時ニ乙議院ニ通知スヘシ若シ之ニ同意セサルトキハ兩院協議會ヲ開クコトヲ求ムヘシ

甲議院ヨリ協議會ヲ開クコトヲ求ムルトキハ乙議院ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十六條 兩院協議會ハ兩議院ヨリ各十人以下同數ノ委員ヲ選舉シ會同セシム委員ノ協議案成立スルトキハ議案ヲ政府ヨリ受取り又ハ提出シタル甲議院ニ於テ先ツ之ヲ議シ次ニ乙議院ニ移スヘシ

協議會ニ於テ成立シタル成案ニ對シテハ更ニ修正ノ動議ヲ爲スコトヲ許サス

第五十七條 國務大臣政府委員及各議院ノ議長ハ何時クリトモ兩院協議會ニ出席シテ意見ヲ述フルコトヲ得

第五十八條 兩院協議會ハ傍聽ヲ許サス

第五十九條 兩院協議會ニ於テ可否ノ決ヲ取ルハ無名投票ヲ用キ可否同數ナルトキハ議長ノ決

ル所ニ依ル

第六十條 兩院協議會ノ議長ハ兩議院協議委員ニ於テ各一員ヲ互選シ每會更代シテ席ニ當ラシムヘシ其ノ初會ニ於ケル議長ハ抽籤法ヲ以テ之ヲ定ム

第六十一條 本章ニ定ムル所ノ外兩議院交渉事務ノ規程ハ其ノ協議ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第十三章 請願

第六十二條 各議院ニ呈出スル人民ノ請願書ハ議員ノ紹介ニ依リ議院之ヲ受取ルヘシ

第六十三條 請願書ハ各議院ニ於テ請願委員ニ付シ之ヲ審査セシム

請願委員請願書ヲ以テ規程ニ合ハスト認ムルトキハ議長ハ紹介ノ議員ヲ經テ之ヲ却下スヘシ

第六十四條 請願委員ハ請願文書表ヲ作リ其ノ要領ヲ錄シ每週一回議院ニ報告スヘシ

請願委員特別ノ報告ニ依レル要求又ハ議員三十人以上ノ要求アルトキハ各議院ハ其ノ請願事件ヲ會議ニ付スヘシ

第六十五條 各議院ニ於テ請願ノ採擇スヘキコトヲ議決シタルトキハ意見書ヲ附シ其ノ請願書ヲ政府ニ送付シ事宜ニ依リ報告ヲ求ムルコトヲ得

第六十六條 法律ニ依リ法人ト認メラレタル者ヲ除ク外總代ノ名義ヲ以テスル請願ハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第六十七條 各議院ハ憲法ヲ變更スルノ請願ヲ受クルコトヲ得ス

第六十八條 請願書ハ總テ哀願ノ體式ヲ用ウヘシ若請願ノ名義ニ依ラス若ハ其ノ體式ニ違フモノハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第六十九條 請願書ニシテ皇室ニ對シ不敬ノ語ヲ用キ政府又ハ議院ニ對シ侮辱ノ語ヲ用キルモノハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第七十條 各議院ハ司法及行政裁判ニ干預スルノ請願ヲ受クルコトヲ得ス

第七十一條 各議院ハ各別ニ請願ヲ受ク互ニ相干預セス

○第一編憲法第三章議院法

第十四章 議院ト人民及官廳地方議會トノ關係

第七十二條 各議院ハ人民ニ向テ告示ヲ發スルコトヲ得ス
 第七十三條 各議院ハ審査ノ爲ニ人民ヲ召集シ及議員ヲ派出スルコトヲ得ス
 第七十四條 各議院ヨリ審査ノ爲ニ政府ニ向テ必要ナル報告又ハ文書ヲ求ムルトキハ政府ハ祕密ニシテモ之ヲ除外其ノ求ニ應スヘシ
 第七十五條 各議院ハ國務大臣及政府委員ノ外他ノ官廳及地方議會ニ向テ照會往復スルコトヲ得

第十五章 退職及議員資格ノ異議

第七十六條 衆議院ノ議員ニシテ貴族院議員ニ任セラレ又ハ法律ニ依リ議員タルコトヲ得サル職務ニ任セラレタルトキハ退職者トス
 第七十七條 衆議院ノ議員ニシテ選舉法ニ記載シタル被選ノ資格ヲ失ヒタルトキハ退職者トス
 第七十八條 衆議院ニ於テ議員ノ資格ニ付異議ヲ生シタルトキハ特ニ委員ヲ設ケ時日ヲ期シ之ヲ審査セシメ其ノ報告ヲ待テ之ヲ議決スヘシ
 第七十九條 裁判所ニ於テ當選訴訟ノ裁判手續ヲ爲シタルモノハ衆議院ニ於テ同一事件ニ付審査スルコトヲ得ス
 第八十條 議員其ノ資格ナキコトヲ證明セラル、ニ至ルマテハ議院ニ於テ位列及發言ノ權ヲ失ハス但シ自身ノ資格審査ニ關ル會議ニ對シテハ辯明スルコトヲ得ルモ其ノ表決ニ預カルコトヲ得

第十六章 請假辭職及補闕

第八十一條 各議院ノ議長ハ一週間ニ超エサル議員ノ請假ヲ許可スルコトヲ得其ノ一週間ヲ超ユルモノハ議院ニ於テ之ヲ許可スル期限ナキモノハ之ヲ許可スルコトヲ得ス
 第八十二條 各議院ノ議員ハ正當ノ理由ヲ以テ議長ニ届出スシテ會議又ハ委員會ニ關席スルコト

ヲ得ス

第八十三條 衆議院ハ議員ノ辭職ヲ許可スルコトヲ得
 第八十四條 何等ノ事由ニ拘ラス衆議院議員ニ關員ヲ生シタルトキハ議長ヨリ内務大臣ニ通牒シ

補闕選舉ヲ求ムヘシ

第十七章 紀律及警察

第八十五條 各議院開會中其ノ紀律ヲ保持セムカ爲内部警察ノ權ハ此ノ法律及各議院ニ於テ定ムル所ノ規則ニ從ヒ議長之ヲ施行ス
 第八十六條 各議院ニ於テ要スル所ノ警察官吏ハ政府之ヲ派出シ議長ノ指揮ヲ受ケシム
 第八十七條 會議中議員此ノ法律若ハ議事規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ルトキハ議長ハ之ヲ警戒シ又ハ制止シ又ハ發言ヲ取消サシム命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシムルコトヲ得
 第八十八條 議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得
 第八十九條 傍聽人議場ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ハ之ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ之ヲ警察官廳ニ引渡サシムルコトヲ得
 第九十條 傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシムルコトヲ得
 第九十一條 議場ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ國務大臣政府委員及議員ハ議長ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得

第九十二條 各議院ニ於テ皇室ニ對シ不敬ノ言語論說ヲ爲スコトヲ得ス
 第九十三條 各議院ニ於テ無禮ノ辭ヲ用サルコトヲ得ス及他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス
 第九十四條 議院又ハ委員會ニ於テ誹毀侮辱ヲ被リタル議員ハ之ヲ議院ニ訴ヘテ處分ヲ求ムヘシ私ニ報復スルコトヲ得ス

○第一編憲法○第三章議院法

第十八章 懲罰

第九十四條 各議院ハ其ノ議員ニ對シ懲罰ノ權チ有ス

第九十五條 各議院ニ於テ懲罰事犯チ審査スル爲ニ懲罰委員ヲ設ク

懲罰事犯アルトキハ議長ハ先ツ之ヲ委員ニ付シ審査セシメ議院ノ議ヲ經テ之ヲ宣告ス

各委員會又ハ各部ニ於テ懲罰事犯アルトキハ委員長又ハ部長ハ之ヲ議長ニ報告シ處分ヲ求ムヘ

第九十六條 懲罰ハ左ノ如シ

一 公開シタル議場ニ於テ罷責ス

二 公開シタル議場ニ於テ適當ノ謝辭ヲ表セシム

三 一定ノ時間出席ヲ停止ス

四 除名

衆議院ニ於テ除名ハ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ之ヲ決スヘシ

第九十七條 衆議院ハ除名ノ議員再選ニ當ル者ヲ拒ムコトヲ得ス

第九十八條 議員ハ二十人以上ノ贊成ヲ以テ懲罰ノ動議ヲ爲スコトヲ得

懲罰ノ動議ハ事犯アリシ後三日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第九十九條 議員正當ノ理由ナクシテ勅諭ニ指定シタル期日後一週間内ニ召集ニ應セサルニ由リ

又ハ正當ノ理由ナクシテ會議又ハ委員會ニ出席スルニ由リ若ハ請假ノ期限ヲ過キタルニ由リ議

長ヨリ特ニ招狀ヲ發シ其ノ招狀ヲ受ケタル後一週間内ニ仍故ナク出席セサル者ハ貴族院ニ於テ

ハ其ノ出席ヲ停止シ上奏シテ勅裁ヲ請フヘシ衆議院ニ於テハ之ヲ除名スヘシ

○第一節 貴族院令

○明治二十二年二月勅令第十一號

朕大日本帝國憲法ノ明文ニ依リ親密顧問ノ諮詢ヲ經テ貴族院令ヲ發布ス此ノ勅令ヲ實施スルノ時

御名 御璽

貴族院令

第一條 貴族院ハ左ノ議員ヲ以テ組織ス

一 皇族

二 公侯爵

三 伯子男爵各其ノ同爵中ヨリ選舉セラレタル者

四 國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル者ヨリ特ニ勅任セラレタル者

五 各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者ノ中ヨリ一人ヲ互選シテ勅

任セラレタル者

第二條 皇族ノ男子成年ニ達シタルトキハ議席ニ列ス

第三條 公侯爵中有スル者滿二十五歳ニ達シタルトキハ議員タルヘシ

第四條 伯子男爵中有スル者ニシテ滿二十五歳ニ達シ各其ノ同爵ノ選ニ當リタル者ハ七箇年ノ

任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ選舉ニ關ル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前項議員ノ數ハ伯子男爵各總數ノ五分ノ一ヲ超過スヘカラス

第五條 國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル滿三十歳以上ノ男子ニシテ勅任セラレタル者ハ終身議員シ

ルヘシ

第六條 各府縣ニ於テ滿三十歳以上ノ男子ニシテ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル

者十五人ノ中ヨリ一人ヲ互選シ其ノ選ニ當リ勅任セラレタル者ハ七箇年ノ任期ヲ以テ議員タル

ヘシ其ノ選舉ニ關ル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○第一編憲法○第三編議院法附錄○第一節

第七條 國家ニ勸勞アリ又ハ學識アル者及谷府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付キ多額ノ直接國稅

ヲ納ムル者ヨリ勸任セラレタル議員ハ有爵議員ノ數ニ超過スルコトヲ得ス

第八條 貴族院ハ天皇ノ諮詢ニ應ヘ垂族ノ特權ニ關ル條規ヲ議決ス

第九條 貴族院ハ其ノ議員ノ資格及選舉ニ關ル爭訟ヲ判決ス其ノ判決ニ關ル規則ハ貴族院ニ於テ

之ヲ議定シ上奏シテ裁可ヲ附フヘシ

第十條 議員ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ身代限ノ處分ヲ受ケタル者アルトキハ勸命ヲ以

テ之ヲ除名スヘシ

貴族院ニ於テ懲罰ニ由リ除名スヘキ者ハ議長ヨリ上奏シテ勸裁ヲ請フヘシ

除名セラレタル議員ハ更ニ勸許アルコト非サレハ再ヒ議員トナルコトヲ得ス

第十一條 議長副議長ハ議員中ヨリ七箇年ノ任期ヲ以テ勸任セラルヘシ

被選議員ニシテ議長又ハ副議長ノ任命ヲ受ケタルトキハ議員ノ任期間其ノ職ニ就クヘシ

第十二條 此ノ勸令ニ定ムルモノ、外ハ總テ議院法ノ條規ニ依ル

第十三條 將來此ノ勸令ノ條項ヲ改正シ又ハ増補スルトキハ貴族院ノ議決ヲ經ヘシ

第二節 貴族院事務局官制

○明治廿三年七月勸令第百二十一號

朕貴族院事務局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

貴族院事務局官制

第一條 貴族院事務局ノ職員ハ左ノ如シ

書記官長

書記官

試補

屬

十人

二人

二十人

第二條 書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ局中一切ノ事務ヲ監督ス

局中ノ分課及職員ノ配置ハ書記官長之ヲ定ム

第三條 書記官ハ書記官長ノ指揮監督ヲ承ケ議事記錄筆記印刷庶務會計等ニ關スル事務ヲ分掌ス

第四條 書記官長故障アルトキハ上席書記官其ノ職務ヲ代理ス

第五條 屬ハ判任トス書記官長ノ定ムル所ニ依リ各其ノ事務ニ從フ

○第三節 貴族院伯子男爵議院選舉規則

○明治廿二年六月勸令第七十八號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ貴族院伯子男爵議員選舉規則ヲ裁可シ之ヲ公布セシム此ノ勸令ヲ實施ス

ルノ時期ハ朕カ更ニ命スル所ニ依ルヘシ

御名 御璽

貴族院伯子男爵議員選舉規則

第一條 伯子男爵ヲ有スル成年以上ノ者ハ各其ノ同爵者ノ貴族院議員ヲ選舉ス

第二條 神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師ハ被選人タルコトヲ得ス

第三條 左ノ項ノ一ニ關ル、者ハ選舉人及被選人タルコトヲ得ス

一 瘋癲白癡ノ者

二 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レタル者

第四條 刑事ノ訴ヲ受ケ拘留又ハ保釋中ニ在ル者ハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ選舉權ヲ行フコトヲ

第一編憲法○第三卷議院法附錄○第三節第三節

得及被選人タルコトヲ得ス
 第五條 貴族院令第四條ニ依リ選ハルヘキ議員ノ數ハ選舉ヲ行フノ前勅命ヲ以テ之ヲ指定スヘシ
 第六條 爵位局長官ハ選舉ノ期日ヨリ五十日前ニ選舉資格ヲ有スル伯子男爵ノ人名簿ヲ各別ニ編製シ選舉資格ヲ有スル同爵者ニ配付シ三十日前ニ之ヲ確定シテ各選舉管理者ニ交付スヘシ
 第七條 選舉ハ伯子男爵ノ選舉資格ヲ有スル者ヨリ各一人ノ選舉管理者ヲ互選シテ之ヲ管理セシム

選舉管理者ハ貴族院令第四條ニ依リ議員ノ更任アル毎ニ之ヲ改選スヘシ
 選舉管理者ハ選舉及被選ノ權ヲ妨ケタルコトナシ

第八條 各選舉管理者ハ選舉人ノ中ヨリ各一其ノ同爵ノ選舉立會人三人以上ヲ指定シテ選舉會場ニ參會セシムヘシ

第九條 選舉ハ七月十日東京ニ於テ之ヲ行フ
 第十條 選舉人ハ自ラ選舉會場ニ至リ投票スヘシ

投票ハ被選人ノ爵姓名ヲ列記シ次ニ自己ノ爵姓名ヲ記載スヘシ
 第十一條 選舉人東京府ノ外ニ居住シ又ハ疾病事故ニ因リ選舉會場ニ至ルコト能ハサルトキハ同爵中ノ他ノ選舉人ニ投票ヲ委託スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ投票ヲ封緘シ其ノ表面ニ記名捺印シ委託ノ體狀ト共ニ委託ヲ受クル者ニ送付スヘシ

第十二條 投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス
 投票同數ナルトキハ生年月ノ長者ヲ以テ當選人トス同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十三條 前數條ニ掲ケタル者ノ外選舉ニ關ル一切ノ規程ハ選舉資格ヲ有スル伯子男爵ノ協議ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十四條 當選人確定シタルトキハ選舉管理者ハ其ノ爵姓名ヲ上奏シ併セテ貴族院議長ニ報告スヘシ

第十五條 選舉管理者ハ選舉明細書ヲ作り選舉ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ立會人ト共ニ署名捺印シ其ノ副本ヲ貴族院ニ送致スヘシ

第十六條 議員ニ關員ヲ生シタルトキハ議長ヨリ之ヲ上奏シ勅旨ヲ以テ補關選舉ヲ行フヘキコトヲ命ジ及其ノ期日ヲ指定スヘシ
 補關選舉ヲ行フノ手續ハ通常選舉ノ例ニ同シ

第十七條 補關議員ノ任期ハ前議員ノ任期ニ依ル

第十八條 貴族院令第九條ニ依リ貴族院ニ出訴スルノ期限ハ貴族院開會ノ後十日以内トス

第十九條 選舉ニ關ル費用ハ同爵者ノ支辨タルヘシ

○第四節 貴族院多額納稅者議員互選規則

○明治二十二年六月勅令第七十九號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ貴族院多額納稅者議員互選規則ヲ裁可シ之ヲ公布セシム此ノ勅令ヲ實施スルノ時期ハ朕カ更ニ命スル所ニ依ルヘシ

御 名 御 璽

貴族院多額納稅者議員互選規則

第一條 貴族院令第六條ニ依リ貴族院議員ヲ互選スル者ハ互選名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ府縣内ニ於テ本籍ヲ定メ住居シ多額ノ直接國稅ヲ納メ仍引續キ住居シ及納稅スル者タルヘシ

第二條 家督ニ由リ財産ヲ相續シタル者ハ其財産ニ付前財產主ノ納稅額ヲ以テ其ノ納稅資格ニ算

○第一編憲法○第三編職權附錄○第四節

第三條 神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師ハ互選人タルコトヲ得ス
第四條 左ノ項ノ一ニ關ル、者ハ互選人タルコトヲ得ス

一 癡癩白癡ノ者

二 公權ヲ剝奪セラレタル者又ハ停止中ノ者

三 禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

四 舊法ニ依リ懲役ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

五 賭博犯ニ由リ處刑ヲ受ケ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

六 衆議院議員ノ選舉ニ關ル犯罪ニ依リ選舉權及被選舉權ノ停止中ノ者

第五條 陸海軍軍人ハ現役中互選人タルコトヲ得ス其ノ休職停職ニ在ル者亦同シ

第六條 刑事ノ訴ヲ受ケ拘留又ハ保釋中ニ在ル者ハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ互選人タルコトヲ得ス

第七條 互選人選舉ニ關リ輕罪以上ノ罪ヲ犯シタルトキハ互選名簿ヨリ除名セラルヘシ

第八條 府縣知事ハ選舉ヲ行フノ年四月一日テ斯トシ其ノ府縣ニ於テ互選資格ヲ有スル者十五人ノ名簿ヲ調製スヘシ

互選名簿ハ互選人ノ姓名、職業、身分、住所、生年月、土地或ハ工業商業ニ付納ムル所ノ直接國稅ノ細別及總額並ニ納稅地ヲ記載スヘシ

第九條 納稅同額ノ者アルトキハ生年月ノ長者ヲ先ニシ同年月ノ者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十條 府縣知事ハ四月二十日マテ互選名簿ヲ各互選人ニ配付シ併セテ之ヲ管内ニ告示スヘシ

第十一條 互選資格ヲ得ヘキ者ニシテ自ラ互選名簿ニ記載セラレサルコトヲ發見シタルトキハ告示ノ後十五日以内ニ其ノ理由書及附憑ヲ具ヘテ府縣知事ニ申立ツルコトヲ得

凡テ互選資格ヲ得クル者ハ互選資格ヲ得ヘカラサル者ノ互選名簿ニ記載セラレタルコトヲ發見

シタルトキハ前項ノ手續ニ依リ改正ヲ求ムルコトヲ得

期限ヲ經過シタル後申立ヲ爲スモ其ノ効ナシ

第十二條 府縣知事前條ノ申立ヲ受ケタルトキハ之ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ判定スヘシ判定ノ結果ニ依リ名簿ヲ改正シタルトキハ其ノ由ヲ關係人ニ通知シ併セテ管内ニ告示スヘシ

第十三條 互選名簿ハ六月一日ヲ以テ確定期限トス

第十四條 選舉ハ六月十日府縣廳ニ於テ之ヲ行ヒ府縣知事又ハ其ノ代理者之ヲ管理ス

第十五條 府縣知事ハ投票ノ時刻ヲ定メ遅シトモ選舉ノ期日ヨリ七日前ニ各互選人ニ通知書ヲ發スヘシ

第十六條 互選人ハ自ラ選舉會場ニ至リ投票スヘシ

投票ハ被選人ノ姓名ヲ記載シ次ニ自己ノ姓名ヲ記載スヘシ

第十七條 互選人疾病事故ニ因リ選舉會場ニ至ルコト能ハサルトキハ醫師ノ診斷書又ハ事由書ヲ具ヘ投票ヲ封緘シ其ノ表面ニ記名捺印シテ之ヲ他ノ互選人ニ委託スルコトヲ得

第十八條 投票終ルノ後選舉管理者ハ互選人ノ面前ニ於テ投票ヲ點檢シ其ノ結果ヲ告知スヘシ但シ當選人其ノ場合ニ在ラサルトキハ又書ヲ以テ速ニ其ノ由ヲ本人ニ通知スヘシ

第十九條 投票効力ノ有無ニ付疑義アルトキハ選舉管理者之ヲ決定ス

第二十條 投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス

第二十一條 當選人ニシテ其ノ當選ヲ辭スルトキハ次ノ投票多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トスヘシ

當選人當選ヲ辭スルコトヲ得ルハ選舉ノ日ヨリ十日以内ニ限ル

第二十二條 當選人確定シタルトキハ府縣知事ハ當選人ノ資格及選舉ノ顛末ヲ錄シテ内閣總理大臣ニ報告スヘシ

第二十三條

選舉管理者ハ選舉明細書ヲ作り選舉ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ署名捺印シ其ノ副本

第二十四條

議員ニ關員ヲ生シタルトキハ議長ヨリ之ヲ上奏シ勅旨ヲ以テ補關選舉ヲ行フヘキコ

第二十五條

補關選舉ヲ行フノ時期及手續ハ通常選舉ノ例ニ同シ

第二十六條

貴族院令第九條ニ依リ貴族院ニ出訴スルノ期限ハ開會ノ後十日以内トス

第五節

貴族院伯子男爵多額納稅者議員選舉ノ件

○明治廿三年二月廿七日勅令無號

朕嘗ニ公布セシムル所ノ貴族院令並ニ貴族院伯子男爵議員選舉規則及貴族院多額納稅者議員互選規則ヲ本年ヨリ施行スルコトヲ命ス但シ未ダ一般ノ地方制度ヲ進行セサル北海道沖繩縣及小笠原島ニ於テハ仍貴族院多額納稅者議員互選規則施行ノ効力ヲ及ホサス

貴族院令第四條ニ依リ伯子男爵ハ本年ノ選舉期ニ於テ各左ノ員數ヲ選舉スヘシ

- 伯爵 十五人
- 子爵 七十人
- 男爵 二十人

第六節 貴族院議員資格及ヒ選舉爭訟判決規則

○明治二十三年十月勅令第二百二十一號

朕貴族院開會ノ始ニ於テ資格及選舉ニ關ル爭訟ヲ判決スルノ緊要ニ屬シ而シテ時ニ及テ自ラ其ノ規則ヲ定ムルノ困難ナルヲ顧念シ茲ニ勅令ニ由リ貴族院議員資格及選舉爭訟判決規則ヲ公布セシム此ノ勅令ハ貴族院ニ於テ規則ヲ制定シテ更ニ裁可ヲ經ルマテノ間效力ヲ有スヘシ

御名 御璽

貴族院議員資格及選舉爭訟判決規則

第一條 貴族院ハ每會期ノ始ニ於テ貴族院議員ノ資格及選舉ニ關ル爭訟ヲ審查スル爲ニ常任委員ヲ選舉スヘシ

第二條 伯子男爵議員ノ各選舉人又ハ多額納稅者議員ノ互選人貴族院令第九條ニ依リ出訴スル者ハ當選議員ヲ被告トスヘシ

第三條 原告人ハ訴狀及其ノ副本一通ヲ作り之ヲ議長ニ差出スヘシ議長訴狀ヲ受取リタルトキハ之ヲ資格審查委員ニ付ス

第四條 訴狀ニハ請求ノ要領理由及立證ヲ具ヘ原告人自ラ署名スヘシ

第五條 資格審查委員ハ訴狀ノ副本ヲ被告人ニ送達シ期日ヲ定メ被告人ヲシテ答辯書及其ノ副本一通ヲ差出サシメ其ノ副本ハ之ヲ原告人ニ送達スヘシ

委員ハ必要ト認ムルトキハ原告被告ヲシテ更ニ辯駁書及再答辯書ヲ差出サシムルコトヲ得

第六條 原告被告ハ郵便ヲ以テ文書ヲ差出スコトヲ得郵便到達ノ日數ハ期限ニ算入セズ

第七條 資格審查委員ハ議長ヲ經由シテ議員ノ選舉ニ關ル證憑文書ヲ政府ニ要求スルコトヲ得

第八條 審査ノ結果ニ因リ刑法ニ關ル、ノ事件ヲ發見シタルトキハ議長ヨリ之ヲ司法大臣ニ通告スヘシ但シ之ヲ爲ニ審査及判決ヲ中止セズ

第九條 被告人期日內ニ答辯書ヲ差出サ、ルトキハ資格審查委員ハ直チニ審査ノ結果ヲ報告スルコトヲ得

天災事變ニ因リ期日内ニ答辯書ヲ差出スコト能ハカリシコトヲ證明スル者アルトキハ議長ハ更ニ期日ヲ定メ之ヲ差出カシムルコトヲ得

第十條 資格審査委員其ノ審査報告ヲ議長ニ提出シタルトキハ議長之ヲ各議員ニ配付シタル後院議ニ付スヘシ

第十一條 議院ニ於テ判決シタルトキハ議長ハ書記官長ヲシテ其ノ議事録ニ依リ議決ノ謄本ヲ作ラシメ之ヲ原告被告ニ送達スヘシ

第十二條 貴族院ニ於テ議員ノ當選又ハ資格ヲ不法ト判決シタルトキハ議長ハ其ノ位列ヲ停止シテ奏上スヘシ

第十三條 被告議員ハ前條ノ判決ヲ受クルマテ議院ニ於テ位列及發言ノ權ヲ失ハス但シ自己ニ關ル争訟ニ付テハ自己又ハ他ノ議員ニ託シ辯明スルコトヲ得ルモ其ノ表決ニ預カラルコトヲ得ス

第十四條 補選議員ノ選舉開院中ニ在ルトキハ伯子男爵ニ在テハ當選確定ノ後多額納稅者ニ在テハ前項ノ期限ニ滿タヌシテ議院開會セラレ出訴スルコト能ハサルトキハ仍次會期ノ開會後十日以内ニ出訴スルコトヲ得

第十五條 議員他ノ議員ノ資格ニ對シ異議ヲ申立ツル者アルトキハ第三條第四條第五條第七條第九條第十條第十一條第十二條第十三條ノ例ニ依リ審査及判決スヘシ但シ此ノ場合ニ於テハ貴族院伯子男爵議員選舉規則第十八條及貴族院多額納稅者議員互選規則第二十六條ニ掲ケタル期限ノ限ニ在ラズ

第七節 貴族院議員互選規則取扱方

○明治二十三年三月内務省訓令第七號 府 縣(沖繩縣ヲ除ク)

明治二十二年(六月)勅令第七十九號貴族院多額納稅者議員互選規則取扱方左之通心得ラルヘシ

第一條 貴族院令第六條ニ滿三十歳トアルハ其選舉期日(六月十日)前滿三十歳ニ達スル者ヲ指ス

第二條 互選規則第一條ニ其府縣内ニ於テ本籍ヲ定メ住居トアルハ衆議院議員選舉法施行規則第二條ノ例ニ異ナラズ

第三條 互選規則第一條ニ多額ノ直接國稅トアルハ地租及土地又ハ工業商業ノ利益ヨリ生スル所得納稅額而已ヲ合算シテ名簿調製ノ期日(四月一日)前滿一年以上多額ノ直接國稅ヲ納メ仍引續キ納ムルモノヲ云フ

第四條 買賣讓與ニ依リ土地所有權移轉ノ場合ニ於テ其所有ノ年限及質入地ノ地租及數人共有ノ土地ヨリ納ムル地租ノ計算方及互選規則第三條ニ神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師トアルハ凡テ衆議院議員選舉法施行規則第三條第二項及同則第四條第五條第九條ノ例ニ異ナラズ

第五條 貴族院令第六條ニ多額ノ直接國稅ヲ納ムル者トアル中コハ華族(公侯爵)當主ヲモ包含ス

第六條 貴族院令第六條ニ云フ其選ニ當リ勅任セラレタル者ハ其任期中納稅額ノ減スルコトアルモ同令第十條ノ場合ニアラザレハ其議員ノ資格ヲ失ハサルハ勿論ナリトス

第七條 互選ニ關スル費用ハ府縣廳費ノ支辨ニ屬ス

第八節 貴族院并衆議院成立規則

○明治二十三年十月勅令第二百二十號

朕帝國議會初度ノ召集ニ際シ議院時ニ及テ自ラ其ノ規則ヲ定ムルノ困難ナルヲ顧念シ茲ニ必要ヲ認メ爾議院ノ爲ニ假ニ成立規則ヲ公布セシメ成立ノ際各議院ヲシテ遵依スル所アラシム

○第一編憲法○第三章議院法附錄○第七節第八節

御名 御璽

貴族院成立規則

- 第一條 議員ハ召集ノ勅諭ニ指定シタル期日ノ午前九時貴族院ニ集會スヘシ
- 第二條 集會シタル議員ハ名刺ヲ事務局ニ通スヘシ
- 第三條 集會シタル議員總議員三分ノ一以上ニ充テタルトキハ議長ハ議長席ニ著クヘシ
- 第四條 議員ノ席次ハ皇族ヲ首席トシ其ノ席次ハ宮中ノ列次ニ依ル爵位ヲ有スル議員ヲ次席トシ其ノ席次ハ爵位次第二ニ依ル其ノ他ノ議員ノ席次ハ年齢ニ依リ同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム
- 第五條 議長ハ書記官ヲシテ抽籤セシメ總議員ヲ九部ニ配分シ各部ニ號數ヲ附ス均分スルコト能ハサルトキハ第一部ヨリ以下毎部一員ヲ加フヘシ
- 第六條 議長ハ每會期ニ之ヲ定ム
- 第七條 各部ハ部長ヲ管理者トシ無名投票ヲ以テ部員中ヨリ部長一名ヲ互選シ其ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス
- 第八條 各部ハ部長ヲ管理者トシ無名投票ヲ以テ部員中ヨリ部長一名ヲ互選シ其ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス
- 第九條 各部ハ部員中ヨリ理事一名ヲ互選ス
- 第十條 理事ハ部長ヲ輔ケ部長故障アルトキハ之ヲ代理スヘシ
- 第十一條 部員定マリタルトキハ議長ハ議院成立ノ由テ政府及衆議院ニ通報スヘシ

衆議院成立規則

- 第一條 議員ハ召集ノ勅諭ニ指定シタル期日ノ午前九時衆議院ニ集會スヘシ
- 第二條 集會シタル議員ハ當選證書ト俱ニ名刺ヲ事務局ニ通スヘシ書記官ハ當選人名簿ニ各員ノ當選證書ヲ對照スヘシ
- 第三條 午前十時ニ至リ集會者總議員三分ノ一ニ充テタルトキハ書記官長ハ議員ヲシテ議長候補者ノ選舉ヲ行ハシムヘシ
- 第四條 議長候補者ノ選舉ハ無名投票ヲ以テシ候補者三名ヲ連記スヘシ
- 第五條 議員ハ點呼ニ應ジ議長席ノ前ニ設ケタル投票函ニ投票ヲ投入シ其ノ名刺ヲ名刺函ニ投入スヘシ
- 現在議員投票ヲ終リタルトキハ書記官長ハ投票函ノ閉鎖ヲ宣告スヘシ閉鎖宣告ノ後ハ投票スルコトヲ許サス
- 第六條 投票終リタルトキハ書記官長、書記官ト俱ニ議員ノ面前ニ於テ投票ノ數ヲ計算シ投票ノ數名刺ノ數ニ超過シタルトキハ更ニ投票ヲ行ハシムヘシ
- 第七條 投票ノ點檢終リタルトキハ書記官長各候補者ノ得點ヲ議員ニ報告シ投票ノ過半数ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス
- 第八條 投票ノ過半数ヲ得タル者ナキトキ又ハ過半数ヲ得タル者三人ニ滿タサルトキハ最多數ノ投票ヲ得タル者ニ就キ選舉スヘキ定員ノ倍數ヲ取り決選投票ヲ行ヒ過半数ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス
- 同數者二人以上アルトキハ年長ヲ取り同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム
- 第九條 當選人ニシテ當選ヲ辭スル者アルトキハ更ニ其ノ選舉ヲ行フヘシ
- 第十條 議長候補者ノ選舉終リタルトキハ副議長候補者ノ選舉ヲ行フヘシ
- 副議長候補者ノ選舉ハ議長候補者選舉ノ例ニ同シ
- 第十一條 議長候補者ハ副議長候補者ニ選舉セラル、コトヲ得

○第一編憲法○第三卷議院法附錄○第八節

第十二條 選舉ニ付キ疑義ヲ生スルトキハ書記官長ハ集會シタル議員ニ諮ヒ之ヲ決スヘシ 三十八

第十三條 議長副議長ノ候補者定マリタルトキハ書記官長ハ内閣總理大臣ヲ經由シテ之ヲ奏上スヘシ

第十四條 議長副議長任命ノ翌日午前九時議員ハ議場ニ集會スヘシ

第十五條 書記官長ハ議長及副議長ヲ議院ニ紹介シ議長ヲ導キテ議長席ニ著カシムヘシ

第十六條 議長ハ議長席ニ著キタルノ後書記官ヲシテ抽籤セシメ總議員ノ議席及部屬ヲ定ム

第十七條 議員ノ部屬ハ每會期ニ之ヲ定メ各席ニ號數ヲ付ス

第十八條 總議員ヲ九部ニ配分シ均分スルコト能ハサルトキハ第一部ヨリ以下每部一員ヲ加フヘシ

第十九條 臨時會ニ於テハ前會ノ議席及部屬ヲ繼續スヘシ

第二十條 各部ハ年長部員ヲ以テ管理者トシ無名投票ヲ以テ部員中ヨリ部長一名ヲ互選シ其ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス

第二十一條 部長ハ部ノ事務ヲ整理ス

第二十二條 各部ハ部員中ヨリ理事一名ヲ互選ス

第二十三條 理事ハ部長ヲ輔ケ部長故障アルトキハ之ヲ代理スヘシ

第二十四條 議席及部屬定マリタルトキハ議長ハ議院成立ノ由ヲ政府及貴族院ニ通報スヘシ

第二十五條 議員一任期ノ第二會期以下ニ於テハ召集ノ期日午前十時ニ至リ議員總數三分ノ一ニ充テタルトキハ議席及部屬ヲ定メタル後議院成立ノ由ヲ政府及貴族院ニ通報スヘシ

○明治廿三年七月勅令第百二十二號
朕衆議院事務局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

○第九節 衆議院事務局官制

御名 御璽

衆議院事務局官制

第一條 衆議院事務局ノ職員ハ左ノ如シ

書記官長

書記官

試補

屬

十人

二人

二十人

第二條 書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ局中一切ノ事務ヲ監督ス

第三條 局中ノ分課及職員ノ配置ハ書記官長之ヲ定ム

第四條 書記官ハ書記官長ノ指揮監督ヲ承ケ議事記錄筆記印刷庶務會計等ニ關スル事務ヲ分掌ス

第五條 書記官長故障アルトキハ上席書記官其ノ職務ヲ代理ス

第六條 局ハ判任トス書記官長ノ定ムル所ニ依リ各其ノ事務ニ従フ

○第十節 衆議院議員選舉法

○明治二十二年二月法律第三號

○第一編憲法○第三章議院法附錄○第九節第十節

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ衆議院議員選舉法及附録ヲ裁可シ之ヲ公布セシメ併セテ帝國議會ヲ召集
スルノ年ヨリ本法ニ依リ選舉ヲ施行セシムヘキコトヲ命ス

御名 御璽

衆議院議員選舉法

第一章 選舉區畫

第一條 衆議院ノ議員ハ各府縣ノ選舉區ニ於テ之ヲ選舉セシム其ノ選舉區及各選舉區ニ於テ選舉
スヘキ定員ハ此ノ法律ノ附録ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 府縣知事ハ其ノ府縣ノ選舉區ノ選舉ヲ監督ス

一 選舉區ノ選舉ハ郡長又ハ市長其ノ選舉長トナリ之ヲ管理ス

第三條 一 選舉區ニシテ數郡市ニ涉ルトキハ府縣知事ハ其ノ郡長又ハ市長ノ一人ヲ命シ選舉長ト
ラシムヘシ

第四條 一市ノ域内ニ於テ數選舉區アルトキハ府縣知事ハ區長ヲシテ其ノ選舉長トラシムヘシ

第五條 選舉ニ關ル費用ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘシ

第二章 選舉人ノ資格

第六條 選舉人ハ左ノ資格ヲ備フルコトヲ要ス

第一 日本臣民ノ男子ニシテ年滿二十五歲以上ノ者

第二 選舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ府縣内ニ於テ本籍ヲ定メ住居シ仍引續キ住
居スル者

第三 選舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ府縣内ニ於テ直接國稅十五圓以上ヲ納メ仍
引續キ納ムル者

但シ所得稅ニ付テハ人名簿調製ノ期日ヨリ前滿三年以上之ヲ納メ仍引續キ納ムル者ニ限
ル

第七條 家督ニ由リ財產ヲ相續シタル者ハ其ノ財產ニ付前財產主ノ納稅額ヲ以テ其ノ納稅資格ニ
算入ス

第三章 被選人ノ資格

第八條 被選人タルコトヲ得ル者ハ日本臣民ノ男子滿三十歲以上ニシテ選舉人名簿調製ノ期日ヨ
リ前滿一年以上其ノ選舉府縣内ニ於テ直接國稅十五圓以上ヲ納メ仍引續キ納ムル者タルヘシ
但シ所得稅ニ付テハ人名簿調製ノ期日ヨリ前滿三年以上之ヲ納メ仍引續キ納ムル者ニ限
ル

第九條 宮内官裁判官會計検査官收稅官及警察官ハ被選人タルコトヲ得ス

前項ノ外ノ官吏ハ其ノ職務ニ妨ケサル限ハ議員ト相兼スルコトヲ得

第十條 府縣及郡ノ官吏ハ其ノ管轄區域内ニ於テ被選人タルコトヲ得ス

第十一條 選舉ノ管理ニ關係スル市町村ノ吏員ハ其ノ選舉區ニ於テ被選人タルコトヲ得ス

第十二條 神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師ハ被選人タルコトヲ得ス

第十三條 府縣會ノ議員ニシテ衆議院ノ議員ニ選舉セラレ當選ヲ承諾シタルトキハ其ノ前職ヲ辭
スヘキモノトス

第四章 選舉人及被選人ニ通スル規定

第十四條 左ノ項ノ一ニ觸ル、者ハ選舉人及被選人タルコトヲ得ス

一 瘋癲白癡ノ者

二 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レサル者

三 公權ヲ剝奪セラレタル者又ハ停止中ノ者

四 禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

五 舊法ニ依リ一年以上ノ懲役若ハ國事犯禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ
經サル者

六 賭博犯ニ由リ處刑ヲ受ケ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

（第一編憲法）第三章 衆議院法附錄 第十節

七 選舉ニ關ル犯罪ニ由リ選舉權及被選舉權ノ停止中ノ者

四十二

第十五條 陸海軍軍人ハ現役中選舉權ヲ行フコトヲ得ス及被選人タルコトヲ得ス其ノ休職停職ニ在ル者亦同シ

第十六條 華族ノ當主ハ衆議院議員ノ選舉人及被選人タルコトヲ得ス

第十七條 刑事ノ訴ヲ受ケ拘留又ハ保釋中ニ在ル者ハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ選舉權ヲ行フコトヲ得ス及被選人タルコトヲ得ス

第五章 選舉人名簿

第十八條 選舉長ハ毎年四月一日ヲ期トシ各町村長ヲシテ一ノ投票區域内ニ於テ選舉資格ヲ有スル者ヲ調査シ人名簿二本ヲ調製シ同月二十日マテニ其ノ一本ヲ差出サシムヘシ
選舉人名簿ハ選舉人ノ姓名官位職業身分住所生年月納ムル所ノ直接國稅ノ總額並ニ納稅地ヲ記載スヘシ

第十九條 市ニ於テハ左ノ方法ニ依リ選舉人名簿ヲ調製スヘシ

第一 一市又ハ市内ノ一區ヲ以テ一選舉區ト爲シタル場合ニ於テハ選舉長其ノ人名簿ヲ調製スヘシ

第二 市内ニアル數區ヲ合シテ一選舉區ト爲シタル場合ニ於テハ各區長ヲシテ其ノ區内ノ人名簿ヲ調製シ選舉長ニ差出サシムヘシ

第三 郡市ヲ合シテ一選舉區ト爲シタル場合ニ於テ郡長其ノ選舉長トナリタルトキハ市長ヲシテ其ノ人名簿ヲ調製シ之ヲ差出サシムヘシ

第四 第三ノ場合ニ於テ市長其ノ選舉長トナリタルトキハ市長其ノ市内ノ人名簿ヲ調製スヘシ市長若ハ區長ノ職狀ヲ得テ選舉人名簿調製ノ期日マテニ其ノ投票管理スル町村長又ハ市長若ハ區長ニ差出スヘシ

第二十一條 選舉長ハ各町村長又ハ市長若ハ區長ヨリ差出シタル選舉人名簿ヲ合シ一選舉區ヲ以テ一冊トシ選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ備置キ其ノ副本ヲ府縣知事ニ送致スヘシ

第二十二條 選舉長ハ毎年五月五日ヨリ十五日間一選舉區選舉人名簿ノ寫ヲ其ノ選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ縦覽セシムヘシ

第二十三條 凡テ選舉資格アル者選舉人名簿ニ於テ人名ノ脱漏又ハ誤載アルコトヲ發見シタルトキハ其理由書及附憑ヲ具ヘテ縦覽期限内ニ選舉長ニ申立テ其ノ改正ヲ求ムルコトヲ得

第二十四條 選舉長ニ於テ脱漏ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ理由及附憑ヲ審査シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ判定スヘシ若シ其ノ申立ヲ以テ正當ナリト判定シタルトキハ直ニ其人

名ヲ記載シ其ノ由ヲ常人所在地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ選舉區内ニ告示スヘシ

第二十五條 選舉長ニ於テ誤載ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ理由及附憑ヲ審査シ必要ナル場合ニ於テハ申立人又ハ被告人ヲ召喚審問シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ判定スヘシ若シ誤

載ナリト判定シタルトキハ直ニ之ヲ削除シ其ノ由ヲ被告人所在地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ選舉區内ニ告示スヘシ

第二十六條 申立人又ハ被告人ニ於テ選舉長ノ判定ニ服セサルトキハ選舉長ヲ被告トシ判定ノ日ヨリ七日以内ニ始審裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十七條 始審裁判所ニ於テ前條ノ訴訟ヲ受取リタルトキハ他ノ訴訟ノ順序ニ拘ラス速ニ其ノ裁判ヲ爲スヘシ

第二十八條 前條ニ於ケル始審裁判所ノ裁判ハ控訴スルコトヲ許サス但シ大審院ニ上告スルコトヲ得

第二十九條 選舉人名簿ハ六月十五日ヲ以テ確定期限トシ次年ノ調製ノ日マテ之ヲ據置クヘシ但

○第一編 憲法 ○第三編 職權法附錄 ○第十節

四十三

シ裁判官渡書ニ依リ改正スヘキモノハ選舉長ニ於テ其ノ言渡書ヲ受取リタル時ヨリ二十四時内ニ之ヲ改正シ其ノ由ヲ申立人又ハ被告人所在地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ選舉區内ニ告示スヘシ

四十四

第六章 選舉ノ期日及投票所

第三十條 選舉ノ投票ハ通常七月一日ニ之ヲ行フ但シ衆議院解散ヲ命セテレタルトキハ勅令ヲ以テ臨時選舉ノ期日ヲ定メ少クトモ三十日以前ニ公布スヘシ

第三十一條 投票所ハ町村役場又ハ町村長ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ設ケ町村長之ヲ管理ス

第三十二條 一町村ニ於テ選舉人少數ニシテ一ノ投票所ヲ設ケルニ足ラサルトキハ數町村ヲ合併スルコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ郡長ハ府縣知事ノ認可ヲ經テ合併ノ町村及投票所并ニ投票所管理ノ町村長ヲ指定スヘシ

第三十三條 町村長ハ其ノ管理スル投票區域内ニ於ケル選舉人中ヨリ立會人二名以上五名以下ヲ定メ選ク此選舉ノ期日ヨリ三日以前ニ之ヲ本人ニ通知シ選舉ノ當日投票所ニ參會セシムヘシ

立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス

第七節 投票

第三十四條 投票ハ午前七時ニ始メ午後六時ニ終ル

第三十五條 投票函ハ二重ノ蓋ヲ造リ二種ノ鑰ヲ設ケ其ノ一ハ町村長之ヲ管守シ其ノ一ハ立會人ニ之ヲ管守スヘシ

第三十六條 町村長ハ投票ノ初ニ當リ立會人ト共ニ參會シタル選舉人ノ面前ニ於テ投票函ヲ開キ其ノ空虛ナルコトヲ示スヘシ

第三十七條 選舉人ハ選舉ノ當日日本人自ラ投票所ニ至リ選舉人名簿ノ對照ヲ經テ投票スヘシ

第三十八條 投票用紙ハ各府縣各々一定ノ式ヲ用テ選舉ノ當日投票所ニ於テ町村長ヨリ之ヲ各選舉人ニ交付スヘシ

選舉人ハ投票所ニ於テ投票用紙ニ被選人ノ姓名ヲ記載シ次ニ自己ノ姓名住所ヲ記載シテ捺印ス

第三十九條 選舉人ニシテ文字ヲ書スルコト能ハサル由ヲ申立ツルトキハ町村長ハ吏員ヲシテ代書セシメ之ヲ本人ニ讀ミ聞カセ捺印投票セシメ其ノ由ヲ投票明細書ニ記載スヘシ

第四十條 二人以上ノ議員ヲ選舉スヘキ選舉區ニ於テハ連名投票ヲ用ヅヘシ

第四十一條 選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ外投票スルコトヲ得ス但シ選舉人名簿ニ記載セラレヘキ裁判官渡書ヲ所持シ選舉ノ當日投票所ニ至ル者アルトキハ町村長ハ投票用紙ヲ交付シ投票セシメ其ノ由ヲ投票明細書ニ記載スヘシ

第四十二條 投票終ルノ時期ニ至リタルトキハ町村長ハ其ノ由ヲ告ケ投票函ヲ閉鎖スヘシ投票函閉鎖ノ後ハ總テ投票スルコトヲ許サス

第四十三條 町村長ハ投票明細書ヲ作り投票ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ立會人ト共ニ署名スヘシ

第四十四條 町村長ハ一名又ハ數名ノ立會人ト共ニ投票ノ翌日投票函及投票明細書ヲ併セテ選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ送致スヘシ

第四十五條 一選舉區内ニアル島嶼ニシテ前條ノ期限内ニ投票函ヲ送致スルコト能ハサル情況アルトキハ府縣知事ハ人名簿確定ノ日ヨリ選舉ノ期日マテノ間ニ於テ適宜ニ其ノ投票ノ期日ヲ定メ選舉會ノ期日マテニ其ノ投票函ヲ送致セシムルコトヲ得

第八章 選舉會

第四十六條 選舉會ハ選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ之ヲ開ク

第四十七條 選舉長ハ各投票所ヨリ參會シタル立會人ノ中ヨリ抽籤ヲ以テ選舉委員三名以上七名以下ヲ定ムヘシ

第四十八條 選舉長ハ投票函送達ノ翌日選舉委員立會ノ上各投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ

○第一編憲法○第三章議院法附錄○第十節

總數ト計算スヘシ若投票ト投票人トノ總數ニ差異ヲ生シタルトキハ其ノ由ヲ選舉明細書ニ記載スヘシ 四十六

第四十九條 總數ノ計算ヲ終リタルトキハ選舉長ハ選舉委員ト共ニ投票ヲ点檢スヘシ

第五十條 各選舉區ノ選舉人ハ其ノ選舉會ニ參觀ヲ求ムルコトヲ得

第五十一條 左ニ掲グル投票ハ無効トス
一 選舉人名簿ニ記載ナキ者ノ投票但シ裁判官渡書ヲ所持シタルニ依リ投票シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

二 成規ノ用紙ヲ用非サルモノ

三 選舉人自己ノ姓名ヲ記載セサルモノ

四 資格ナキ被選人ノ姓名ヲ記載スルモノ但シ連名投票ニ列記スル人員中資格アル者ニ付テハ其効アルモノトス

五 誤字又ハ汚染塗抹毀損ニ依リ記載スル所ノ選舉人又ハ被選人ノ姓名ヲ認知スヘカラサルモノ但シ通常ノ假名字ヲ用非又ハ誤字ニ係ルモノ明ニ其ノ姓名ヲ認知スルコトヲ得ルモノハ此ノ限ニ在ラス

六 第三十八條第二項ニ規定シタル外他ノ文字ヲ記載シタルモノ但シ被選人ノ指名ヲ誤ラサル爲ニ其ノ官位職業身分住所ヲ附記シ又ハ敬稱ヲ用非タルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五十二條 投票効力ノ有無ニ付疑義アルトキハ選舉委員ノ意見ヲ聞キ選舉長之ヲ決定ス此ノ決定ニ對シテハ選舉會場ニ於テ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第五十三條 無効ノ投票ハ抹線ヲ加ヘ其ノ由ヲ選舉明細書ニ記載シ一箇年間保存シ期限ヲ經過シタル後之ヲ燒棄スヘシ

第五十四條 一投票ニシテ其ノ選舉スヘキ定員ヨリ多キ被選人ノ姓名ヲ記載シタルトキハ其ノ定員ニ超ニタル人名ヲ末尾ヨリ除却スヘシ

連名投票ニシテ其ノ選舉スヘキ定員ニ足ラサルトキハ現ニ記載シタル者ノミヲ計算スヘシ但シ一人ノ姓名ヲ複記シタル者ハ一人トシテ之ヲ計算スヘシ

第五十五條 投票ハ六十日間郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ保存シ期限ヲ經過シタル後之ヲ燒棄スヘシ

第五十六條 選舉ニ關リ訴訟又ハ告訴告發アルトキハ第五十三條第五十五條ノ期限ヲ經過スルモ裁判確定ニ至ルマテ其ノ投票ヲ保存スヘシ

第五十七條 選舉長ハ選舉明細書ヲ作り選舉點檢ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ選舉委員ト共ニ署名シ之ヲ保存スヘシ

第九章 當選人

第五十八條 投票總數ノ最多數ヲ得タル者ハ之ヲ當選人トス

投票同數ナルトキハ生年月ノ長者ヲ以テ當選人トス同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第五十九條 當選人定マリタルトキハ選舉長ハ直ニ其ノ姓名及投票ノ數ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

第六十條 府縣知事前條ノ届出ヲ受ケタルトキハ各當選人ニ通知シ其ノ姓名ヲ管内ニ告示スヘシ

第六十一條 當選人當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

第六十二條 一人ニシテ數選舉區ノ當選人トナリタル者當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ何レノ當選區ノ當選ヲ承諾スル旨ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

第六十三條 當選人其ノ府縣内ニ在ル者ハ十日以内其ノ府縣外ニ在ル者ハ二十日以内ニ當選承諾ノ届出ヲ爲サ、ルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト見做スヘシ

第六十四條 當選人ニシテ其ノ當選ヲ辭シ又ハ期限内ニ其ノ當選ノ承諾ヲ届出サルトキハ府縣知事ハ選舉ノ期日ヲ定メ其ノ選舉長ニ命シ再ヒ選舉ヲ行ハシムヘシ但シ第五十八條第二項ノ場合ニ於テ抽籤ニ依リ當選ヲ得タル者其ノ當選ヲ辭シ又ハ其ノ承諾ヲ届出サルトキハ抽籤ニ依リ當

選ヲ失ヒタル者ヲ以テ當選人ト定ムヘシ
第六十五條 各選舉區ノ當選人確定シタルトキハ府縣知事ハ當選證書ヲ付與シ及管内ニ告示シ並ニ當選人ノ資格ヲ録シテ内務大臣ニ具申スヘシ

第十章 議員ノ任期及補選

第六十六條 議員ノ任期ハ四箇年トス但シ任期ヲ終リタル後仍選舉ニ應スルコトヲ得

第六十七條 議員ノ關員アルニ由リ内務大臣ヨリ補選選舉ヲ開クヘキ旨ヲ命セラレタルトキハ府縣知事ハ其ノ命ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ關員ノ選舉區ニ限リ臨時選舉ヲ行ヒ補選議員ヲ選舉セシムヘシ

第六十八條 補選議員ノ任期ハ前議員ノ任期ニ依ル

第十一章 投票所取締

第六十九條 投票管理ノ町村長ハ投票所ノ秩序ヲ保持シ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ニ付スルコトヲ得

第七十條 凡テ武器又ハ兇器ヲ携帯スル者ハ投票所ニ入ルコトヲ許サス

第七十一條 選舉人ニ非サル者ハ投票所ニ入ルコトヲ許サス

第七十二條 投票所ニ於テハ一切ノ演說討論及喧嘩ニ涉リ又ハ他人ノ投票ヲ勸誘スルコトヲ禁ス

第七十三條 投票所ニ於テ秩序ヲ紊ル者アルトキハ町村長ハ之ヲ警戒シ其ノ命ニ從ハサルトキハ之ヲ投票所ノ外ニ退出セシムヘシ

第七十四條 投票所ノ外ニ退出セシメタル者ハ犯罪者ヲ除ク外其ノ投票ヲ爲サシムル爲ニ再ヒ投票所ノ内ニ呼入ルコトヲ得

第七十五條 投票所ニ參會シタル選舉人ニシテ刑法又ハ此ノ法律ノ罰則ヲ犯シタル者ハ投票所ニ入ルコトヲ禁シ其ノ姓名事由ヲ投票明細書ニ記載スヘシ

第七十六條 投票ニ關ル異議ノ申立ニ付町村長ノ決定ニ對シテハ投票所ニ於テ不服ヲ申立ツルコトヲ得

トヲ得ス

第七十七條 選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ選舉會ノ參觀ヲ求ムル者ハ總テ第六十九條ヨリ第七十三條ニ至ルマテノ例ニ照シ選舉長之ヲ處分スヘシ

第十二章 當選訴訟

第七十八條 各選舉區ニ於テ當選ヲ失ヒタル者當選人ノ當選ヲ無効トスルノ理由アリト認ムルトキハ當選人ヲ被告トシ第六十五條ニ掲ケタル當選人ノ姓名告示ノ日ヨリ三十日以内ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得

其ノ期限ヲ經過シタル後出訴スルモ其ノ効ナシ

第七十九條 原告人ハ訴訟狀ト共ニ保證金トシテ金三百圓又ハ之ニ相當スル公債證書ヲ控訴院書記局ニ預置シヘシ

第八十條 原告人敗訴ノ場合ニ於テ裁判官渡ノ日ヨリ七日以内ニ一切ノ裁判費用ヲ納完セサルトキハ保證金ヨリ之ヲ控除シ仍足ラサルトキハ之ヲ追徴スヘシ

第八十一條 同一ノ當選人ニ對シ二人以上ノ原告人訴訟ヲ爲シタルトキハ控訴院ハ一ノ裁判官渡書ヲ以テ各訴訟人ニ宣告スルコトヲ得

第八十二條 審判中衆議院解散ノ命アルトキハ控訴院ハ其ノ訴訟ヲ棄却スヘシ

第八十三條 原告人訴訟ヲ願下シルハ同時ニ其由ヲ新聞紙又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公告スヘシ

第八十四條 控訴院ハ當選訴訟ヲ審判スルニ當リ本訴ニ關係スル刑法又ハ此ノ法律ノ犯罪者ニ對シ直ニ處刑ノ旨渡ヲ爲スコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ檢察官ヲシテ立會ハシムヘシ

當選訴訟ニ關係セサル場合ニ於ケル此ノ法律ノ犯罪者ハ所屬刑事裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス

第八十五條 控訴院ニ於テ當選訴訟ヲ判定シタルトキハ其ノ裁判官渡書ノ原本ヲ内務大臣ニ送付スヘシ若衆議院開會スルトキハ併セテ之ヲ議長ニ送付スヘシ

第八十六條 當選訴訟ニ付控訴院ノ裁判ニ對シテハ大審院ニ上告スルコトヲ得

○第一編 憲法 ○第三章 裁判法附錄 ○第十節

第八十七條

訴訟ノ目的タル當選人ハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ衆議院ニ列席スルノ權ヲ失ハス

第八十八條

當選訴訟ニ付本章ニ規定シタルモノ、外總テ普通ノ訴訟手續ニ依ル

第十三章 罰則

第八十九條 納税額年餘住所及其ノ他選舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シ選舉人名簿ニ記載セラレタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品手形若ハ公私ノ職務ヲ選舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十一條 直接又ハ間接ニ金錢物品手形若ハ公私ノ職務ヲ選舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シテ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ刑法第二百二十四條ノ例ヲ以テ論ス

第九十二條 約束ヲ受ケ投票ヲ爲シ又ハ投票ヲ爲サ、ル者亦同シ

第九十三條 選舉人ニ暴行ヲ加ヘテ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ三月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十四條 選舉人ヲ強逼シ又ハ投票所若ハ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若ハ劫奪スルノ目的ヲ以テ多衆ヲ嘯聚シタル者ハ六月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其ノ情ヲ知テ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

以下ノ罰金ヲ附加ス

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帶シタルトキハ各々本刑ニ一等ヲ加フ

第九十五條 選舉ノ際管理者又ハ立會人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ暴行ヲ以テ投票所若ハ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若ハ劫奪シタル者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帶シタルトキハ各々本刑ニ一等ヲ加フ

第九十六條 多衆ヲ嘯聚シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ重禁錮ニ處ス

其ノ情ヲ知テ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帶シタルトキハ各々本刑ニ一等ヲ加フ

第九十七條 演說又ハ新聞紙若ハ其ノ他ノ文書ヲ以テ人ヲ教唆シ前三條ノ罪ヲ犯サシメタル者ハ刑法第百五條ノ例ニ依ル其教唆ノ効ナキ者モ仍本刑ニ二等又ハ三等ヲ減シ處斷ス

第九十八條 戎器又ハ兇器ヲ携帶シテ投票所若ハ選舉會場ニ入りタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十九條 當選人ニ於テ第八十九條ヨリ第九十八條ニ至ルマテノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ當選ハ無効トス

第一百條 他人ノ姓名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲シタル者及第十四條ニ依リ選舉人タルコトヲ得サル者投票ヲ爲シタルトキハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百一條 前條ノ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ再ヒ罰金ノ刑ニ處セラレタル者ハ三年以上七年以下選舉權及被選舉權ヲ停止ス

第一百二條 立會人正當ノ事故ナシテ此ノ法律ニ規定シタル義務ヲ缺クトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百三條 本章ニ規定シタル罰則ノ外刑法ニ正條アルモノハ各々其ノ條ニ依リ重キニ從テ處斷ス

○第一編憲法○第三章國院法附錄○第十節

五十一

第百四條 凡テ選舉ニ關ル犯罪ハ六箇月ヲ以テ期滿免除トス

第百五條 此ノ罰則ハ第十一章ノ各條ト共ニ投票所及選舉會場ニ貼示スヘシ

第十四章 都則

第百六條 市ニ於テハ一市ニ一ノ投票所ヲ設ケ此ノ法律ニ規定シタル投票及選舉ノ管理ハ市長兼テ之ヲ掌ルヘシ

第百七條 前條ノ場合ニ於テハ一選舉區ニ一ノ投票所ヲ設ケ此ノ法律ニ規定シタル投票及選舉ノ管理ハ區長兼テ之ヲ掌ルヘシ

第百八條 島司ヲ置ク地方ニ於テハ此ノ法律ニ規定シタル選舉長ノ職務ハ島司之ヲ掌ルヘシ

第百九條 町村制ヲ施行セサル町村ニ於テハ此ノ法律ニ規定シタル町村長ノ職務ハ戶長之ヲ掌ルヘシ

第百十條 選舉人名簿調製ノ初年ニ限リ所得稅法施行以來第六條第八條ニ規定シタル納稅額ヲ引續キ納完シタル者ハ其ノ納稅資格ノ期限ニ充ツルモノト見做スヘシ

第百十一條 北海道沖繩縣及小笠原島ニ於テハ將來一般ノ地方制度ヲ進行スルノ時ニ至ルマテ此ノ法律ヲ施行セム

衆議院議員選舉法附錄

東京府

議員總數十二人

第一區	總町區麻布區赤阪區	一人
第二區	芝區	一人
第三區	京橋區	一人
第四區	日本橋區	一人
第五區	本所區深川區	一人
第六區	淺草區	一人
第七區	神田區	一人
第八區	下谷區本郷區	一人
第九區	小石川區牛込區四谷區	一人
第十區	東多摩郡南豐島郡北豐島郡	一人
第十一區	南足立郡南葛飾郡	一人
第十二區	荏原郡伊豆七島	一人
議員總數七人		七人
京都府		
第一區	上京區	一人
第二區	下京區	一人
第三區	愛宕郡葛野郡乙訓郡紀伊郡	一人
第四區	宇治郡久世郡相樂郡綴喜郡	一人
第五區	南桑田郡北桑田郡船井郡天田郡何鹿郡	二人
第六區	加佐郡與謝郡中郡竹野郡熊野郡	一人

○第一編憲法○第二章議院法附錄○第十節

大阪府

第一區

第二區

第三區

第四區

第五區

第六區

第七區

第八區

第九區

神奈川縣

第一區

第二區

第三區

第四區

第五區

第六區

兵庫縣

第一區

第二區

第三區

議員總數十人

西區

東區北區

南區

西成郡東成郡住吉郡

島上郡島下郡豐島郡能勢郡

茨田郡交野郡禮賢郡河內郡若江郡高安郡

石川郡八上郡古市郡安宿郡那都郡丹南郡志紀郡丹北郡大縣郡澁川郡

堺區大島郡泉郡

南郡日根郡

議員總數七人

橫濱區

久良岐郡橋樹郡都筑郡

南多摩郡西多摩郡北多摩郡

三浦郡鎌倉郡

高座郡愛甲郡津久井郡

大住郡洵綾郡足柄上郡足柄下郡

議員總數十二人

神戶區

武庫郡莵原郡川邊郡有馬郡

多紀郡水上郡

長崎縣

第一區

第二區

第三區

第四區

第五區

第六區

新潟縣

第一區

第二區

第三區

第四區

第五區

第六區

第七區

議員總數七人

長崎區西彼杵郡

東彼杵郡北高來郡

南高來郡

北松浦郡壹岐郡石田郡

南松浦郡

上縣郡下縣郡

議員總數十三人

新潟區西蒲原郡

北蒲原郡東蒲原郡澁船郡

中蒲原郡

南蒲原郡

古志郡三島郡

刈羽郡

北魚沼郡南魚沼郡中魚沼郡東頸城郡

○第一編憲法○職院法附錄○第十節

第八區
第九區
埼玉縣

中頸城郡西頸城郡
雜太郡加茂郡羽茂郡

議員總數八人

第一區
第二區
第三區
第四區
第五區
群馬縣

北足立郡新座郡
入間郡高麗郡橫見郡比企郡
南埼玉郡北葛飾郡中葛飾郡
北埼玉郡大里郡幡羅郡榛澤郡男衾郡
兒玉郡賀美郡那珂郡秩父郡

議員總數五人

第一區
第二區
第三區
第四區
第五區
千葉縣

東群馬郡南勢多郡利根郡北勢多郡
新田郡山田郡邑樂郡
佐位郡那波郡綠野郡多胡郡南甘樂郡
西群馬郡片岡郡吾妻郡
北甘樂郡碓冰郡

議員總數九人

第一區
第二區
第三區
第四區
第五區
第六區
第七區
茨城縣

千葉郡市原郡
東葛飾郡印旛郡下埴生郡南相馬郡
香取郡
海上郡匝埦郡
山邊郡武射郡
夷隅郡上埴生郡長柄郡
望陀郡厩准郡天羽郡

議員總數八人

第一區
第二區
第三區
第四區
第五區
第六區
栃木縣

安房郡平郡朝夷郡長狹郡
東茨城郡鹿島郡行方郡
多賀郡久慈郡那珂郡
西茨城郡眞壁郡
鹽田郡結城郡岡田郡西葛飾郡猿島郡
筑波郡新治郡
信太郡河內郡北相馬郡

議員總數五人

第一區
第二區
第三區
第四區
奈良縣

河內郡芳賀郡
上郡賀郡下郡賀郡塞川郡
安蘇郡足利郡梁田郡
鹽谷郡那須郡

議員總數四人

第一區
第二區
第三區
三重縣

添上郡添下郡山邊郡廣瀬郡平群郡
式上郡式下郡宇陀郡十市郡高市郡葛上郡葛下郡忍海郡
宇智郡吉野郡

議員總數七人

第一區
第二區
第三區
安濃郡一志郡
三重郡鈴鹿郡奄藝郡河曲郡
桑名郡員辨郡朝明郡

議員總數八人

○第一編憲法○第一章附屬法○第十節

愛知縣

第四區	飯高郡飯野郡多氣郡	一人
第五區	度會郡岩手郡英虞郡北牟婁郡南牟婁郡	一人
第六區	阿拜郡山田郡名張郡伊賀郡	一人
第一區	名古屋區	十二人
第二區	愛知郡	一人
第三區	東春日井郡西春日井郡	一人
第四區	丹羽郡栗栗郡	一人
第五區	中島郡	一人
第六區	海東郡海西郡	一人
第七區	知多郡	一人
第八區	碧海郡幡豆郡	一人
第九區	額田郡西加茂郡東加茂郡	一人
第十區	北設樂郡南設樂郡寶飯郡	一人
第十一區	渥美郡八名郡	一人
靜岡縣	議員總數八人	八
第二區	安倍郡有渡郡	一人
第三區	富士郡庵原郡	一人
第四區	志太郡益津郡	一人
第五區	榛原郡佐野郡城東郡	一人
	周智郡豐田郡山名郡磐田郡	一人

山梨縣

滋賀縣

岐阜縣

長野縣

第六區	長上郡敷知郡濱名郡引佐郡鹿玉郡	一人
第七區	那賀郡加茂郡君澤郡田方郡駿東郡	二人
第一區	西山梨郡北巨摩郡中巨摩郡	一人
第二區	東山梨郡南都留郡北都留郡	一人
第三區	東八代郡西八代郡南巨摩郡	一人
第一區	滋賀郡高島郡	一人
第二區	甲賀郡野洲郡栗太郡	一人
第三區	犬上郡愛知郡神崎郡蒲生郡	二人
第四區	西淺井郡東淺井郡伊香郡坂田郡	一人
第一區	議員總數五人	五
第一區	厚見郡方縣郡各務郡	一人
第二區	不破郡安八郡	一人
第三區	海西郡下石津郡多藝郡上石津郡羽栗郡中島郡	一人
第四區	大野郡池田郡本巢郡席田郡山縣郡	一人
第五區	武儀郡上郡	一人
第六區	加茂郡可兒郡土岐郡惠那郡	一人
第七區	大野郡益田郡吉城郡	一人
第一區	議員總數七人	七
第一區	上水內郡更級郡	一人
議員總數八人		八

○第一編憲法○第一章職院法○第十節

第二區	下水内郡上高井郡下高井郡	議員總數五人	一人
第三區	小縣郡植村郡	議員總數五人	一人
第四區	西筑摩郡東筑摩郡南安曇郡北安曇郡	議員總數五人	一人
第五區	南佐久北佐久郡	議員總數五人	一人
第六區	上伊那郡諏訪郡	議員總數五人	一人
第七區	下伊那郡	議員總數五人	一人
宮城縣	仙臺區名取郡宮城郡	議員總數五人	一人
第一區	柴田郡刈田郡伊具郡亙理郡	議員總數五人	一人
第二區	黒川郡加美郡志田郡玉造郡遠田郡	議員總數五人	一人
第三區	栗原郡登米郡	議員總數五人	一人
第四區	桃生郡牡鹿郡本吉郡	議員總數五人	一人
第五區	信夫郡伊達郡	議員總數七人	一人
福島縣	安達郡安積郡	議員總數七人	一人
第一區	田村郡巖瀬郡東白川郡西白河郡石川郡	議員總數七人	一人
第二區	南會津郡北會津郡大沼郡耶麻郡河沼郡	議員總數七人	一人
第三區	菊多郡磐前郡磐城郡檜葉郡標葉郡行方郡字多郡	議員總數七人	一人
第四區	南巖手郡北巖手郡紫波郡二戸郡	議員總數五人	一人
第五區	東閉伊郡中閉伊郡北閉伊郡南九戸郡北九戸郡	議員總數五人	一人
巖手縣			

第三區	柳貫郡東和賀郡西和賀郡西閉伊郡南閉伊郡	議員總數四人	一人
第四區	江刺郡膽澤郡氣仙郡	議員總數四人	一人
第五區	西磐井郡東磐井郡	議員總數四人	一人
青森縣	東津輕郡上北郡下北郡三戸郡	議員總數四人	一人
第一區	北津輕郡南津輕郡	議員總數四人	一人
第二區	中津輕郡西津輕郡	議員總數四人	一人
山形縣	南村山郡東村山郡西村山郡	議員總數六人	一人
第一區	東置賜郡南置賜郡西置賜郡	議員總數六人	一人
第二區	東海郡西田川郡東田川郡	議員總數六人	一人
第三區	最上郡北村山郡	議員總數六人	一人
秋田縣	南秋田郡	議員總數五人	一人
第一區	山本郡北秋田郡鹿角郡	議員總數五人	一人
第二區	河邊郡山利郡	議員總數五人	一人
第三區	仙北郡平鹿郡雄勝郡	議員總數五人	一人
福井縣	足羽郡大野郡	議員總數四人	一人
第一區	吉田郡阪井郡	議員總數四人	一人
第二區	南條郡今立郡丹生郡	議員總數四人	一人
第三區		議員總數四人	一人

○第一編憲法○第三章議院法附錄○第十節

石川縣

- 第一區 三方郡邊取郡大飯郡敦賀郡
- 第二區 金澤區石川郡
- 第三區 能美郡江沼郡
- 第四區 河北郡羽咋郡鹿島郡

議員總數六人

富山縣

- 第一區 上新川郡婦負郡
- 第二區 下新川郡
- 第三區 射水郡
- 第四區 瀨波郡

議員總數五人

鳥取縣

- 第一區 邑美郡法美郡巖井郡八上郡八東郡智頭郡
- 第二區 高草郡氣多郡河村郡久米郡八橋郡
- 第三區 汗入郡會見郡日野郡

議員總數三人

島根縣

- 第一區 島根郡秋鹿郡意宇郡
- 第二區 能義郡仁多郡大原郡飯石郡
- 第三區 出雲郡楯縫郡神門郡
- 第四區 瀨原郡安濃郡邑智郡
- 第五區 那賀郡美濃郡鹿足郡

議員總數六人

岡山縣

- 第一區 岡山區御野郡上道郡邑久郡兒島郡
- 第二區 津高郡赤坂郡繁梨郡和氣郡
- 第三區 都宇郡窪屋郡賀陽郡下道郡
- 第四區 淺口郡小田郡後月郡
- 第五區 上房郡川上郡哲多郡阿賀郡
- 第六區 真島郡大庭郡西條郡西北條郡東南條郡東北條郡
- 第七區 勝北郡勝南郡吉野郡英田郡久米北條郡久米南條郡

議員總數八人

廣島縣

- 第一區 廣島區安藝郡
- 第二區 佐伯郡
- 第三區 沼田郡高宮郡山縣郡
- 第四區 高田郡三次郡三谿郡
- 第五區 加茂郡
- 第六區 豐田郡
- 第七區 御調郡世羅郡
- 第八區 深津郡沼隈郡安那郡
- 第九區 葦田郡品治郡神石郡甲奴郡奴可郡三上郡惠蘇郡

議員總數十人

山口縣

- 第一區 吉敷郡美禰郡厚狹郡佐波郡

議員總數七人

○第一編憲法○第三卷議院法附錄○第十節

第二區 阿武郡見島郡大津郡
 第三區 赤間關區豐浦郡
 第四區 都濃郡熊毛郡大島郡
 第五區 玖珂郡

議員總數五人

和歌山縣

第一區 和歌山區名草郡海部郡有田郡
 第二區 伊都郡那賀郡
 第三區 日高郡西牟婁郡東牟婁郡

議員總數五人

德島縣

第一區 名東郡勝浦郡
 第二區 那賀郡海部郡
 第三區 名西郡阿波郡麻植郡
 第四區 板野郡
 第五區 美馬郡三好郡

議員總數五人

香川縣

第一區 香川郡山田郡小豆郡
 第二區 大內郡寒川郡三木郡
 第三區 鵜足郡阿野郡
 第四區 多度郡那珂郡
 第五區 豐田郡三野郡

議員總數七人

愛媛縣

高知縣

第一區 溫泉郡和氣郡風早郡野間郡久米郡伊豫郡下浮穴郡
 第二區 越智郡桑村郡周布郡
 第三區 喜多郡上浮穴郡
 第四區 新居郡宇摩郡
 第五區 西宇和郡東宇和郡
 第六區 南宇和郡北宇和郡

議員總數四人

福岡縣

第一區 土佐郡長岡郡
 第二區 幡多郡高岡郡吾川郡
 第三區 香美郡安藝郡

議員總數九人

大分縣

第一區 福岡區怡土郡志摩郡早良郡
 第二區 糟屋郡宗像郡那珂郡御笠郡席田郡上座郡下座郡夜須郡
 第三區 遠賀郡鞍手郡嘉麻郡穂波郡
 第四區 御井郡御原郡山本郡生葉郡竹野郡
 第五區 三潞郡上妻郡下妻郡
 第六區 山門郡三池郡
 第七區 企救郡田川郡
 第八區 京都郡仲津郡築城郡上毛郡

議員總數六人

○第一編憲法○第三章議院法附錄○第十節

第二區	北海部郡南海部郡	議員總數四人	人
第三區	大野郡直入郡	議員總數四人	人
第四區	速見郡玖珠郡日田郡	議員總數四人	人
第五區	西國東郡東國東郡	議員總數四人	人
第六區	下毛郡宇佐郡	議員總數四人	人
佐賀縣			
第一區	佐賀郡神崎郡小城郡基肄郡養父郡三根郡	議員總數八人	二
第二區	東松浦郡西松浦郡	議員總數八人	人
第三區	杵島郡藤津郡	議員總數八人	人
熊本縣			
第一區	珂本區飽田郡託麻郡宇土郡	議員總數八人	人
第二區	玉名郡	議員總數八人	人
第三區	山鹿郡山本郡菊池郡合志郡阿蘇郡	議員總數八人	人
第四區	上益城郡下益城郡	議員總數八人	人
第五區	八代郡葦北郡球磨郡	議員總數八人	人
第六區	天草郡	議員總數八人	人
宮崎縣			
第一區	宮崎郡北那珂郡南那珂郡兒湯郡	議員總數三人	人
第二區	北諸縣郡西諸縣郡東諸縣郡	議員總數三人	人
第三區	東臼杵郡西臼杵郡	議員總數三人	人
鹿兒島縣			
第一區	鹿兒島郡嶺山郡北大隅郡熊毛郡敷島郡	議員總數七人	人
第二區	給黎郡楳嶺郡穎娃郡川邊郡	議員總數七人	人
第三區	日置郡阿多郡	議員總數七人	人
第四區	高城郡出水郡南伊佐郡薩摩郡甑島郡	議員總數七人	人
第五區	菱刈郡始賀郡桑原郡西嶺郡北伊佐郡	議員總數七人	人
第六區	南諸縣郡南大隅郡肝風郡東嶺郡	議員總數七人	人
第七區	大島郡	議員總數七人	人

第一區	鹿兒島郡嶺山郡北大隅郡熊毛郡敷島郡	議員總數七人	人
第二區	給黎郡楳嶺郡穎娃郡川邊郡	議員總數七人	人
第三區	日置郡阿多郡	議員總數七人	人
第四區	高城郡出水郡南伊佐郡薩摩郡甑島郡	議員總數七人	人
第五區	菱刈郡始賀郡桑原郡西嶺郡北伊佐郡	議員總數七人	人
第六區	南諸縣郡南大隅郡肝風郡東嶺郡	議員總數七人	人
第七區	大島郡	議員總數七人	人

○第十一節 議會並議員保護ニ關スル罰則

○明治廿二年十一月法律第二十八號
朕議會並議員保護ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

第一條 法律ヲ以テ組織シタル議會ニ對シ公然誹毀侮辱シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス但議會ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第二條 前條議會ノ議員ニ對シ其公務上ノ言論行爲ニ付公然誹毀侮辱シタル者又ハ議員ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三條 議員其公務ヲ行フニ當リ暴行脅迫ヲ以テ其言論行爲ヲ妨害シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四條 議員ノ職ヲ辭セシムルノ目的又ハ其公務上ノ言論行爲ヲ妨害セントスル目的ヲ以テ議員ヲ脅迫シ又ハ恐喝シタル者ハ十一月以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

○第一編 憲法 ○第三章 議院法 附錄 ○第十一節

第五條 第二條第三條ノ罪ヲ犯シ因テ議員ヲ毆傷シタル者ハ刑法毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

六十八

○第十二節 衆議院議員選舉法施行規則

○明治廿三年一月勅令第三號
朕衆議院議員選舉法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

衆議院議員選舉法施行規則

- 第一條 選舉人ノ年齡ハ選舉期日(七月一日)ノ前滿二十五歲ニ達スルヲ以テ合格トス
- 第二條 選舉法第六條第二ニ掲グル住居ノ期限内ニ選舉人其ノ住居ヲ府縣外ニ移シ再ヒ其ノ本籍府縣ニ歸住シタルトキハ時日ノ長短ニ拘ラズ其ノ期限内中斷シタルモノトス但シ旅行中ノ滞在ハ中斷スルノ限ニ在ラズ
- 第三條 選舉人及被選人ノ納稅資格ハ地租ニ付テハ選舉人名簿調製期日(四月一日)ノ前滿一年以上十五圓以上ヲ納ムヘキ土地ヲ所有シ之ヲ納メ仍引續キ所有シ及納ムル者ヲ以テ合格トシ所得稅ニ付テハ選舉人名簿調製期日ノ前滿三年以上之上ヲ納メ仍引續キ納ムル者ヲ以テ合格トス
買賣讓與ニ依リ土地ノ所有權移轉ノ場合ニ於テ其ノ所有ノ年限ヲ算スルハ登記ノ日ニ依ルヘシ
滿三年以上所得稅ヲ納メ及滿一年以上地租ヲ納ムル者其ノ地租及所得稅ヲ併セ十五圓以上ニ及フトキハ納稅資格ヲ有スルモノトス但シ所得稅ヲ納ムル者毎年ノ納額ニ差異アルトキハ其ノ最少額ヲ以テ地租ニ併算スヘシ
- 第四條 賃入地ノ地租ハ其ノ地主ノ納稅資格ニ算入スヘシ
- 第五條 數人共有地ノ地租ハ之ヲ平分シ各個ノ納稅資格ニ算入ス但シ土地臺帳又ハ附屬帳簿ニ所

有權又ハ納稅負擔ノ割合ヲ記入シタルモノハ各其ノ割合ニ依ルヘシ
第六條 被選人ノ年齡ハ選舉期日ノ前滿三十歲ニ達スルヲ以テ合格トス
被選人家督ニ由リ財產ヲ相續シタル者ノ納稅資格ハ選舉法第七條ニ規定シタル選舉人ノ例ニ同シ

第七條 警視廳ノ官吏ハ選舉法第十條ノ例ニ依リ東京府内ニ於テ被選人タルコトヲ得ス
第八條 郡市ヲ合セ又ハ二郡以上ヲ以テ一選舉區ト爲シタル場合ニ於テハ選舉ノ管理ニ關係スル郡ノ官吏ハ選舉法第十一條ニ規定シタル市町村吏員ノ例ニ依リ其ノ選舉區内ニ於テ被選人タルコトヲ得ス

第九條 選舉法第十二條ニ掲ケタル神宮トハ神社ニ奉祀スルヲ職トスル者、僧侶及教師トハ教規若ハ宗制ニ從ヒ其ノ分限ヲ有スル者其ノ他何等ノ宗教ヲ問ハズ宣教ニ從事スル者ヲ謂フ
第十條 組合町村ニシテ一ノ町村役場ヲ置クトキハ其ノ組合町村ヲ以テ一投票區域トス
選舉法第十九條第一ノ場合ニ於テ一市又ハ市内ノ一區ヲ以テ一選舉區ト爲シタルトキハ其ノ選舉區ヲ以テ一投票區域トス

選舉法第十九條第二ノ場合ニ於テ市内ニ在ル數區ヲ合セテ一選舉區ト爲シタルトキハ其ノ選舉區ヲ以テ一投票區域トス
選舉法第十九條第三ノ場合ニ於テ郡市ヲ合セテ一選舉區ト爲シタルトキハ郡ハ町村ヲ以テ一投票區域トシ市ハ其ノ市ヲ以テ一投票區域トス

第十一條 選舉人名簿ニハ選舉人其ノ姓ノ伊呂波順ニ記載シ番號ヲ付スヘシ
第十二條 選舉人正當ノ事故ニ依リ選舉法第二十條ノ手續ヲ爲スコト能ハズシテ選舉人名簿ニ登録セラレサルトキハ其ノ第二十三條ノ例ニ依リ脱漏ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第十三條 選舉長ノ判定ニ對スル出訴若ハ始審裁判所ノ判決ニ對スル上告ノ爲ニ其ノ判定又ハ判決ノ執行ヲ停止セズ
第十四條 選舉人名簿確定ノ後選舉人其ノ投票區域外ニ轉住シタルトキハ前住地ノ投票所ニ於テ

○第一編憲法○第三卷附錄○第十二節

投票ヲ爲スヘシ

七十

第十五條 投票ヲ始ムル時刻ニ至リ立會人參會セサルトキハ投票所管理者ハ參會シタル選舉人中ヨリ更ニ立會人ヲ指定スヘシ

第十六條 投票所管理者ハ投票所入場券ヲ製シ廻シトモ投票期日ノ五日前ニ之ヲ各選舉人ニ配付スヘシ

入場券ノ配付ヲ受ケサル選舉人ハ之ヲ請求スルコトヲ得

此ノ規則第十四條ニ依リ投票ヲ爲サントスル者ハ前項ノ例ニ依リ入場券ヲ請求スルコトヲ得

第十七條 選舉人投票所ニ入ルトキハ入場券ヲ受付掛ニ差出スヘシ選舉人多數ナル投票所ニ於テハ必要ナルトキハ到着番號札ヲ受取ラシムヘシ

第十八條 選舉人入場券ヲ紛失シタルトキハ其ノ由ヲ受付掛ニ申立テ投票所管理者ノ承認ヲ得テ入場スルコトヲ得

第十九條 投票所管理者ハ選舉人ヲ呼出シ其ノ住所姓名ヲ自稱セシメ選舉人名簿ニ對照シ投票用紙ヲ交付スヘシ若到着番號札ヲ受取ラシメタル場合ニ於テハ到着番號ノ順序ニ從ヒ番號札ト引換ニ投票用紙ヲ交付スヘシ

第二十條 選舉人誤テ投票用紙ヲ汚染シタルトキハ更ニ之ヲ請求スルコトヲ得

第二十一條 投票ハ投票所管理者及立會人ノ面前ニ於テ選舉人自ラ之ヲ投票函ニ投入シ順次投票所ヨリ退出スヘシ

第二十二條 投票終ルノ時刻ニ至リタルトキハ投票所管理者ハ其ノ由ヲ宣告シ一時入口ヲ閉鎖セシメ參會シタル選舉人中未投票セサル者アルトキハ直ニ投票セシメタル後投票函ヲ閉鎖スヘシ

第二十三條 選舉長ハ各投票所ノ投票函總テ到達シタル翌日選舉法第四十八條ノ手數ヲ爲シ逐次投票ヲ開披點檢シテ選舉委員ニ付シ每票先ツ選舉人ノ姓名次ニ被選人ノ姓名ヲ附記セシメ書記

二名以上ヲシテ被選人ノ得點ヲ點數簿ニ記入セシムヘシ

第二十四條 投票點數ノ記入ヲ終リタルトキハ選舉長ハ各被選人ノ得點總數ヲ朗讀スヘシ

第二十五條 點檢濟ノ投票ハ其ノ有効無効ヲ區別シテ封緘シ選舉長ハ選舉委員ト共ニ之ニ捺印スヘシ

連名投票コシテ其ノ一部無効ナルモノハ無効投票ト共ニ保存スヘシ

第二十六條 天災若ハ其ノ他避クヘカラル事故ニ依リ投票ヲ行フコトヲ得ヌ又ハ選舉會ヲ開クコトヲ得サルトキハ投票所管理者及ハ選舉長ハ其ノ施行ヲ止メ府縣知事ニ其ノ由ヲ届出ヘシ

此ノ場合ニ於テハ府縣知事ハ期日ヲ定メ更ニ投票ヲ行ハシメ又ハ選舉會ヲ開カシムヘシ但シ其ノ期日ハ廻シトモ五日以前ニ投票區域内又ハ選舉區内ニ告示セシムヘシ

第二十七條 選舉法第五十八條第二項ノ場合ニ於テ生年月ノ差ニ依テ當選ヲ得タル者其ノ當選ヲ辭シ又ハ第六十三條ノ期限内ニ其ノ承諾ヲ届出サルトキハ生年月ノ差ニ依リ當選ヲ失ヒタル者ヲ以テ當選人ト定ムヘシ

第二十八條 選舉法第六十三條ニ掲ケタル届出ノ期限ハ第六十條ニ依リ當選人ノ姓名ヲ告示シタル日ヨリ起算スヘシ

第二十九條 選舉法第五十二條ノ選舉長ノ決定ニ對シ異議アル者又ハ第七十六條ノ投票所管理者ノ決定ニ對シ不服ナル者ハ始審裁判所ニ出訴スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ選舉法第二十六條ノ例ニ依ル

第三十條 選舉長及投票所管理者故障アルトキハ其ノ附屬ノ官吏又ハ吏員ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシムルコトヲ得

第十三節 衆議院議員選舉法罰則補則

○第一編憲法○第三編衆議院法附錄○第十三節

七十一

○明治廿三年五月法律第四十號

衆議院議員選舉法罰則補則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

衆議院議員選舉法罰則補則

第一條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若シハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ選舉會場又ハ投票所ノ近傍若シハ選舉人往來ノ途中ニ於テ選舉人ニ酒食ヲ供シ又ハ選舉會場若シハ投票所ニ往復スル爲車馬ノ類ヲ給シ及其供給ヲ受ケタル者又ハ選舉人ノ爲ニ選舉會場若シハ投票所ニ往復スル車馬賃又ハ路費若シハ休泊料ノ類ヲ代辨シ又代辨スルコトヲ約束シ及其代辨又ハ約束ヲ受ケタル者ハ衆議院議員選舉法第九十條ノ例ニ依リ處斷ス

第二條 第一條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉人ヲ脅逼シ誘引シ若シハ其往來ノ便ヲ妨ケ若シハ詐僞ノ手段ヲ以テ其選舉權ノ施行ヲ妨害シタル者ハ衆議院議員選舉法第九十二條ノ例ニ依リ處斷ス

本條ニ記載シタル所業ヲ爲シテ第一條ニ記載シタル目的ヲ達シタル者ハ衆議院議員選舉法第九十三條ノ例ニ依リ處斷ス

第三條 被選人タルコトヲ得ル者ヲ指シテ被選人タルコトヲ得ス又ハ當選ヲ承諾スルノ意ナシトノ虚報ヲ流傳セシメタル者ハ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四條 選舉會場又ハ投票所所在ノ郡市内ニ於テ選舉ノ氣勢ヲ張ル爲多衆集合シ若シハ隊伍ヲ組ミテ往來シ又ハ篝火松明ヲ焚キ若シハ鐘鼓法螺喇叭ノ類ヲ鳴ラシ旗幟其他ノ標章ヲ用キル等ノ所業ヲ爲シ警察官ノ制止ヲ受ケルモ仍其命ニ從ハサル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五條 第一條ニ記載シタル目的ヲ以テ根柢ノ類ヲ公然揭示シタル者ハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條 當選人第一條乃至第四條ニ依リ刑ニ處セラレタルトキハ衆議院議員選舉法第九十九條ノ例ニ依ル

第七條 本法ニ關スル犯罪ハ衆議院議員選舉法第四百條ノ例ニ依ル

○第十四節 衆議院議員選舉法事務取扱方

○明治廿三年一月內務省訓令第二號 府縣(郡縣縣ヲ除ク)

衆議院議員選舉法及選舉法施行規則ニ就テハ其事務及書式等左ノ各條ニ準據シ取扱フヘシ

第一條 衆議院議員選舉法第十八條ノ選舉人名簿ハ別紙第一號ノ式ニ依リ調製スヘシ

第二條 投票所管理者ハ選日トモ投票期日ノ五日前ニ投票所ヲ指定シ之ヲ其投票區域内ニ公告スヘシ

第三條 投票所管理者ハ選舉法第三十三條ニ依リ立會人ヲ定メ之ヲ本人ニ通知スルトキハ其指定シタル立會人ノ内若シ正當ノ事故ニ由リテ其職ヲ辭スル者アルモ仍ホ投票期日ノ三日前更ニ立會人ヲ指名スルコトヲ得ヘキ餘日ヲ存シテ之ヲ通知スヘシ但臨時已ムテ得サル事故ニ由リ投票期日ノ一兩日前ニ至リ其職ヲ辭スル者アルトキハ選舉法施行規則第十五條ニ依リ投票ノ當日投票所ニ參會シタル選舉人中ヨリ之ヲ指名スヘシト雖投票所管理者ハ豫メ其當日指名セントスル者ヲ定メ前以テ之ヲ本人ニ通牒シ置キ投票ヲ始ムル前ニ參會セシメ臨時指名スルニ差支ナカラシムルヲ要ス

第四條 投票用紙、投票函、入場券、及到著番號札、別紙第二號第三號第四號ノ式ニ依ルヘシ

第五條 投票所ハ寺院若シハ學校等ノ如キ可成門戸アル場所ヲ以テ投票所ニ充ツヘシ

第六條 投票所ノ開閉ハ樂柝又ハ鐘鼓ヲ以テ之ヲ報スヘシ

投票所ハ午前六時三十分ニ其門戸ヲ開キ午後六時ニ之ヲ閉ツヘシ

○第一編憲法○第三章議院法附錄○第十四節第十五節

第七條 投票所ハ別紙第五號甲乙ノ式ヲ標準トシ選舉人員ノ多少ニ依テ適宜之ヲ斟酌シ受付所、

第八條 午前七時ニ於テ投票所管理者ハ參會シタル選舉人ヲ投票用紙交付所ノ入口ニ招集シ選舉

法第三十六條ニ依リ立會人ト共ニ投票函ノ空虛ナルコトヲ選舉人ニ示シ且選舉人ノ面前ニ於テ

其第一蓋ノ錠ヲ卸シ之ヲ投票所管理者及立會人列席ノ卓上ニ置キタル後到着番號ノ順序ニ依リ

適宜選舉人數名ツ、チ呼出シ投票用紙交付所ニ入ラシメ選舉法施行規則第十九條ノ手續ヲ爲シ

第九條 選舉人ニ投票用紙ヲ交付シタルトキハ投票記載ノ爲ニ設ケタル卓上ニ於テ記載セシメ直

ニ投票ヲ爲サシムヘシ

投票記載ノ爲ニ設ケタル卓上ニハ呼入レタル各選舉人遲滯ナク記載シ得ル丈ニ數箇ノ筆視墨ヲ

備ヘ置クヘシ

第十條 選舉人出入ノ門戶及投票所出入口等ハ警察官吏又ハ特ニ設ケタル取締人ニ於テ取締ヲ爲

スヘシ

第十一條 投票函ヲ閉鎖スルトキハ直ニ其第二蓋ノ錠ヲ卸シ其第一蓋ノ錠ハ立會人ニ於テ保管シ

第十二條 投票明細書ハ別紙第六號書式ニ依リ之ヲ製スヘシ

第十三條 選舉法施行規則第二十三條ニ依リ被選人ノ得點ヲ記入スヘキ點數簿ハ別紙第七號ノ式

ニ依リ之ヲ調製シ其記入毎ニ之ヲ記入スル書記ノ一人共被選人ノ點數ヲ呼フヘシ

第十四條 選舉明細書ハ別紙第八號書式ニ依リ之ヲ製スヘシ

選舉明細書ハ副本ヲ製シ選舉人又ハ被選人ノ請求アリタルトキハ之ヲ閱覽セシムヘシ

第十五條 選舉法第六十五條ニ依リ府縣知事ヨリ當選人ニ付與スヘキ當選證書ハ別紙第九號ノ式

ニ依ルヘシ

第十六條 投票所ハ何郡(市區)何町村投票所ト記シ選舉會場ハ衆議院議員第何區選舉會場ト記シ

各其門戶ニ之ヲ掲クヘシ

書式ハ別ニ頒ツ(書式略ス)

第十七條 衆議院議員選舉法及貴族院令ニ於テ直接國稅ト稱スル種目ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

ル種目

○明治廿二年三月勅令第四十一號

朕衆議院議員選舉法及貴族院令ニ於テ直接國稅ト稱スル種目ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

勅令第四十一號

衆議院議員選舉法及貴族院令ニ於テ直接國稅ト稱スルモノ左ノ如シ

地租
所得稅

第四章 會計法

○明治二十二年二月法律第四號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ會計法ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

會計法

第一章 總則

第一條 政府ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

○第一編總法○第四章會計法

七十五

一會計年度所屬ノ歳入歳出ノ出納ニ關ル事務ハ翌年度十一月三十日マテニ悉皆完結スヘシ

第二條 租税及其ノ他一切ノ收納ヲ歳入トシ一切ノ經費ヲ歳出トシ歳入歳出ハ總豫算ニ編入スヘシ

第二章 豫算

第三條 各年度ニ於テ決定シタル經費ノ定額ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ經費ニ充ツルコトヲ得ス

第四條 各官廳ニ於テハ法律勅令ヲ以テ規定シタルモノ、外特別ノ資金ヲ有スルコトヲ得ス

第五條 歳入歳出ノ總豫算ハ前年ノ帝國議會集會ノ始ニ於テ之ヲ提出スヘシ

第六條 歳入歳出ノ總豫算ハ之ヲ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部中ニ於テ之ヲ款項ニ區分スヘシ

第七條 豫算中ニ設クヘキ豫備費ハ左ノ二項ニ分ツ

第一豫備金

第一 各省ノ豫定經費要求書但シ各項目中各目ノ明細ヲ記入スヘシ

第二 其ノ年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ歳入歳出現計書

第二豫備金ハ避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フモノトス

第八條 豫備金ヲ以テ支辨シタルモノハ年度經過後帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

第三章 收入

第九條 租税及其ノ他ノ歳入ハ法律命令ノ規程ニ從ヒ之ヲ徵收スヘシ

法律命令ニ依リ當該官吏ノ資格アル者ニ非サレハ租税ヲ徵收シ又ハ其ノ他ノ歳入ヲ收納スルコトヲ得ス

第四章 支出

第十條 每會計年度ニ於テ政府ノ經費ニ充ツル所ノ定額ハ其ノ年度ノ歳入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第十一條 國務大臣ハ豫算ニ定メタル目的ノ外ニ定額ヲ使用シ又ハ各項目ノ金額ヲ彼此流用スルコトヲ得ス

第十二條 國務大臣ハ其ノ所管ニ屬スル收入ヲ國庫ニ納ムヘシ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十三條 國務大臣ハ其ノ所管定額ヲ使用スル爲メ國庫ニ向ヒテ仕拂命令ヲ發スヘシ但シ別ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ他ノ官吏ニ委任シテ仕拂命令ヲ發セシムルコトヲ得

第十四條 國庫ハ法律命令ニ反スル仕拂命令ニ對シテ仕拂ヲ爲スコトヲ得ス

第十五條 國務大臣ハ政府ニ對シ正當ナル債主若ハ其ノ代理人ノ爲ニスルニ非サレハ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ス

左ノ諸項ノ經費ニ限リ國務大臣ハ主任ノ官吏ニ委任シ又ハ政府ノ命シタル銀行ニ委任シテ現金

支拂ヲ爲サシムル爲メ現金前渡ノ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得

第一 國債ノ元利拂

第二 軍隊軍艦及官船ニ屬スル經費

第三 在外各官廳ノ經費

第四 前項ノ外總テ外國ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費

第五 運輸通信ノ不便ナル内國ノ地方ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費

第六 廳中常用雜費ニシテ一箇年ノ總費額五百圓ニ滿クサルモノ

第七 場所ノ一定セサル事務所ノ經費

第八 各廳ニ於テ直接ニ從事スル工事ノ經費但シ一主任官ニ付三千圓マテヲ限ル

第五章 決算

○第一編 憲法 ○第四章 會計法

第十六條 會計検査院ノ検査ヲ經テ政府ヨリ帝國議會ニ提出スル總決算ハ總豫算ト同一ノ様式ヲ用キ左ノ事項ノ計算ヲ明記スヘシ

七十八

- 歳入ノ部
- 歳入豫算額
- 調定済歳入額
- 收入済歳入額
- 收入未済歳入額
- 歳出ノ部
- 歳出豫算額
- 豫算決定後増加歳出額
- 仕拂命令済歳出額
- 翌年度繰越額

第十七條 前條ノ總決算ニハ會計検査院ノ検査報告ト俱ニ左ノ文書ヲ添附スヘシ

- 第一 各省決算報告書
- 第二 國債計算書
- 第三 特別會計計算書

第六章 期滿免除

第十八條 政府ノ負債ニシテ其ノ仕拂フヘキ年度經過後滿五箇年内ニ債主ヨリ支出ノ請求若ハ仕拂ノ請求ヲ爲サ、ルモノハ期滿免除トシテ政府ハ其ノ義務ヲ免ル、モノトス但シ特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メタルモノハ各、其ノ定ムル所ニ依ル

第十九條 政府ニ納ムヘキ金額ニシテ其ノ納ムヘキ年度經過後滿五箇年内ニ上納ノ告知ト受ケラルモノハ其ノ義務ヲ免ル、モノトス但シ特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メタルモノハ各、其ノ定ムル所ニ依ル

其ノ定ムル所ニ依ル

第七章 歳計剩餘定額繰越豫算外收入及定額戻入

第二十條 各年度ニ於テ歳計ニ剩餘アルトキハ其ノ翌年度ノ歳入ニ繰入ルヘシ

第二十一條 豫算ニ於テ特ニ明許シタルモノ及一年度内ニ終ルヘキ工事又ハ製造ニシテ避クヘカシサル事故ノ爲ニ事業ヲ遅延シ年度内ニ其ノ經費ノ支出ヲ終ラサリシモノハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第二十二條 數年ヲ期シテ竣功スヘキ工事製造及其ノ他ノ事業ニシテ繼續費トシテ總額ヲ定メタルモノハ毎年度ノ仕拂殘額ヲ竣功年度マテ遞次繰越使用スルコトヲ得

第二十三條 誤拂過渡トナリタル金額ノ返納出納ノ完結シタル年度ニ属スル收入及其ノ他一切豫算外ノ收入ハ總テ現年度ノ歳入ニ組入ルヘシ但シ法律勅令ニ依リ前金渡概算渡繰替拂ヲ爲シタル場合ニ於ケル返納金ハ各、之ヲ仕拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入ル、コトヲ得

第八章 政府ノ工事及物件ノ賣買貸借

第二十四條 法律勅令ヲ以テ定メタル場合ノ外政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ハ總テ公告シテ競争ニ付スヘシ但シ左ノ場合ニ於テハ競争ニ付セス隨意ノ約定ニ依ルコトヲ得ヘシ

第一 一人又ハ一會社ニテ專有スル物品ヲ買入ル又ハ借入ル、トキ

第二 政府ノ所爲ヲ秘密ニスヘキ場合ニ於テ命スル工事又ハ物品ノ賣買貸借ヲ爲ストキ

第三 非常急遽ノ際工事又ハ物品ノ買入借入ヲ爲スニ競争ニ付スル暇ナキトキ

第四 特殊ノ物質又ハ特別使用ノ目的アルニ由リ生産製造ノ場所又ハ生産者製造者ヨリ直接ニ物品ノ買入ヲ要スルトキ

第五 特別ノ技術家ニ命スルニ非サレハ製造シ得ヘカラサル製造品及機械ヲ買入ル、トキ

第六 土地家屋ノ買入又ハ借入ヲ爲スニ當リ其ノ位置又ハ構造等ニ限アル場合

第七 五百圓ヲ超エサル工事又ハ物品ノ買入借入ノ契約ヲ爲ストキ

○第一編 憲法 ○第四章 會計法

七十九

第八 見積價格二百圓ヲ超ニサル勸産ヲ賣拂フトキ

第九 軍艦ヲ買入ル、トキ

第十 軍馬ヲ買入ル、トキ

第十一 試験ノ爲ニ工作製造ヲ命シ又ハ物品ヲ買入ル、トキ

第十二 慈善ノ爲ニ設立セル教育所ノ貧民ヲ備役シ及其ノ生産又ハ製造物品ヲ直接ニ買入ル、トキ

第十三 囚徒ヲ備役シ又ハ囚徒ノ製造物品ヲ直接ニ買入ル、トキ及政府ノ設立ニ係ル農工業

場ヨリ直接ニ其ノ生産又ハ製造物品ヲ買入ル、トキ

第十四 政府ノ設立シタル農工業場又ハ慈善教育ニ係ル各所ノ生産製造物品及囚徒ノ製造物

品ヲ賣拂フトキ

第十五 軍艦兵器彈藥ヲ除ク外工事製造又ハ物件買入ノ爲ニ前金拂ヲ爲スコトヲ得ス

第十六 政府ニ屬スル現金若ハ物品ノ出納ヲ掌ル所ノ官吏ハ其ノ現金若ハ物品ニ付一切ノ責

任ヲ負ヒ會計検査院ノ検査判決ヲ受クヘシ

第十七 前條ノ官吏水火盜難又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ其ノ保管スル所ノ現金若ハ物品ヲ紛失

毀損シタル場合ニ於テハ其ノ保管上避ケ得ヘカラサリ事實ヲ會計検査院ニ證明シ責任解除ノ

判決ヲ受クルニ非サレハ其ノ負擔ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第十八 現金又ハ物品ノ出納ヲ掌ルニ付身元保證金ヲ納メシムルコトヲ要スルモノハ勅令ヲ

以テ之ヲ定ムヘシ

第十九 仕拂命令ノ職務ハ現金出納ノ職務ト相兼スルコトヲ得ス

第二十 特別ノ須要ニ因リ本法ニ準據シ難キモノアルトキハ特別會計ヲ設置スルコトヲ得

第二十一 特別會計ヲ設置スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第二十二 政府ハ國庫金ノ取扱ヲ日本銀行ニ命スルコトヲ得

第二十三 本法ノ條項帝國議會ニ關涉セサルモノハ明治二十三年四月一日ヨリ施行シ其ノ關涉

スルモノハ帝國議會開會ノ時ヨリ施行ス

第二十四 決算ニ係ル條項ハ帝國議會ノ議定ヲ經タル年度ノ歲計ヨリ施行ス

第二十五 本法ノ條項ト抵觸スル法令ハ各其ノ條項施行ノ日ヨリ廢止ス

第二十六 御名 御璽

會計法補則

第一節 會計法補則

明治二十三年八月法律第五十七號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ會計法補則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

會計法補則

第一條 明治二十三年年度歲出豫算中左ノ費用ハ明治二十四年度ノ豫算ニ於テ憲法第六十七條ニ規

定シタル大權ニ基ケル既定ノ歲出トス

一 文武官ノ俸給及文官退官賜金

二 陸海軍軍事費憲兵費屯田兵費

三 賞勳年金及褒賞費

四 外國條約及約束ニ依レル支出

五 各廳ノ應費及經常修繕費

第二條 帝國議會開會前ニ發布セラレタル法令ニ基ク左ノ費用ハ法律ノ結果ニ由ルノ歲出トス

第三條 帝國議會開會前ニ發布セラレタル法令ニ基ク左ノ費用ハ法律ノ結果ニ由ルノ歲出トス

第四條 帝國議會開會前ニ發布セラレタル法令ニ基ク左ノ費用ハ法律ノ結果ニ由ルノ歲出トス

第五條 帝國議會開會前ニ發布セラレタル法令ニ基ク左ノ費用ハ法律ノ結果ニ由ルノ歲出トス

第六條 帝國議會開會前ニ發布セラレタル法令ニ基ク左ノ費用ハ法律ノ結果ニ由ルノ歲出トス

第七條 帝國議會開會前ニ發布セラレタル法令ニ基ク左ノ費用ハ法律ノ結果ニ由ルノ歲出トス

第八條 帝國議會開會前ニ發布セラレタル法令ニ基ク左ノ費用ハ法律ノ結果ニ由ルノ歲出トス

第九條 帝國議會開會前ニ發布セラレタル法令ニ基ク左ノ費用ハ法律ノ結果ニ由ルノ歲出トス

第十條 帝國議會開會前ニ發布セラレタル法令ニ基ク左ノ費用ハ法律ノ結果ニ由ルノ歲出トス

第十一條 帝國議會開會前ニ發布セラレタル法令ニ基ク左ノ費用ハ法律ノ結果ニ由ルノ歲出トス

第十二條 帝國議會開會前ニ發布セラレタル法令ニ基ク左ノ費用ハ法律ノ結果ニ由ルノ歲出トス

第十三條 帝國議會開會前ニ發布セラレタル法令ニ基ク左ノ費用ハ法律ノ結果ニ由ルノ歲出トス

第十四條 帝國議會開會前ニ發布セラレタル法令ニ基ク左ノ費用ハ法律ノ結果ニ由ルノ歲出トス

第十五條 帝國議會開會前ニ發布セラレタル法令ニ基ク左ノ費用ハ法律ノ結果ニ由ルノ歲出トス

第十六條 帝國議會開會前ニ發布セラレタル法令ニ基ク左ノ費用ハ法律ノ結果ニ由ルノ歲出トス

第十七條 帝國議會開會前ニ發布セラレタル法令ニ基ク左ノ費用ハ法律ノ結果ニ由ルノ歲出トス

第十八條 帝國議會開會前ニ發布セラレタル法令ニ基ク左ノ費用ハ法律ノ結果ニ由ルノ歲出トス

第十九條 帝國議會開會前ニ發布セラレタル法令ニ基ク左ノ費用ハ法律ノ結果ニ由ルノ歲出トス

第二十條 帝國議會開會前ニ發布セラレタル法令ニ基ク左ノ費用ハ法律ノ結果ニ由ルノ歲出トス

○第一編 會計法 ○第四章 會計法附錄 ○第一節

- 一 帝國議會經費
 - 二 裁判所並會計検査院經費
 - 三 恩給扶助料罷役恤金及死傷手當
 - 四 徵兵費
 - 五 徵稅費 證券印紙切手類製造買戻押印費鑑札製造費所得稅調查委員
手當市町村ニ交付スル徵稅費滯納處分費差押物件買上代
 - 六 囚徒費
 - 七 遞信事業及航路標識費
 - 八 内外國難破船費
 - 九 沖繩縣及小笠原島地方費
 - 十 備荒儲蓄
 - 十一 北海道棚下土地買上代
 - 十二 恩賞及救助費
- 第三條 明治二十四年度歲出豫算ニ於テ左ノ費用ハ憲法第七十六條第二項ニ規定シタル政府歲出上ノ義務トス
- 一 神社費
 - 二 公債償還利子及拂手數料
 - 三 既ニ定マレル効力アル命令ニ依リ毎年各地方ニ付與スヘキ公共工事費補助及警察費聯帶支辨金
 - 四 沖繩縣諸祿
 - 五 既ニ定マレル効力アル命令ニ依リ航運鐵道製造殖産ノ會社及病院學校ニ付與スヘキ補助又ハ利子保證
 - 六 雇外國人ノ俸給恩給及手當

- 七 法律上ノ賠償及訴訟費
 - 八 諸拂戻金
 - 九 國庫金取扱費
 - 十 預金利子
 - 十一 既約アル地所家屋借料
- 第四條 明治二十三年度以前ノ歲出豫算ニ於テ數年ヲ期シタル事業ニシテ明治二十四年度ニ至ルマテ未ク竣工ニ至ラサルモノハ繼續費ノ例ニ依ル

第五章 裁判所構成法

○明治二十三年二月法律第六號
 朕裁判所構成法ヲ裁可シ之ヲ公布セシム此ノ法律ハ明治二十三年十一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

御名 御璽

裁判所構成法目次

○第二編憲法○第五章裁判所構成法

第一編 裁判所及検事局	八十四
第一章 總則	八十五
第二章 區裁判所	八十六
第三章 地方裁判所	八十九
第四章 控訴院	九十二
第五章 大審院	九十三
第二編 裁判所及検事局ノ官吏	九十五
第一章 判事又ハ検事ニ任セラル、ニ必要ナル準備及資格	九十七
第二章 判事	九十八
第三章 検事	九十九
第四章 裁判所書記	百一
第五章 執達吏	百一
第六章 廷丁	百一
第三編 司法事務ノ取扱	百一
第一章 開廷	百一
第二章 裁判所ノ用語	百一
第三章 裁判ノ評議及言渡	百一
第四章 裁判所及検事局ノ事務章程	百一
第五章 司法年度及休暇	百一
第六章 法律上ノ共助	百一
第四編 司法行政ノ職務及監督權	百一
附則	百一

裁判所構成法

第一編 裁判所及検事局	八十五
第一章 總則	八十五
第一條 左ノ裁判所ヲ通常裁判所トス	八十五
第一 區裁判所	八十六
第二 地方裁判所	八十九
第三 控訴院	九十二
第四 大審院	九十三
第二條 通常裁判所ニ於テハ民事刑事ヲ裁判スルモノトス但シ法律ヲ以テ特別裁判所ノ管轄ニ屬セシメタルモノハ此ノ限ニ在ラス	九十五
第三條 地方裁判所控訴院及大審院ヲ合議裁判所トシ數人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ總テノ事件ヲ審問裁判ス但シ訴訟法又ハ特別法ニ別段規定シタルモノハ此ノ限ニ在ラス	九十七
第四條 裁判所ノ設立廢止及管轄區域並ニ其ノ變更ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム	九十八
第五條 各裁判所ニ相應ナル員數ノ判事ヲ置ク	九十九
第六條 各裁判所ニ檢事局ヲ附置ス檢事ハ刑事ニ付公訴ヲ起シ其ノ取扱上必要ナル手續ヲ爲シ法律ノ正常ナル適用ヲ請求シ及判決ノ適當ニ執行セラル、ヤチ監視シ又民事ニ於テモ必要ナリト認ムルハ通知ヲ求メ其ノ意見ヲ述フルコトヲ得又裁判所ニ屬シ若ハ之ニ關ル司法及行政事件ニ付公益ノ代表者トシテ法律上其ノ職權ニ屬スル監督事務ヲ行フ	百一
檢事ハ裁判所ニ對シ獨立シテ其ノ事務ヲ行フ	百一
檢事局ノ管轄區域ハ其ノ附置セラレタル裁判所ノ管轄區域ニ同シ	百一
若一人ノ檢事若ハ數人ノ檢事悉ク差支アリテ或ル事件ヲ取扱フコトヲ得サルトキハ裁判所長又ハ區裁判所ニ於テ判事若ハ監督判事ハ其ノ事件猶豫スヘカラサルニ於テハ判事ニ檢事ノ代理ヲ	百一
○第一編憲法○第五章裁判所構成法	八十五

命シ其ノ事件ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第七條 検事局ニ相應ナル員數ノ檢事ヲ置ク

第八條 各裁判所ニ書記課ヲ設ク書記課ハ往復會計記録其ノ他此ノ法律又ハ他ノ法律ニ特定シタル事務ヲ取扱フ

裁判所ニ附置セラレタル検事局ニ於テ前項ノ如キ事務ヲ取扱フ爲必要ナリト認メタルトキニ限

リ別ニ書記課ヲ設クルコトヲ得但シ合議裁判所ノ檢事局ニ限ル

司法大臣ハ裁判所ノ會計事務ヲ專任スル爲特別官吏ヲ裁判所ニ置クコトヲ得

第九條 區裁判所ニ執達吏ヲ置ク執達吏ハ裁判所ヨリ發スル文書ヲ送達シ及裁判所ノ裁判ヲ執行ス

前項ノ外執達吏ハ此ノ法律又ハ他ノ法律ニ定メタル特別ノ職務ヲ行フ

第十條 法律ヲ以テ特定シタルモノヲ除ク外左ノ場合ニ於テ適當ノ申請アルトキハ關係アル各裁判所ヲ併セテ之ヲ管轄スル直近上級ノ裁判所ハ何レノ裁判所ニ於テ本件ヲ裁判スルノ權アルヤヲ裁判ス

第一 權限アル裁判所ニ於テ法律上ノ理由若ハ特別ノ事情ニ因リ裁判權ヲ行フコトヲ得ス且此ノ法律第十三條ニ依リ之ニ代ルヘキコトヲ定メラレタル裁判所モ亦之ヲ行フコトヲ得サルトキ

第二 裁判所管轄區域ノ境界明確ナラサルカ爲其ノ權限ニ付疑ヲ生シタルトキ

第三 法律ニ從ヒ又ハ二以上ノ確定判決ニ因リ二以上ノ裁判所裁判權ヲ互有スルトキ

第四 二以上ノ裁判所權限ヲ有セストノ確定判決ヲ爲シ又ハ權限ヲ有セストノ確定判決ヲ受ケタルモ其ノ裁判所ノ一ニ於テ裁判權ヲ行フヘキトキ

第二章 區裁判所

第十一條 區裁判所ノ裁判權ハ單獨判事之ヲ行フ

判事二人以上ヲ置キタル區裁判所ニ於テハ司法大臣ノ定メタル通則ニ從ヒ其ノ裁判事務ヲ各判事ニ分配ス
此ノ事務分配ハ毎年地方裁判所長前以テ之ヲ定ム
區裁判所判事ノ取扱ヒタル事ハ裁判事務分配上其ノ事他ノ判事ニ屬シタリトノ事實ノミニ因リ其ノ効力ヲ失フコトナシ
判事二人以上置キタル區裁判所ニ於テハ司法大臣ハ其ノ一人ヲ監督判事トシ之ニ其ノ行政事務ヲ委任ス

第十二條 事務分配一タヒ定マリタルトキハ司法年度中ニ之ヲ變更セズ但シ一人ノ判事ノ分擔多キニ過キ又ハ判事轉退シ又ハ疾病其ノ他ノ事故ニ因リ久ク關働スル者アル等引續キ差支ヲ生シタル場合ハ此限ニ在ラス

第十三條 區裁判所ノ判事差支アルトキハ毎年地方裁判所長ノ前以テ定メタル順序ニ從ヒ互ニ相代理ス但シ監督判事ノ職務ハ其ノ裁判所ノ判事官等ノ順序ニ從ヒ之ヲ代理ス
一ノ區裁判所ニ於テ法律上ノ理由若ハ特別ノ事情ニ因リ事務ヲ取扱フコトヲ得サルトキ之ニ代ルヘキ他ノ區裁判所ハ前項ニ同ク毎年以前以テ之ヲ定ム

第十四條 區裁判所ハ民事訴訟ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス但シ反訴ニ關リテハ民事訴訟法ノ定ムル所ニ依ル
第一 百圓ヲ超過セサル金額又ハ價額百圓ヲ超過セサル物ニ關ル請求
第二 價額ニ拘ラス左ノ訴訟
(イ) 住家其ノ他ノ建物又ハ其ノ或ル部分ノ受取明渡使用占據若ハ修繕ニ關リ又ハ貸借人ノ家具若ハ所持品ヲ貸借人ノ差押ヘタルコトニ關リ貸借人ト貸借人トノ間ニ起リタル訴訟
(ロ) 不動産ノ境界ノミニ關ル訴訟

○第一編 憲法 ○第五章 裁判所構成法

(ハ) 占有ノニ關ル訴訟

(ニ) 雇主ト雇人トノ間ニ雇期限一年以下ノ契約ニ關リ起リタル訴訟

(ホ) 左ニ掲ケタル事項ニ付旅人ト旅店若ハ飲食店ノ主人トノ間ニ又ハ旅人ト水陸運送人トノ間ニ起リタル訴訟

(一) 賄料又ハ宿料又ハ旅人ノ運送料又ハ之ニ伴フ手荷物ノ運送料

(二) 旅店若ハ飲食店ノ主人又ハ運送人ニ旅人ヨリ保護ノ爲預ケタル手荷物金錢又ハ有價物

第十五條 區裁判所ハ非訟事件ニ付法律ニ定メタル範圍及方法ニ從ヒ左ノ事務ヲ取扱フノ權ヲ有ス

第一 未成年者癡癲者白癡者失踪者其ノ他法律若ハ判決ニ因リ治産ノ禁ヲ受ケタル若ノ後見人若ハ管財人ヲ監督スル事

第二 不動産及船舶ニ關ル權利關係ヲ登記スル事

第三 商業登記及特許局ニ登録シタル特許意匠及商標ノ登記ヲ爲ス事

第十六條 區裁判所ハ刑事ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一 違警罪

第二 本刑五十圓以下ノ罰金ヲ附加シ若ハ附加セサル二月以下ノ禁錮又ハ單ニ百圓以下ノ罰金ニ該ル輕罪

第三 刑法第二編第一章ヲ除キ其ノ他ノ輕罪ニシテ本刑二百圓以下ノ罰金ヲ附加シ若ハ附加セサル二年以下ノ禁錮又ハ單ニ三百圓以下ノ罰金ニ該リ其情第二ニ掲ケタル刑ヨリ更ニ重キ刑ニ處スルコトヲ要セスト認メ地方裁判所若ハ其ノ支部ノ檢事局ヨリ區裁判所ニ移付シタルモノ

前項ノ手續ニ因リ訴追ヲ爲シ犯罪ノ證明アリタル場合ニ於テ判決ヲ爲ス前何時ニテモ其ノ

情第二ニ掲ケタル刑ニテハ相當ニ罰スルコトヲ得スト認ムルトキハ區裁判所ハ之ヲ裁判スル權限ヲ有セストノ旨渡ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ檢事ハ被告人ヲシテ相當ノ裁判所ニ於テ裁判ヲ受ケシムル爲適當ノ手續ヲ爲ス

第十七條 前數條ニ掲ケタルモノヲ除ク外區裁判所ノ權限ハ此ノ章ニ掲ケタル事件ニ關リ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

第十八條 各區裁判所ノ檢事局ニ檢事ヲ置ク

區裁判所檢事局ノ檢事ノ事務ハ其ノ地ノ警察官憲兵將校下士又ハ林務官之ヲ取扱フコトヲ得司法大臣ハ適當ナル場合ニ於テハ區裁判所判事候補又ハ郡市町村ノ長ヲシテ檢事ヲ代理セシムルコトヲ得

第三章 地方裁判所

第十九條 地方裁判所ヲ第一審ノ合議裁判所トス

各地方裁判所ニ一若ハ二以上ノ民事部及刑事部ヲ設ク

第二十條 各地方裁判所ニ地方裁判所長ヲ置ク

地方裁判所長ハ裁判所ノ一般ノ事務ヲ指揮シ其ノ行政事務ヲ監督ス

地方裁判所ノ各部ニ部長ヲ置ク部長ハ部ノ事務ヲ監督シ其ノ分配ヲ定ム

第二十一條 司法大臣ハ毎年各地方裁判所ノ判事一人若ハ二人以上ニ其ノ裁判所ノ裁判權ニ屬スル刑事ノ豫審ヲ爲スコトヲ命ス

第二十二條 各地方裁判所ノ事務ハ司法大臣ノ定メタル通則ニ從ヒ各部及各豫審判事ニ之ヲ分配ス

各地方裁判所ノ各部長及部員ノ配置及所長部長部員差支アルトキノ代理モ亦毎年以前以テ之ヲ定ム

第二項ニ掲ケタル諸件ハ裁判所長部長及部ノ上席判事一人ノ會議ニ於テ裁判所長會長トナリ多

○第一編 憲法ノ第五章 裁判所構成法

數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

地方裁判所長ハ次年自ラ部長トナルヘキ部ヲ指定スヘシ

第二十三條 或ル部ニ於テ著手シタル事務ニシテ司法年度ノ終若ハ休暇ノ始ニ臨ミ未ダ終結ニ至ラサルモノハ裁判所長便利ト認ムルトキ同部員ヲシテ引續キ之ヲ結了セシムルコトヲ得

豫審判事ノ取扱フ事務ニシテ未ダ終結ニ至ラサルモノモ亦前項ニ同シ

第二十四條 第二十二條ニ從ヒ事務ノ分配及判事ノ配置一タヒ定マリタルトキハ休暇中ヲ除キ一部ノ事務多キニ過キ又ハ判事轉退シ又ハ疾病其ノ他ノ事故ニ因リ久ク關働スル者アル等引續キ差支アルニ非サレハ司法年度中之ヲ變更セス

裁判所ノ事務其ノ現在ノ部ニ過多ナル場合ニ於テ司法大臣適宜ト認ムルトキハ新ニ一部又ハ數部ヲ設クルコトヲ得

第二十五條 地方裁判所ノ判事差支ノ爲或ル事件ヲ取扱フコトヲ得ス且同裁判所ノ判事中共ノ代理ヲ爲シ得ヘキ者ナキ場合ニ於テ其ノ事件緊急ナリト認ムルトキハ裁判所長ハ其ノ管轄區域内ノ區裁判所判事又ハ豫備判事ニ其ノ代理ヲ命スルコトヲ得

第二十六條 地方裁判所ハ民事訴訟ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一 第一審トシテ

區裁判所ノ權限又ハ第三十八條ニ定メタル控訴院ノ權限ニ屬スルモノヲ除キ其ノ他ノ請求

第二 第二審トシテ

(イ) 區裁判所ノ判決ニ對スル控訴

(ロ) 區裁判所ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

第二十七條 地方裁判所ハ刑事訴訟ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一 第一審トシテ

區裁判所ノ權限又ハ大審院ノ特別權限ニ屬セサル刑事訴訟

第二 第二審トシテ

(イ) 區裁判所ノ判決ニ對スル控訴

(ロ) 區裁判所ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

第二十八條 地方裁判所ハ破産事件ニ付一般ノ裁判權ヲ有ス

第二十九條 地方裁判所ハ非訟事件ニ關ル區裁判所ノ決定及命令ニ對シ法律ニ定メタル抗告ニ付裁判權ヲ有ス

第三十條 地方裁判所ノ權限並ニ其ノ裁判權ヲ行フノ範圍及方法ニシテ此ノ法律ニ定メサルモノハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

第三十一條 司法大臣ハ地方裁判所ト其ノ管轄區域内ノ區裁判所ト遠隔ナルカ若ハ交通不便ナルカ爲至當ト認ムルトキハ地方裁判所ニ屬スル民事及刑事ノ事務ノ一部分ヲ取扱フ爲一若ハ二以上ノ支部ノ設置ヲ命スルコトヲ得且支部ヲ開クヘキ區裁判所ヲ定ム

支部ニハ之ヲ設置シタル區裁判所若ハ近隣ノ區裁判所ノ判事ヲ用非ルコトヲ得此ノ場合ニ於テ判事ヲ選用スルノ權ハ司法大臣ニ屬ス

司法大臣ハ支部ニ屬ムヘキ豫審判事及檢事ヲ命ス

司法大臣ハ支部ノ本部タル地方裁判所ノ管轄區域内ノ區裁判所判事ニ豫審判事ヲ命スルコトヲ得

代理ニ關ル第二十五條ハ支部ニモ亦之ヲ適用ス

第三十二條 地方裁判所ニ於テ訴訟法ニ依リ法廷ニ於テ審問裁判スヘキ事件ハ三人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ之ヲ審問裁判ス其ノ三人ノ判事中共一人ヲ裁判長トス且豫備判事ハ如何ナル事情アルモ二人以上其ノ部ニ列席スルコトヲ得ス其ノ他ノ事件ハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ從ヒ判事之ヲ取扱フ

第三十三條 各地方裁判所ノ檢事局ニ檢事正ヲ置ク檢事正ハ檢事局ノ事務取扱ヲ分配指揮及監督

○第一編 第五卷 裁判所構成法

六但シ検事局ノ其ノ他ノ検事ハ事務取扱ニ付何等ノ事件ニ拘ラズ特別ノ許可ヲ受ケズシテ検事正
ヲ代理スルノ權ヲ有ス

第四章 控訴院

第三十四條 控訴院ヲ第二審ノ合議裁判所トス

各控訴院ニ一若ハ二以上ノ民事部及刑事部ヲ設ク

第三十五條 各控訴院ニ控訴院長ヲ置ク

控訴院長ハ院訴訟ノ一般ノ事務ヲ指揮シ其ノ行政事務ヲ監督ス

控訴院ノ各部ニ部長ヲ置ク部長ハ部ノ事務ヲ監督シ其ノ分配ヲ定ム

第三十六條 事務ノ分配及結了並ニ判事ノ代理ニ付テハ第二十二條第二十三條及第二十五條ヲ左
ノ變更ヲ以テ控訴院ニ適用ス

第一 前項ニ掲ケタル各條ヲ以テ地方裁判所長ニ與ヘタル權ハ控訴院長ニモ之ヲ與ヘタルモ
ノトス

第二 控訴院ノ判事差支ノ爲或ル事件ヲ取扱フコトヲ得ス且同院ノ判事中共ノ代理ヲ爲シ得
ヘキ者ナキ場合ニ於テ其ノ事件緊急ナリト認ムルトキハ之ヲ代理スル判事ヲ出スヘキ旨ヲ

控訴院長ヨリ其ノ控訴院所在地ノ地方裁判所長ニ通知シ其ノ裁判所ノ判事ヲシテ代理ヲ爲
サシムルコトヲ得但シ豫審判事ヲ用ザルコトヲ得ス

第三十七條 控訴院ハ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一 地方裁判所ノ第一審判決ニ對スル控訴

第二 區裁判所ノ判決ニ對スル控訴ニ付爲シタル地方裁判所ノ判決ニ對スル上告

第三 地方裁判所ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

第三十八條 皇族ニ對スル民事訴訟ニ付第一審及第二審ノ裁判權ハ東京控訴院ニ屬ス但シ第一審
ノ訴訟手續ニ付テハ地方裁判所ノ第一審手續ヲ適用ス

第三十九條 控訴院ノ權限並ニ其ノ裁判權ヲ行フノ範圍及方法ニシテ此ノ法律ニ定メサルモノハ
訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

第四十條 控訴院ニ於テ訴訟法ニ依リ法廷ニ於テ審問裁判スヘキ事件ハ五人ノ判事ヲ以テ組立テ
タル部ニ於テ之ヲ審問裁判ス其ノ五人ノ判事中共一人ヲ裁判長トス其ノ他ノ事件ハ訴訟法ノ定ム
ル所ニ從ヒ判事之ヲ取扱フ

第四十一條 第三十八條ノ場合ニ於テ第一審ハ五人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ審問裁判シ
第二審ハ特ニ七人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ審問裁判ス其ノ五人又ハ七人ノ判事中共一人
ヲ裁判長トス

第四十二條 各控訴院ノ検事局ニ検事長ヲ置ク

検事長並ニ其ノ他ノ検事ノ職權ニ付テハ第三十三條ヲ適用ス

第五節 大審院

第四十三條 大審院ヲ最高裁判所トス

大審院ニ一若ハ二以上ノ民事部及刑事部ヲ設ク

第四十四條 大審院長ニ大審院長ヲ置ク

大審院長ハ大審院ノ一般ノ事務ヲ指揮シ其ノ行政事務ヲ監督ス

大審院ノ各部ニ部長ヲ置ク部長ハ部ノ事務ヲ監督シ其ノ分配ヲ定ム

第四十五條 大審院ノ事務ノ分配並ニ代理ノ順序ハ毎年部長ト協議シ大審院長前以テ之ヲ定ム

大審院長ハ次年自ラ上席セントスル部ヲ指定スヘシ

大審院ノ判事差支ノ爲或ル事件ヲ取扱フコトヲ得ス且同院ノ判事中共ノ代理ヲ爲シ得ヘキ者ナ
キ場合ニ於テ其ノ事件緊急ナリト認ムルトキハ之ヲ代理スル判事ヲ出スヘキ旨ヲ大審院長ヨリ

其ノ所在地ノ控訴院長ニ通知シ其ノ控訴院ノ判事ヲシテ代理ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十六條 大審院長ハ何時ニテモ部長若ハ部員ノ承諾ヲ得テ之ヲ他ノ部ニ轉セシムルコトヲ得

○第一編憲法○第五章裁判所構成法

第四十七條

九十四

大審院ニ於テ一タヒ定マリタル部ノ組立ヲ變更シタルトキハ現ニ取扱中ノ事務ニ付テハ第二十三條ヲ適用ス

司法年度中事務分配ノ變更ニ付テハ第二十四條ヲ適用ス

第四十八條 大審院ニ於テ裁判ヲ爲スニ當リ法律ノ點ニ付テ表シタル意見ハ其ノ訴訟一切ノ事ニ付下級裁判所ヲ羈束ス

第四十九條 大審院ノ或ル部ニ於テ上告ヲ審問シタル後法律ノ同一ノ點ニ付曾テ一若ハ二以上ノ部ニ於テ爲シタル判決ト相反スル意見アルトキハ其ノ部ハ之ヲ大審院長ニ報告シ大審院長ハ其ノ報告ニ因リ事件ノ性質ニ從ヒ民事ノ總部若ハ刑事ノ總部又ハ民事及刑事ノ總部ヲ聯合シテ之ヲ再ヒ審問シ及裁判スルコトヲ命ス

第五十條 大審院ハ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス
第一 終審トシテ
(イ) 第三十七條第二ニ依リ爲シタル判決及第二十八條ノ第一審ノ判決ニ非サル控訴院ノ判決ニ對スル上告
(ロ) 控訴院ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

第二 第一審ニシテ終審トシテ
刑法第二編第一章及第二章ニ掲ケタル重罪竝ニ皇族ノ犯シタル罪ニシテ禁錮又ハ更ニ重キ刑ニ處スヘキモノ、豫審及裁判

第五十一條 前條第二ニ掲ケタル事件ニ付大審院ハ必要ナリト認ムルトキハ事件ノ審問裁判ヲ爲ス爲控訴院若ハ地方裁判所ニ於テ法廷ヲ開クコトヲ得

第五十二條 大審院ノ權限竝ニ其ノ裁判權ヲ行フノ範圍及方法ニシテ此ノ法律ニ定メサルモノハ訴訟又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

第五十三條 大審院ニ於テ訴訟法ニ依リ法廷ニ於テ審問裁判スヘキ事件ハ七人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ之ヲ審問裁判ス其ノ七人ノ判事申一人ヲ裁判長トス其ノ他ノ事件ハ訴訟法ノ定ムル所ニ從ヒ判事之ヲ取扱フ

第五十四條 第四十九條ニ定メタル場合ニ於テハ聯合部ノ判事少クトモ三分ノ二列席スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ民事ノ總部若ハ刑事ノ總部聯合スルトキ又ハ民事及刑事ノ總部聯合スルトキハ總部ノ判事申官等最モ高キ者ヲ部長ト爲ス大審院長ハ至當ナリト認ムルトキハ自ラ總部ニ長タルノ權ヲ有ス

第五十五條 大審院長ハ第五十條ニ依リ大審院ニ於テ第一審ニシテ終審ヲ爲スヘキ各別ノ場合ニ付大審院ノ判事ニ豫審ヲ命ス但シ便宜ニ依リ各裁判所判事ヲシテ豫審ヲ爲サシムルコトヲ得

第五十六條 大審院ノ檢事局ニ檢事總長ヲ置ク
檢事總長竝ニ其ノ他ノ檢事ノ職權ニ付テハ第三十三條ヲ適用ス

第二編 裁判所及檢事局ノ官吏
第一章 判事又ハ檢事ニ任セラルルニ必要ナル準備及資格

第五十七條 判事又ハ檢事ニ任セラルルニハ第六十五條ニ掲ケタル場合ヲ除キ二回ノ競争試験ヲ經ルコトヲ要ス

第五十八條 志願者前條ノ競争試験ヲ受ケ得ルニ必要ナル資格竝ニ此ノ試験ニ關ル細則ハ判事檢事登用試験規則中ニ司法大臣之ヲ定ム

第一回試験ニ及第シタル者ハ第二回試験ヲ受クルノ前候補トシテ裁判所及檢事局ニ於テ三年間實地修習ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ修習ニ關ル細則モ亦試験規則中ニ之ヲ定ム

第五十九條 司法大臣ハ候補ノ行狀罷免スルニ足レリト認ムルトキハ何時ニテモ之ヲ罷免スルコトヲ得

○第一編憲法○第五五章裁判所構成法

九十五

ト得此ノ罷免ニ關ル細則モ亦試験規則中ニ之ヲ定ム

第六十條 一年以上修習ヲ爲シタル候補ハ其ノ修習ヲ現ニ監督スル判事ノ命アルトキ區裁判所ニ豫審判事及地方裁判所ノ受命判事モ亦其ノ附屬ノ候補ヲシテ自己ニ代リ或ル事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第六十一條 候補ハ如何ナル場合ニ於テモ左ノ事務ヲ取扱フノ權ヲ有セズ
第一 訴訟事件ト非訟事件トニ拘ハラズ裁判ヲ爲ス事
第二 證據ヲ調フル事但シ前條第二項ノ場合ヲ除ク
第三 登記ヲ爲ス事

第六十二條 第二回ノ競争試験ニ及第シタル候補ハ判事又ハ檢事ニ任セラルルコトヲ得
第六十三條 新任ノ判事又ハ檢事ハ關位アルトキ之ヲ區裁判所若ハ地方裁判所ノ判事又ハ區裁判所若ハ地方裁判所ノ檢事局ノ檢事ニ補ス

第六十四條 區裁判所又ハ地方裁判所又ハ其ノ檢事局ニ用シテ勤務スルコトヲ命シ之ヲ司法省又ハ區裁判所又ハ地方裁判所又ハ其ノ判事又ハ檢事トシテ勤務スルコトヲ命事又ハ檢事差支アリテ職務ニ從事スルコトヲ得且通常代理ノ規程ニ依リ難キコトアルトキハ
第三十二條ノ制限ニ從ヒ司法大臣ハ之ニ其ノ判事又ハ檢事ヲ代理セシムルコトヲ得

第六十五條 三年以上帝國大學法科教授若ハ辯護士タル者ハ此ノ章ニ掲ケタル試験ヲ經スニテ判事又ハ檢事ニ任セラルルコトヲ得
帝國大學法科卒業生ハ第一回試験ヲ經スニテ候補ヲ命セラルルコトヲ得

第六十六條 左ニ掲ケタル者ハ判事又ハ檢事ニ任セラルルコトヲ得ス
第一 重罪ヲ犯シタル者但シ國事犯ニシテ復權シタル者ハ此ノ限ニ在ラズ
第二 定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタル者
第三 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レサル者

第二章 判事

第六十七條 判事ハ勅任又ハ奏任トシ其ノ任官ヲ終身トス
第六十八條 大審院長ハ勅任判事ノ中ヨリ天皇之ヲ補シ各控訴院長及大審院ノ部長ハ司法大臣ノ上奏ニ因リ勅任判事ノ中ヨリ之ヲ補ス其ノ他ノ判事ノ職ハ司法大臣之ヲ補ス

第六十九條 五年以上判事タル者又ハ五年以上檢事帝國大學法科教授若ハ辯護士コシテ判事ニ任セラレシ者ニ非サレハ控訴院判事ニ補セラルルコトヲ得ス
第七十條 十年以上判事タル者又ハ十年以上檢事帝國大學法科教授若ハ辯護士コシテ判事ニ任セラレシ者ニ非サレハ大審院判事ニ補セラルルコトヲ得ス

第七十一條 第六十九條及第七十條ニ掲ケタル年限ヲ算フルコトハ補職ノ時マテ各々其ノ條ニ列記シタル職務ノ一ノミヨリ引續キ從事シタルコトヲ必要トセス
第七十二條 判事ハ在職中左ノ諸件ヲ爲スコトヲ得ス

第一 公然政事ニ關係スル事
第二 政黨ノ黨員又ハ政社ノ社員トナリ又ハ府縣郡市町村ノ議會ノ議員トナル事
第三 俸給アル又ハ金錢ノ利益ヲ目的トスル公務ニ就ク事
第四 商業ヲ營ミ又ハ其ノ他行政上ノ命令ヲ以テ禁シタル業務ヲ營ム事

第七十三條 第七十四條及第七十五條ノ場合ヲ除ク外判事ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルコト非サレハ其ノ意ニ反シテ轉官轉所停職免職又ハ減俸セラルルコトナシ但シ豫備判事タルトキ及補關ノ必要ナル場合ニ於テ轉所ヲ命セラルルハ此ノ限ニ在ラズ

○第一編憲法○第五章裁判所構成法

前項ハ懲戒取調又ハ刑事訴訟ノ始若ハ其ノ間ニ於テ法律ノ節ス停職ニ關係アルコトナシ
 第七十四條 判事身體若ハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルコト能ハサルニ至リタルトキハ司法大臣
 ハ控訴院又ハ大審院ノ總會ノ決議ニ依リ之ニ退職ヲ命スルコトヲ得
 第七十五條 法律ヲ以テ裁判所ノ組織ヲ變更シ又ハ之ヲ廢シタル場合ニ於テ其ノ判事ヲ補スルハ
 關位ナキトキハ司法大臣ハ之ニ俸給ノ半額ヲ給シテ關位ヲ待タシムルノ權ヲ有ス
 第七十六條 判事ノ官等俸給及進級ニ關ル規程ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル
 第七十七條 判事ハ退職シタルトキハ恩給法ニ依リ恩給ヲ受ク
 第七十八條 判事ノ俸給ハ判事ニ對シ懲戒取調又ハ刑事訴訟ヲ始メタルカ故ニ停職シタルニ拘ラ
 ス引續キ之ヲ給ス

第三章 檢事

第七十九條 檢事ハ勅任又ハ奏任トス
 第七十六條及第七十七條ハ檢事ニモ亦之ヲ適用ス
 檢事總長及檢事長ノ職ハ司法大臣ノ上奏ニ因リ勅任檢事ノ中ヨリ之ヲ補ス其ノ他ノ檢事ノ職ハ
 司法大臣之ヲ補ス
 第八十條 檢事ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルニ非サレハ其ノ懲ニ反シテ之ヲ免職スルコ
 トナシ
 第八十一條 檢事ハ如何ナル方法ヲ以テスルモ判事ノ裁判事務ニ干渉シ又ハ裁判事務ヲ取扱フコ
 トヲ得ス
 第八十二條 檢事ハ其ノ上官ノ命令ニ從フ
 第八十三條 檢事總長檢事長及檢事正ハ其ノ各管轄區域内ノ裁判所ノ檢事ノ職務ノ範圍内ニ在ル
 事務ヲ自ラ取扱フノ權ヲ有ス
 檢事總長檢事長及檢事正ハ其ノ管轄區域内ニ於テ或ル檢事ノ取扱フヘキ事務ヲ他ノ檢事ニ移ス

權ヲ有ス

第八十四條 司法警察官ハ檢事ノ職務上其ノ檢事局管轄區域内ニ於テ發シタル命令及其ノ檢事ノ
 上官ノ發シタル命令ニ從フ
 司法省又ハ檢事局及内務省又ハ地方官廳ハ協議シテ警察官中各裁判所ノ管轄區域内ニ於テ司法
 警察官トシテ勤務シ前項ノ命令ヲ受ケ及之ヲ執行スル者ヲ定ム

第四章 裁判所書記

第八十五條 裁判所ニ第八條ニ從ヒ相應ナル員數ノ書記ヲ置ク
 區裁判所ノ各判事及合議裁判所ノ各部ノ爲少クトモ一人ノ書記ヲ置ク
 第八十六條 地方裁判所ノ書記課ニ監督書記ヲ置ク控訴院及大審院ノ書記課ニ書記長ヲ置ク
 區裁判所及檢事局ノ書記課ニ二人以上ノ書記ヲ置キタルトキハ其ノ一人ヲ監督書記トス
 監督書記及書記長ハ各々其ノ上官ノ命令ニ服從シテ書記課ノ事務ヲ指揮監督ス
 第八十七條 書記其ノ職務ノ範圍内ニ於テ取扱ヒタル事ハ既ニ定マリタル事務分配上其ノ事他ノ
 書記ニ屬シタリトノ事實ノミニ因リ其ノ効力ヲ失フコトナシ
 第八十八條 書記ハ司法大臣之ニ任シ及之ヲ補ス
 書記長ハ奏任トス
 書記長ノ職ハ司法大臣之ヲ補ス
 第八十九條 書記ニ任セラル、ニハ勅令ノ定ムル所ニ依リ試験ヲ經ルコトヲ要ス
 志願者前項ノ試験ヲ受ケ得ルニ必要ナル資格並ニ此ノ試験及試験ヲ經タル後爲スルハ修習ニ關
 ル細則ハ裁判所書記登用試験規則中ニ司法大臣之ヲ定ム
 第九十條 書記ニ任セラレタル者關位ナキ間ハ豫備書記ニ補ス
 豫備書記ハ書記トシテ臨時勤務ヲ命セララル、コトヲ得
 第九十一條 書記ハ其ノ上官ノ命令ニ從フ

○第一編憲法○第五章裁判所構成法

裁判所ノ開廷ニ於テハ裁判長ノ命令ニ從ヒ又判事一人ナルトキハ其ノ判事ノ命令ニ從フ
書記ハ檢事局ニ勤務スルトキ又ハ特別ノ事務ニ付判事若ハ檢事ニ附屬シタルトキモ亦其ノ檢事
局又ハ判事若ハ檢事ノ命令ニ從フ

前二項ノ命令ニシテ口述ノ書取ニ關ルカ又ハ書類記録ノ調製若ハ變更ニ關ル場合ニ於テ其ノ調
製若ハ變更ヲ正當ナラスト認ムルトキ書記ハ自己ノ意見ヲ記シテ之ニ添フルコトヲ得
前四項ニ掲ケタルモノヲ除ク外書記ノ職務及其ノ事務取扱方法ハ書記ニ關ル規則中ニ司法大臣
之ヲ定ム

第九十二條 合議裁判所長又ハ區裁判所ノ判事若ハ監督判事ハ其ノ裁判所ニ於テ修習中ノ試補ニ
書記ノ事務ヲ臨時取扱ハシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ職務上署名ヲ要スルトキハ特別ノ許可ヲ得テ署名スル旨ヲ記ス

第九十三條 豫備書記ハ事務ノ取扱ニ於テハ書記ニ同シ但シ書記規則中ニ制限ヲ設ケタルモノハ
此ノ限ニ在ラズ

第五章 執達吏

第九十四條 各區裁判所ニ第九條ニ從ヒ相應ナル員數ノ執達吏ヲ置ク

第九十五條 執達吏ハ司法大臣之ヲ任シ及之ヲ補ス司法大臣ハ控訴院長ニ其ノ管轄區域内ノ裁判
所ノ執達吏ヲ任シ及補スルノ權ヲ委任スルコトヲ得

執達吏ニ任セラル、ニ必要ナル資格並ニ試験ニ關ル規則ハ司法大臣之ヲ定ム

第九十六條 執達吏ハ手数料ヲ受ク其ノ手数料一定ノ額ニ達セサルトキ補助金ヲ受ク

第九十七條 執達吏ハ其ノ所屬區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所管轄區域内ノ何レノ場所ニ於テモ
其ノ職務ヲ行フ

第九十八條 裁判所ヨリ發スル文書ニシテ送達ヲ要スルモノハ執達吏ヲ以テ之ヲ送達ス但シ書記
ヨリ直接ニ若ハ郵便ヲ以テ送達スルコトヲ法律ノ許ス場合ハ此ノ限ニ在ラズ

執達吏ハ刑事ニ付警察官ヲ以テ執行ヲ爲サ、ル場合ニ限リ裁判所ノ裁判ヲ執行ス
前二項ニ掲ケタルモノヲ除ク外執達吏ノ權限ハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

第九十九條 執達吏ハ其ノ職務ヲ適實ニ行フ爲保賚金ヲ出スコトヲ要ス

執達吏ノ職務細則並ニ保賚金ニ關ル規則ハ司法大臣之ヲ定ム

第一百條 執達吏ハ其ノ所屬裁判所ノ上官ノ命ヲ受ケタル書記及其ノ裁判所ヲ管轄スル地方裁判所
ノ上官ノ命ヲ受ケタル書記及其ノ書記ノ上官ノ命令ニ從フ

第六章 延丁

第一百一條 延丁ハ大審院控訴院及地方裁判所ニ於テハ裁判所長區裁判所ニ於テハ地方裁判所長之
ヲ雇ヒ及其ノ雇ヲ解ク

第一百二條 延丁ハ開廷ニ出頭セシメ及司法大臣ノ發シタル一般ノ規則中ニ定メタル事務ヲ取扱ハ
シム

區裁判所ハ執達吏ヲ用サルコト能ハサルトキハ其ノ裁判所所在地ニ於テ書類ヲ送達スル爲延丁
ヲ用サルコトヲ得

第三編 司法事務ノ取扱

第一章 開廷

第一百三條 開廷ハ裁判所又ハ支部ニ於テ之ヲ爲ス

司法大臣ニ於テ事情ニ因リ必要ナリト認ムルトキハ區裁判所ヲシテ其ノ管轄區域内ノ一定ノ場
所ニ於テ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第一百四條 訴訟審問ノ上席及指揮ハ合議裁判所ニ於テハ開廷ヲ爲シタル裁判長ニ屬シ區裁判所ニ
於テハ開廷ヲ爲シタル判事ニ屬ス

裁判長ニ屬スル權ハ裁判上一人ニテ職務スル判事ニモ亦屬ス

第一百五條 裁判所ニ於テ對審ノ公開ヲ停ムルノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ハ其ノ理由ト共ニ

○第一編憲法○第五章裁判所構成法

公衆ヲ退カシムル前之ヲ言渡ス此ノ場合ニ於テ裁判所ノ判決ヲ言渡ストキハ再ヒ公衆ヲ入廷セシムヘシ

第百六條 裁判長ハ公開ヲ停メタルトキモ入廷ノ特許ヲ與フルコトヲ至當ト認ムル者ヲ入廷セシムルノ權ヲ有ス

第百七條 裁判所ハ婦女兒童及相當ナル衣服ヲ著セサル者ヲ法廷ヨリ退カシムルコトヲ得其ノ理由ハ之ヲ訴訟ノ記録ニ記入ス

第百八條 開廷中秩序ノ維持ハ裁判長ニ屬ス

第百九條 裁判所ハ審問ヲ妨ケル者又ハ不當ノ行狀ヲ爲ス者ヲ法廷ヨリ退カシムルノ權ヲ有ス

前項ニ掲ケタル違犯者ノ行狀ニ因リ之ヲ勾引シ閉廷ノトキマテ之ヲ勾留スルノ必要アリト認ムルトキ裁判所ハ之ヲ命令スルノ權ヲ有ス閉廷ノトキ裁判所ハ之ヲ釋放スルコトヲ命シ又ハ五圓以下ノ罰金若ハ五日以内ノ拘留ニ處スルコトヲ得

此ノ處罰ニ對シテハ上告ヲ許シ控訴ヲ許サズ且其ノ所爲ノ輕罪若ハ重罪ニ該ルヘキモノナルトキハ之ニ對シテ刑事訴訟法爲スコトヲ得

第百十條 前條ノ規程ハ左ノ變更ヲ以テ當事者證人及鑑定人ニモ亦之ヲ適用ス

第一 裁判所ハ閉廷ヲ待タズシテ本條ノ違犯者ヲ即時ニ罰スルコトヲ得

第二 違犯者原告ナルモ裁判所ハ處罰ノ上仍本人宥恕ヲ請フカ又ハ恭順ヲ表シテ不敬ノ罪ヲ謝スルマテ其ノ審問ヲ中止スルコトヲ得

第百十一條 裁判長ハ不當ノ言語ヲ用非ル辯護士ニ對シ同事件ニ付引續キ陳述スルノ權ヲ行フコトヲ禁スルコトヲ得其ノ禁止ハ此ノ行狀ニ付懲戒上ノ訴追ヲ爲スコトヲ妨ケス

第百十二條 裁判所ノ開廷中秩序ヲ維持スル爲第百九條第百十條及第百十一條ヲ以テ與ヘタル權ハ豫審判事又ハ受命判事又ハ法律ニ從ヒ其ノ職務ヲ行フ試補モ亦之ヲ行フコトヲ得

此ノ場合ニ於テノ異議ハ二十四時以内ニ其ノ判事又ハ試補ニ之ヲ申出ルコトヲ得

豫審判事又ハ其ノ命ヲ受ケタル試補ノ命令ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ判事ノ屬スル裁判所ノ刑事部若ハ刑事支部ニ於テ前項ノ異議ヲ裁判ス受命判事又ハ其ノ命ヲ受ケタル試補ノ命令ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ判事ニ命シタル裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス

第百十三條 第百九條第百十條第百十一條及第百十二條ヲ以テ與ヘタル權ヲ行ヒクルトキハ訴訟ノ記録ニ之ヲ記入シ及其ノ理由ヲ記ス

前項ノ場合ニ於テ其ノ所爲ノ重罪若ハ輕罪ニ該ルヘキモノナルカ又ハ懲戒上罰スヘキモノナルトキハ詳細ニ之ヲ記入シ裁判長ハ其ノ事件ヲ更ニ處分スルノ權アル官廳ニ報告ヲ爲ス

第百十四條 判事檢事及裁判所書記ハ公開シタル法廷ニ於テハ一定ノ制服ヲ著ス

前項ノ開廷ニ於テ審問ニ參與スル辯護士モ亦一定ノ制服ヲ著スルコトヲ要ス

第二章 裁判所ノ用語

第百十五條 裁判所ニ於テハ日本語ヲ用フ

當事者證人又ハ鑑定人ノ中日本語ニ通セサル者アルトキハ訴訟法又ハ特別法ニ通事ヲ用非ルコトヲ要スル場合ニ於テ之ヲ用フ

第百十六條 通事ノ任命及使用並ニ訴訟手續上其ノ行フヘキ職務ニ關ル規則ハ司法大臣之ヲ定ム

第百十七條 通事ノ得難キ場合ニ於テ書記其ノ言語ニ通スルトキハ裁判長ノ承諾ヲ得テ通事ニ用サラルコトヲ得

第百十八條 外國人ノ當事者タル訴訟ニ關係ヲ有スル者及其ノ訴訟ノ審問ニ參與スル官吏ノ或ル外國語ニ通スル場合ニ於テ裁判長便利ト認ムルトキハ其ノ外國語ヲ以テ口頭審問ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ審問ノ公正記録ハ日本語ヲ以テ之ヲ作ル

第三章 裁判ノ評議及言渡

第百十九條 合議裁判所ノ裁判ハ此ノ法律ニ從ヒ定數ノ判事之ヲ評議シ及之ヲ言渡ス

第百二十條 四日以上引續クヘキ見込アル刑事ノ審問ニ於テ裁判所長ハ補充判事一人ヲ命シ之ニ

第一編 憲法 第五章 裁判所構成法

立會ハシムルコトヲ得此ノ補充判事ハ其ノ審問中或ル判事ノ疾病其ノ他ノ事故ニ因リ引續キ參與スルコトヲ得サル場合ニ於テ之ニ代リ審問及裁判ヲ完結スルノ權ヲ有ス

第百二十一條 判事ノ評議ハ之ヲ公行セズ但シ豫備判事及候補ノ傍聽ヲ許スコトヲ得判事ノ評議ハ其ノ裁判長之ヲ開キ且之ヲ整理ス其ノ評議ノ顛末並ニ各判事ノ意見及多少ノ數ヲ付テハ嚴ニ祕密ヲ守ルコトヲ要ス

第百二十二條 評議ノ際各判事意見ヲ述フルノ順序ハ官等ノ最モ低キ者ヲ始トシ裁判長ヲ終トス官等同キトキハ年少ノ者ヲ始トシ受命ノ事件ニ付テハ受命判事ヲ始トス

第百二十三條 裁判ハ過半数ノ意見ニ依ル金額ニ付判事ノ意見三説以上ニ分レ其ノ説各々過半数ニ至ラサルトキハ過半数ニ至ルマテ最多額ノ意見ヨリ順次寡額ニ合算ス

刑事ニ付其ノ意見三説以上ニ分レ各々過半数ニ至ラサルトキハ過半数ニ至ルマテ被告人ニ不利ナル意見ヨリ順次利益ナル意見ニ合算ス

第百二十四條 判事ハ裁判スヘキ問題ニ付自己ノ意見ヲ表スルコトヲ拒ムコトヲ得ス

第四章 裁判所及検事局ノ事務章程
第百二十五條 裁判所及検事局ノ標準ト爲スヘキ規則ハ司法大臣之ヲ定ム

控訴院長及検事長ハ前項ノ規則ニ依リ各自管轄區域内ノ裁判所及検事局ニ對シテ事務ノ一般ノ取扱ニ關リ成ルヘシ統一ヲ旨トシ殊ニ裁判所及検事局ノ開庭時間及開庭ノ時日ニ付訓令ヲ發ス大審院ハ自ラ其ノ事務章程ヲ定ム但シ之ヲ實施スル前司法臣ノ認可ヲ受ク

第五章 司法年度及休暇
第百二十六條 司法年度ハ一月一日ヨリ十二月三十一日ニ終ル

第百二十七條 裁判所ノ休暇ハ七月十一日ヨリ九月十日ニ終ル

第百二十八條 休暇中ハ左ノ事件ノ外既ニ著手シタル民事訴訟ヲ中止ス且新ナル訴訟ニ著手セズ

第一 爲替手形若ハ約束手形其ノ他ノ流通証券ニ關ル請求

第二 船舶又ハ運送貨又ハ積荷ニ對スル請求

第三 財産差押事件

第四 住家其ノ他ノ建物又ハ其ノ或ル部分ノ受取明渡使用占據若ハ修繕ニ關リ又ハ賃借人ノ家具若ハ所持品ヲ賃借人ノ差押ヘタルコトニ關リ賃借人ト賃借人トノ間ニ起リタル訴訟

第五 養料ノ請求

第六 保證ヲ出サシムルノ請求

第七 取掛リタル建築ノ繼續ニ關ル事件

第八 前數項ニ掲ケタルモノヲ除ク外區裁判所ノ判事ニ於テ又ハ民事訴訟法ノ定ムル所ニ從ヒ休暇部若ハ休暇部長ニ於テ直ニ著手スヘキ緊急ノモノト認メタル請求若ハ事件

第百二十九條 休暇中ニ拘ラヌ刑事訴訟非訟事件判決執行破産事件並ニ民事訴訟法ニ依リ略式ヲ以テ取扱フコトヲ得ヘキ訴訟ハ之ヲ停止スルコトナシ

第百三十條 合議裁判所ニ於テハ休暇中事務取扱ノ爲休暇部ト稱スル一若ハ二以上ノ部ヲ設ク休暇部ノ組立ハ休暇ノ始マル前裁判所長之ヲ定ム第二十三條ハ此ノ部ニモ亦之ヲ適用ス

二人以上ノ判事ヲ置キタル區裁判所ノ休暇事務取扱方法ハ監督判事之ヲ定ム

第六章 法律上ノ補助
第百三十一條 裁判所ハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依リ互ニ法律上ノ補助ヲ爲ス

法律上ノ補助ハ別ニ法律ニ定メタル場合ノ外ハ所要ノ事務ヲ取扱フヘキ地ノ區裁判所ニ於テ之ヲ爲ス

第百三十二條 検事局モ亦各自ノ管轄區域内ニ於テ取扱フヘキ事務ニ付互ニ法律上ノ補助ヲ爲ス

第百三十三條 裁判所書記課モ亦其ノ權内ノ事件又ハ其ノ配下ノ執達吏ノ權内ノ事件ニ付互ニ法律上ノ補助ヲ爲ス

(第一編 第五卷 裁判所構成法)

第四編 司法行政ノ職務及監督權

第三百二十四條 合議裁判所長區裁判所ノ判事若ハ監督判事檢事總長檢事長檢事正ハ司法大臣ノ由

テ以テ司法行政ノ職務ヲ行フノ官吏トス

第三百二十五條 司法行政監督權ノ施行ハ左ノ規程ニ依ル

第一 司法大臣ハ各裁判所及各檢事局ヲ監督ス

第二 大審院長ハ大審院ヲ監督ス

第三 控訴院長ハ其ノ控訴院及其ノ管轄區域内ノ下級裁判所ヲ監督ス

第四 地方裁判所長ハ其ノ裁判所若ハ其ノ支部及其ノ管轄區域内ノ區裁判所ヲ監督ス

第五 區裁判所ノ一人ノ判事若ハ監督判事ハ其ノ裁判所所屬ノ書記及執達吏ヲ監督ス

第六 檢事總長ハ其ノ檢事局及下級檢事局ヲ監督ス

第七 檢事長ハ其ノ檢事局及其ノ局ノ附置セラレタル控訴院管轄區域内ノ檢事局ヲ監督ス

第八 檢事正ハ其ノ檢事局及其ノ局ノ附置セラレタル地方裁判所管轄區域内ノ檢事局ヲ監督

ス

第三百二十六條 前條ニ掲ケタル監督權ハ左ノ事項ヲ包含ス

第一 官吏不適當又ハ不充分ニ取扱ヒタル事務ニ付其ノ注意ヲ促シ並ニ適當ニ其ノ事務ヲ取

扱フコトヲ之ニ訓令スル事

第二 官吏ノ職務上ト否トニ拘ラス其ノ地位ニ不相應ナル行狀ニ付之ニ諭告スル事

但シ此ノ諭告ヲ爲ス前其ノ官吏ヲシテ辯明ヲ爲スコトヲ得セシムヘシ

第三百二十七條 第十八條及第八十四條ニ掲ケタル官吏ハ第三百二十五條ニ依リ行フヘキ監督ヲ受ク

ルノ官吏中ニ之ヲ包含ス

第三百二十八條 裁判所若ハ檢事局ノ官吏ニシテ適當ニ其ノ職務ヲ行ハサル者又ハ其ノ行狀其ノ地

位ニ不相應ナル者ニ付第三百二十六條ヲ適用スルコト能ハサルトキハ懲戒法ニ從ヒテ之ヲ訴追ス

第三百二十九條 前數條ニ掲ケタル司法行政ノ職務及監督權ハ判事若ハ檢事其ノ官吏タルノ資格又

ハ其ノ他ノ資格ヲ以テ爲シタル事ニ對シテ起リタル請求ニ付其ノ請求ヲ満足セシムル爲之ヲ執

行スルコトヲ得ス

第三百四十條 司法事務取扱ノ方法ニ對スル抗告殊ニ或ル事務ノ取扱方ニ對シ又ハ取扱ノ延滞若ハ

拒絕ニ對スル抗告ハ此ノ編ニ掲ケタル司法行政ノ職務及監督權ニ依リ之ヲ處分ス

第三百四十一條 裁判所及檢事局ハ司法大臣又ハ監督權アル判事若ハ檢事ノ要求アルトキハ法律上

ノ事項又ハ司法行政ニ關ル事項ニ付意見ヲ述フ

第三百四十二條 司法官廳ニ對シテ起リタル民事ノ訴訟ニ於テハ其ノ訴訟ヲ受ケタル裁判所ノ檢事

局ハ司法官廳ヲ代表ス

第三百四十三條 此ノ編ニ掲ケタル前各條ノ規程ハ裁判上職務スル判事ノ裁判權ハ影響ヲ及ホシ又

ハ之ヲ制限スルコトナシ

附則

第三百四十四條 此ノ法律ノ施行ニ關ル規程並ニ從來ノ法律ニシテ此ノ法律ニ抵觸スト雖モ當分ノ

内仍ホ効力ヲ有セシムルモノハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

○第一節 裁判所構成法施行條例

○明治二十三年三月法律第二十二號

朕裁判所構成法施行條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

○第一編憲法○第五章裁判所構成法附錄○第一節

第一條

從來ノ治安裁判所ハ裁判所構成法ニ定メタル區裁判所トシ從來ノ始審裁判所ハ裁判所構成法ニ定メタル地方裁判所トシ又從來ノ控訴院大審院ハ裁判所構成法ニ定メタル控訴院大審院トス

第二條

始審裁判所從來ノ檢事局ハ裁判所構成法ニ定メタル地方裁判所ノ檢事局トス控訴院大審院ノ檢事局モ亦同シ

第三條

區裁判所ノ管轄區域ヲ爲ス町村ノ變更ハ之ヲ區裁判所管轄區域ニ及ホスモノトス

第四條

裁判所構成法實施前他ノ裁判所第一審トシテ受理シタル民事訴訟及刑事訴訟ニシテ同法ニ依リ區裁判所ノ管轄ニ屬シタルモノハ現在ノ儘相當ノ區裁判所ニ移ルモノトス既ニ爲シタル裁判ハ區裁判所之ヲ爲シタルモノト看做ス

第五條

裁判所構成法ニ依リ地方裁判所ノ第二審ニ屬スヘキモ既ニ控訴院ニ於テ受理シタル事件ハ控訴院之ヲ裁判スヘシ又控訴院ノ管轄ニ屬スヘキモ既ニ大審院ニ於テ受理シタル民事事件ノ上告ハ大審院之ヲ裁判スヘシ

第六條

裁判所構成法實施前重罪裁判所ニ於テ受理シタル刑事訴訟ハ現在ノ儘相當ノ地方裁判所ニ移ルモノトス既ニ爲シタル裁判ハ地方裁判所之ヲ爲シタルモノト看做ス

第七條

裁判所構成法實施前始審裁判所ニ於テ受理シタル部長區長戶長又ハ市長町長村長ニ對スル民事訴訟ハ同法ニ依リ區裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノト雖其ノ地方裁判所之ヲ裁判シ控訴院ニ於テ受理シタル官廳ニ對スル民事訴訟ハ其ノ控訴院之ヲ裁判スヘシ

第八條

裁判所構成法實施前高等法院ニ於テ受理シタル刑事訴訟ハ現在ノ儘相當ノ裁判所ニ移ルモノトス高等法院ニ於テ裁判スヘキ事件ヲ通常裁判所ニ於テ受理シタルモノモ亦同シ

第九條

明治十八年第三十一號布告違警罪即決例ハ裁判所構成法ノ爲ニ變更ヲ受クルコトナシ

第十條

明治十八年第十二號布告普通治罪法陸軍治罪法海軍治罪法交涉ノ件處分法ハ裁判所構成法

法ノ爲ニ變更ヲ受クルコトナシ
第十一條 明治二十一年勅令第六十四號ハ仍効力ヲ有ス
區裁判所出張所ニ於テ判事差支アルトキハ裁判所書記ヲシテ登記事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得
北海道及島嶼ニシテ區裁判所遠隔ノ地方ニ於テ司法大臣ハ郡長町長又ハ村長ニ委任シテ登記事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得
第十二條 東京地方裁判所管内小笠原島及伊豆七島ニ於テ民事刑事ノ訴訟ニシテ區裁判所ノ裁判權ニ屬スルモノ及非訟事件ハ裁判所設置マテ島吏之ヲ取扱フ但シ刑事訴訟ノ手續ハ便宜之ヲ取扱フコトヲ得
第十三條 津輕縣ニ於テ民事刑事ノ訴訟及非訟事件ニシテ區裁判所及地方裁判所ノ裁判權ニ屬スルモノハ裁判所設置マテ同縣官吏之ヲ取扱フ但シ控訴院ノ裁判權ニ屬スルモノハ長崎控訴院ノ管轄トス
第十四條 樺戸空知釧路ノ集治監ノ囚人罪ヲ犯シ輕罪以下ニ該ル者ノ裁判ニ關ル明治十五年第十
六號第四十一號及明治十八年第四十二號布告ハ仍効力ヲ有ス
前項ノ裁判ハ地方裁判所之ヲ爲シタルモノト看做ス
第十五條 明治二十一年勅令第七十一號清國並ニ朝鮮國駐在領事裁判規則ハ裁判所構成法ノ爲ニ變更ヲ受クルコトナシ
第十六條 裁判所構成法實施ノ際在職ノ裁判官檢察官ハ同法第二編第一章ノ要件ヲ必要トシス
第十七條 裁判所構成法實施ノ際在職ノ書記ハ同法第二編第四章第八十九條ノ要件ヲ必要トセズ
第十八條 裁判所構成法實施後三年間ハ司法大臣ハ試補實地修習ノ時間ヲ一年六個月マテニ減縮スルコトヲ得

明治十七年大政官達第百二號判事登川規則及明治二十年勅令第三十七號文官試驗試補及見習規

則ニ依リ試補ト爲リタル者ハ第二回試験ヲ要セスシテ之ヲ判事又ハ檢事ニ任スルコトヲ得

第十九條 裁判所構成法實施後一年間ハ司法大臣ハ同法第二編第二章第六十九條及第七十條ノ規程ニ拘ラス補職ヲ爲スコトヲ得

第二十條 三年以上裁判官又ハ檢察官ノ職ヲ奉シタル者又ハ三年以上舊參事院議官又ハ議官補ノ職ヲ奉シタル者又ハ三年以上司法制局參事官ノ職ヲ奉シタル者又ハ三年以上司法省高等官(會計局ノ官等官ヲ除ク)ノ職ヲ奉シタル者ハ裁判所構成法實施後一年間ハ之ヲ判事又ハ檢事ニ任スルコトヲ得

第二十一條 裁判所構成法第二編第二章第七十四條及第七十五條ハ檢事ニモ亦之ヲ適用ス

○第二節 裁判所位置及管轄區域表

○明治二十三年八月法律第六十二號

朕裁判所位置及管轄區域改定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ裁判所構成法實施ノ日ヨリ效力ヲ有ス

御名 御璽

裁判所位置及管轄區域別表ノ通改定ス但漸置裁判所開廳ノ期日ハ司法大臣之ヲ定ム

裁判所位置及管轄區域表

控訴院	地方裁判所	區裁判所	國	管	郡	市	區	町	村	輔
-----	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---

大東													
横濱						東京							
小田原相模	高座郡ノ内	海老名村	有馬村	座間村	足柄上郡	足柄下郡	大住郡	淘綾郡	愛甲郡	武蔵横濱市	久良岐郡	橋樹郡	都筑郡
三浦郡	相模	高座郡ノ内	御所見村	藤澤大坂町	鶴見村	鶴沼村	茅ヶ崎村	寒川村	濑谷村	六會村	鶴見村	松林村	鶴沼村
芝武蔵	東京市ノ内	荏原郡	麻布區	赤坂區	芝區	東多摩郡	北野區	下谷區	淺草區	牛込區	小石川區	本郷區	本所武蔵
南葛飾郡	東京市ノ内	南足立郡	神田區	東京市ノ内	下谷區	北野區	深川區	南葛飾郡	東京市ノ内	南葛飾郡	東京市ノ内	南葛飾郡	本所武蔵
京橋武蔵	東京市ノ内	京橋區	日本橋區	四谷區	東多摩郡	北野區	下谷區	淺草區	牛込區	小石川區	本郷區	本所武蔵	本所武蔵

○第一編憲法○第五款裁判所構成附錄○第二節

京					
水戸					
下妻	龍ヶ崎	麻生	土浦		
			常陸	常陸	常陸
常陸	常陸	常陸	常陸	常陸	常陸
吉沼村大字安食、吉沼村五人受、西高野、岡村大字	筑波郡内、高道祖村	筑波郡内、鹿島郡内、大岡村、若松村	鹿島郡内、行方郡、吉沼村大字、菅野村大字、明石、寺貝、高野原新田、	筑波郡内、朝日村、筑波郡内、谷田部村、谷井田村、十和村、山ノ庄村、吉沼村大字	新治郡内、信太郡内、筑波郡内、中家村、東村、板橋村、久賀村、三島村、鹿島村、小田村、旭村
	河内郡、信太郡内、江ノ崎町、阿見村、浮島村	高津村、豊津村、高松村、輕野村	豊郷村、中島村、波野村、東下村、中野村、矢田部村		
	下總北相馬郡				

宇都宮					
浦和	武藏	佐野	栃木	太田	下野
浦和	武藏	安蘇郡	足利郡	梁田郡	下野
上平村	指扇村、丸ノ崎村、東門前村、大宮町、與野町、尾問木村、川口町、戸田村、浦和町、北足立郡内、平野村、南埼玉郡内、新座郡	足利郡	梁田郡	盤谷郡	下野
小針村	小深作村、新堤村、大砂土村、馬宮村、谷根村、神根村、六辻村、綾瀬村、小林村	足利郡	梁田郡	盤谷郡	下野
小室村	大宮下塔村、東宮下村、大宮下村、植水村、三室村、片柳村、大木村、青木村、美谷本村	足利郡	梁田郡	盤谷郡	下野
加納村	大石村、宮原村、藤子村、風渡野村、並木村、片柳村、大木村、青木村、美谷本村	足利郡	梁田郡	盤谷郡	下野
桶川	上尾町、日進村、深谷村、大久保村、木崎村、野田村、横曾根村、笹目村	足利郡	梁田郡	盤谷郡	下野

○第一編憲法○第五章裁判所構成法附録○第二節

浦和			
熊谷武藏	川越武藏	幸手武藏	下總
比企郡ノ内 眞名板村 岩瀬村 須加村 太井村 南河原村 成田村 北玉郡ノ内 賀美郡ノ内 大里郡ノ内	秩父郡ノ内 小見野村 田丸村 名栗村	北玉郡ノ内 須影村 種足村 種川村 三俣村 川邊村 手子林村 中葛飾郡ノ内 豐岡村	北玉郡ノ内 須賀村 久喜村 須影村 種足村 種川村 三俣村 川邊村 手子林村 中葛飾郡ノ内 豐岡村
藤岡村 川俣村 新郷村 下忍村 北河原村 上中條村 北河原村	吾野村 中山村 植木村	大桑村 東村 三田ヶ谷村 騎西村 井泉村 江面村	篠津村 江面村
關根村 羽生村 堀玉村 忍川村 星河村 小曾根村	八ッ保村 伊草村	加須町 北萩島村 原道村 村君村 高柳村 志多見村	清久村
共和村 屈巢村 長野村 星宮村 今井村	三保谷村	水深村 元和村 大越村 禮羽村 田ヶ谷村	太田村
大田村 廣木村 荒木村 持田村 大塚村		水野村 豊野村 不働岡村 笠原村	

越ヶ谷			
下總	武藏		南埼玉郡ノ内
北葛飾郡ノ内 幸手町 八代村 南埼玉郡ノ内	北葛飾郡ノ内 早稲田村 松伏村 幸松村 北葛飾郡ノ内	北葛飾郡ノ内 新田村 南平柳村 北平柳村 上野田村 岡泉村 八條ヶ谷村 爪ヶ谷村 豊島村 茨田村 出羽村 越ヶ谷町	南埼玉郡ノ内 南埼玉郡ノ内
栗橋町 上高野村	寶珠花村 富多村	千駄野村 千野寺村 北平柳村 安行村 豐野村 旭村 戸ヶ崎村	大澤町 増林村 新和村 川通村 小久喜村 慈恩寺村 千野寺村
高野村	八木郷村	吉川村 田宮村 八木郷村	川柳村 新方村 和土村 岩槻村 下野田村 黒野村 實ヶ谷村
豊田村 櫻現堂川村 吉田村	南櫻井村 川邊村	杉戸町 三輪野江村 彦成村	大相模村 柳井村 柏崎村 柏壁町 湖止村 河合村 彦兵衛村
		堤郷村	大生村 武里村 内牧村 八幡村 百間村 太田新井村
			川田谷村 石戸村 田間宮村 馬室村 笑田村

控							
中之條上野		沼田上野		前橋上野		大宮武藏	
名久田村 中之條町 久賀村 吾妻郡ノ内		利根郡 吾妻郡ノ内 久賀村		東群馬郡ノ内 西群馬郡ノ内 南勢多郡 佐位郡 那波郡		秩父郡ノ内 秩父郡ノ内 大宮町 皆野村 白川村 野上村 下吉田村 倉尾村	
原町 岩島村 東村 澤田村 太田村 坂上村 長野原町 伊參村		川内村 毛里田村 廣澤村 境野村 梅田村 相生村		元總社村 桃井村 白井村 小野上村 伊香保町 古谷村 金島村 澁川町		横瀬村 三澤村 中川村 國神村 大田野 三田川村 而神村 長若村 矢納村 小野野町 上吉田村	
		碓氷郡 碓氷郡ノ内 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡		碓氷郡 碓氷郡ノ内 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡		大野村 野本村 大河村 菅谷村 唐子村 竹澤村	

前橋											
沼津		藤枝		静岡		宮岡		高崎上野		太田上野	
伊豆 賀茂郡ノ内 伊東村 上大見村 那賀郡		駿河 駿東郡 中川根村		遠江 藤原郡ノ内 中川根村		駿河 志太郡 益津郡		静岡 静岡市 有渡郡 安倍郡 捲原郡		宮岡 北甘樂郡	
宇佐美村 對島村 小室村 熱海村 中大見村 網代村 下大見村 多賀村		田方郡 上川根村		上川根村		益津郡		有渡郡 安倍郡 捲原郡		北甘樂郡 碓氷郡 碓氷郡ノ内 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡	
		碓氷郡 碓氷郡ノ内 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡		碓氷郡 碓氷郡ノ内 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡		碓氷郡 碓氷郡ノ内 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡		碓氷郡 碓氷郡ノ内 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡		碓氷郡 碓氷郡ノ内 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡	

○第一編 法○第五章 裁判所構成法附録○第二節

		郡			
		岡吉		原駿河	
		下田伊豆		富士郡	
甲府市 北巨摩郡	掛川 遠江	松遠江	豐田郡 引佐郡 山名郡 御厨村 豐濱村 周智郡 奥山村	賀茂郡ノ内	下田町
				三坂村	三坂村
				三坂村	三坂村
北巨摩郡	掛川 遠江	松遠江	豐田郡 引佐郡 山名郡 御厨村 豐濱村 周智郡 奥山村	磯崎村	磯崎村
				南上村	南上村
				岩科村	岩科村
東山梨郡	掛川 遠江	松遠江	豐田郡 引佐郡 山名郡 御厨村 豐濱村 周智郡 奥山村	朝日村	朝日村
				南中村	南中村
				松崎村	松崎村
東山梨郡	掛川 遠江	松遠江	豐田郡 引佐郡 山名郡 御厨村 豐濱村 周智郡 奥山村	竹麻村	竹麻村
				稻梓村	稻梓村
				下河津村	下河津村
東山梨郡	掛川 遠江	松遠江	豐田郡 引佐郡 山名郡 御厨村 豐濱村 周智郡 奥山村	南崎村	南崎村
				稻生村	稻生村
				上河津村	上河津村
東山梨郡	掛川 遠江	松遠江	豐田郡 引佐郡 山名郡 御厨村 豐濱村 周智郡 奥山村	磯崎村	磯崎村
				南上村	南上村
				岩科村	岩科村

		郡			
		岡吉		原駿河	
		下田伊豆		富士郡	
甲府市 北巨摩郡	掛川 遠江	松遠江	豐田郡 引佐郡 山名郡 御厨村 豐濱村 周智郡 奥山村	賀茂郡ノ内	下田町
				三坂村	三坂村
				三坂村	三坂村
北巨摩郡	掛川 遠江	松遠江	豐田郡 引佐郡 山名郡 御厨村 豐濱村 周智郡 奥山村	磯崎村	磯崎村
				南上村	南上村
				岩科村	岩科村
東山梨郡	掛川 遠江	松遠江	豐田郡 引佐郡 山名郡 御厨村 豐濱村 周智郡 奥山村	朝日村	朝日村
				南中村	南中村
				松崎村	松崎村
東山梨郡	掛川 遠江	松遠江	豐田郡 引佐郡 山名郡 御厨村 豐濱村 周智郡 奥山村	竹麻村	竹麻村
				稻梓村	稻梓村
				下河津村	下河津村
東山梨郡	掛川 遠江	松遠江	豐田郡 引佐郡 山名郡 御厨村 豐濱村 周智郡 奥山村	南崎村	南崎村
				稻生村	稻生村
				上河津村	上河津村

○第一編 綴法 ○第五系 綴列所構成法附録 ○第三節

○第一編 憲法 ○第五章 裁判所構成法附錄 ○第二節

大										
京										
都										
茨木	池田	大坂	舞鶴	福知山		峰山	宮津	園部	木津	伏見
攝津	攝津	攝津	丹後	丹後	丹波	丹波	丹後	丹波	山城	山城
島上郡	豊島郡	大坂市 西成郡	加佐郡ノ内 九上江村 中筋呂村 與保呂村	加佐郡ノ内 河東村	天田郡 河鹿郡	中郡 竹野郡 熊野村	與謝郡	船井郡 南桑田郡 北桑田郡	相樂郡	宇治郡ノ内 醍醐村 笠取村 宇治村
島下郡	能勢郡		有路下村 志樂村 高野村 刺來村	河守上村 河守下村 有路上村 河西村						
			岡田中村 神崎村 四所村 餘内村 東大浦村							
			東雲村 舞鶴町 倉梯村 西大浦村							

院															
村															
京	相川	系川	高田	六日町	柏崎	長岡				村上					
山科村	佐渡	越後	越後	越後	越後	越後				越後					
宇治郡ノ内	維太郎	西頸城郡	中頸城郡	南魚沼郡	刈羽郡					若船郡					
愛宕郡	加茂郡		東頸城郡	中魚沼郡						古志郡ノ内					
葛野郡	羽茂郡									北魚沼郡					
						島崎村	寺泊村	小島村	五千石村	黒川村	日吉村	日越村	岩田村	片貝村	三島郡ノ内
						野積村	尼瀨村	瀨田村	與板村	上岩井村	王寺川村	飯塚村	浦塚村	中野島村	
						出雲崎町	西越山	西山	本與板村	天津村	關原村	深澤村	野島村		
						脇野村	北越	善高	大郡	宮本	才津	來迎寺			
						高梨村	八手	桐原	下川	吉川	大島	塚山			

坂																																							
御																																							
戸																																							
五條大和宇智郡	吉野郡	八部郡	菟原郡	武庫郡	有馬郡	伊丹攝津川邊郡	美濃郡	明石播磨明石郡	篠山丹波多紀郡	柏原丹波氷上郡	洲本淡路津名郡	三原郡	加古郡	飾東郡	飾西郡	姫路播磨姫路市	印南郡	加西郡	多可郡	龍野播磨揖東郡	揖西郡	宍粟郡	佐川郡	赤穂郡	豐岡但馬城崎郡	朝來郡	額多郡	出石郡	養父郡	美含郡	村岡但馬七美郡	二方郡	備前岡山市	御野郡	上道郡	津高郡	兒島郡	備前赤坂郡	邑久郡

○第一編 陸路 ○第五章 畿内所攝成陸附録 ○第二節

大坂																																			
天王寺																																			
牧方河内茨田郡	交野郡	豐後郡	河内郡	若江郡	河内郡	攝津東成郡	住吉郡	和泉堺市	大島郡	岸和田和泉南郡	泉郡	日根郡	三宅村	惠我村	富田林河内志紀郡ノ内	丹南郡	古市郡	安宿郡	錦部郡	奈瓦大和式下郡	添下郡	山邊郡	平群郡	式上郡	松山大和宇陀郡	十市郡	葛上郡	葛下郡	忍海郡	廣瀬郡	高田大和高市郡	葛上郡	葛下郡	忍海郡	廣瀬郡

○第一編憲法○第五章裁判所構成法附錄○第三節

控									
福井					大津				
大野越前大野郡	武生越前 今立郡 丹生郡ノ内 南條郡	三國越前坂井郡	福井越前 福井市 丹生郡ノ内 足羽郡 吉田郡	長濱近江阪田郡 東淺井郡 伊香郡 西淺井郡	彦根近江犬上郡 愛知郡 神崎郡	今津近江高島郡	八幡近江蒲生郡	水口近江甲賀郡	大津近江滋賀郡 栗太郡 野洲郡
下柳村	織田村 大虫村 立待村	西安居村	三方村 國見村						
越迺村	萩野村 殿下村 朝日村								
四箇浦村	常盤村 系生村 吉川村								
上岬村	宮崎村 志津村 岡山村								
城崎村	白山村 天野村 吉野村								

岡										
山					岡					
勝山美作 真島郡 大庭郡	津山美作 西北條郡 吉野郡 東南條郡 英田郡 西南條郡 勝南郡 東北條郡 勝北郡 久米北條郡 久米南條郡	笠岡備中小田郡 後月郡	玉島備中淺口郡 窪屋郡 下道郡	新見備中 新見郡ノ内 美穀村 上刑部村 草間村 千屋村 豐永村 菅生村 熊谷村 田治部村	高梁備中 上房郡 阿賀郡ノ内 中津井村 賀陽郡ノ内 中津井村 上水田村 水田村 皆部村	川上郡 日美村 富山村 大和村	片上備前和氣郡 磐梨郡	岡山備中 都宇郡 賀陽郡ノ内 庭瀬村 真金村 高松村 生石村 服部村	阿曾村 岩田村 淺尾村 池田村 菅谷村 足守村	福谷村 總社村 日近村 大井村

○第一編 總法 ○第五卷 裁判所構成法附錄 ○第三節

和歌山			富山		
田邊紀伊	妙寺紀伊	和歌山紀伊	杉木新越中	高岡越中	魚津越中
東牟婁郡ノ内 大島村	西牟婁郡ノ内 日高郡ノ内 南郡ノ内	和歌山市ノ内 那賀郡ノ内 岩出村 山崎村 安樂川村 東野上村 狹川村 有田郡 新淵村	彌波郡	高岡市	富山市 下新川郡
上南郡村	王子村 池田村	名草郡 東貴志村 北野上村 長谷毛原村		射水郡	上新川郡
高城村	名手村 長田村	海部郡 根來村 中貴志村 小川村			婦負郡
清川村	狩宿村 龍門村	西貴志村 中野上村 上野野村 志賀野村			
	上名手村 麻生津村	九栖村 調月村 南野上村 下野野村 細野村			

金澤									
輪島能登鳳至郡	高濱能登羽咋郡	七尾能登鹿島郡	大聖寺加賀江沼郡	小松加賀	金澤加賀	小濱若狹遠敷郡	敦賀	越前敦賀郡	若狹三方郡
珠洲郡				能美郡ノ内 小松町 申木村 白木村 瀬谷村 中谷村 海川村 田川村 粟生村 宮内村 白峰村	金澤市ノ内 能美郡ノ内 中島村	大飯郡			
				安宅町 木津村 千針村 粟津村 里川村 福江村 久常村 別宮村	石川郡 草深村				
				今江村 宋佐美村 末杉村 西尾村 古河村 江ノ島村 湯野村 河野村	河北郡 砂川村				
				大杉村 本折村 淺井村 金野村 長野村 釜屋村 山原村 吉原村					
				寺非村 牧江村 蓮丸村 新九村 高田村 港村 國造村 尾口村					

宇和島伊豫東宇和郡		南宇和郡		北宇和郡	
高松	高松	高松	高松	高松	高松
三本松	三本松	三本松	三本松	三本松	三本松
丸	丸	丸	丸	丸	丸
觀音寺	觀音寺	觀音寺	觀音寺	觀音寺	觀音寺
名古屋尾張	名古屋尾張	名古屋尾張	名古屋尾張	名古屋尾張	名古屋尾張
一ノ宮尾張	一ノ宮尾張	一ノ宮尾張	一ノ宮尾張	一ノ宮尾張	一ノ宮尾張
津島尾張	津島尾張	津島尾張	津島尾張	津島尾張	津島尾張

宇和島伊豫東宇和郡		南宇和郡		北宇和郡	
高松	高松	高松	高松	高松	高松
三本松	三本松	三本松	三本松	三本松	三本松
丸	丸	丸	丸	丸	丸
觀音寺	觀音寺	觀音寺	觀音寺	觀音寺	觀音寺
名古屋尾張	名古屋尾張	名古屋尾張	名古屋尾張	名古屋尾張	名古屋尾張
一ノ宮尾張	一ノ宮尾張	一ノ宮尾張	一ノ宮尾張	一ノ宮尾張	一ノ宮尾張
津島尾張	津島尾張	津島尾張	津島尾張	津島尾張	津島尾張

○第一編卷法○第五系裁判所構成法附録○第三節

院									
安濃津									
安濃津伊勢津市	飯高郡	飯野郡	奄美郡	河曲郡	一志郡	松阪伊勢	多氣郡ノ内	飯高郡ノ内	飯野郡
四日市伊勢三重郡	朝明郡	桑名郡	員辨郡	大淀村	上御絲村	丹生村	東黒部村	下御絲村	西外城田村
龜山伊勢鈴鹿郡	山田郡	名張郡	伊賀郡	川添村	佐奈村	伊勢多氣郡ノ内	三瀬谷村	和可村	明星村
上野伊賀阿拜郡	山田郡	名張郡	伊賀郡	津田村	明星村	志摩答志郡	英虞郡	萩原村	津田村
水本紀伊南牟婁郡	北牟婁郡	各務郡	方縣郡	津田村	明星村	岐卓美濃	岐卓市	領内村	津田村
岐卓美濃	厚見郡	各務郡	方縣郡	津田村	明星村	八幡美濃郡上郡	中島郡	大杉谷村	津田村
大垣美濃	本巢郡	各務郡	方縣郡	津田村	明星村	大野郡	下石津郡	不破郡	津田村

廣									
廣島									
御嵩美濃加茂郡	可兒郡	土岐郡	惠那郡	廣島市	安藝郡ノ内	廣島安藝	安藝郡ノ内	廣島市	安藝郡ノ内
高山飛騨大野郡	吉城郡	益田郡	山縣郡	沼田郡	高宮郡	安藝郡ノ内	和庄村	沼田郡	高宮郡
吳安藝	加茂郡ノ内	瀬戸島村	宮原村	戸坂市町	矢野村	加茂郡ノ内	吉浦村	海田市町	矢野村
竹原安藝	加茂郡ノ内	大屋村	本庄村	中野村	熊野村	加茂郡ノ内	倉橋島村	坂村	熊野村
豊田郡	豊田郡ノ内	下黒瀬村	郷原村	坂村	熊野村	豊田郡ノ内	竹原町	坂村	熊野村
賀永村	三津口村	川尻村	内海村	坂村	熊野村	賀永村	三津口村	坂村	熊野村
東野村	早田原村	下黒瀬村	郷原村	坂村	熊野村	東野村	早田原村	坂村	熊野村
下野村	東高屋村	下黒瀬村	郷原村	坂村	熊野村	下野村	東高屋村	坂村	熊野村
西志和村	西志和村	下黒瀬村	郷原村	坂村	熊野村	西志和村	西志和村	坂村	熊野村
原村	原村	下黒瀬村	郷原村	坂村	熊野村	原村	原村	坂村	熊野村
下見村	上黒瀬村	下黒瀬村	郷原村	坂村	熊野村	下見村	上黒瀬村	坂村	熊野村

○第一編 國法 ○第五章 裁判所及法附錄 ○第二節

山			
口			
赤間關長門	萩	柳井津周防	岩國周防
赤間關市 豐浦郡内 岡枝村 豐東前村 豐西中村 小申村 阿川村 豐田中村	阿武郡 見島郡 大津村	玖珂郡内 神代村 玖神代村 室積村 田布村 大野村 伊保庄 熊毛郡内 大島郡 賀見畑村	玖珂郡内 小瀬川村 藤河村 瀨森村 高瀬村 廣瀬村 賀見畑村
豐田東郷村 長府上村 豐西上村 豐東上村 内日村 豐西東村 豐西東下村 角島東村 豐田前村	新庄村 日積村 東荷村 光井村 盤田村 平生村 伊保庄南村 室津村 會根村 城南村 三島村 高水村 柳井津 伊陸村	桑根村 由宇村 横山内村 北河内村 愛宕村 麻里布村 深須村 本郷村 藤谷村 岩國町 南河内村 祖生村 川下村 高根村 河波村 米川村 佐賀村 麻郷村 岩田村 三井村 勝岡村	麻里布村 愛宕村 北河内村 横山内村 由宇村 桑根村 祖生村 南河内村 川下村 高根村 河波村 米川村 秋中村 川越村 玖珂村

○第一編 憲法 ○第五章 裁判所構成法附錄 ○第二節

島					
控					
徳山周防	山口周防	福山備後	尾道備後	庄原備後	三次備後
徳山周防 熊毛郡内 八代村	山口周防 美禰郡 吉敷郡 佐波郡	福山備後 沼隈郡内 山手村 高須村 柳津村 本郷村 松永村 沼隈郡内 御調郡 山内東村 世羅郡 瀬江村 山南村 瀬江村 浦崎村 赤坂村 西村 今津村 山波村	尾道備後 高須村 柳津村 本郷村 松永村 沼隈郡内 御調郡 山内東村 世羅郡 瀬江村 山南村 瀬江村 浦崎村 赤坂村 西村 今津村 山波村	庄原備後 三上郡 山内東村 山内西村 山内北村 比和村	三次備後 三次郡 高野山村 口北村 口南村

長												
佐賀			長崎									
福岡	伊萬里肥前	唐津肥前	武雄肥前	佐賀肥前	巖原對馬	福江肥前	武生水壹岐	崎平戶肥前	島原肥前	大村肥前	長崎肥前	溝口伯耆
筑前	西松浦郡	東松浦郡	杵高郡	佐賀市	上縣郡	南松浦郡	壹岐郡	北松浦郡	南高來郡	北高來郡	長崎市	日野郡
宗像郡			藤津郡	基肄郡	下縣郡		石田郡			東彼杵郡	西彼杵郡	
早良郡				神崎郡								
志摩郡				小城郡								
粕屋郡				三根郡								
席田郡												
御笠郡												
那珂郡												

○第一編憲法○第五章裁判所構成法附錄○第二節

長											
鳥取			松江								
米子	倉吉	鳥取	西郷	益田	大森	濱田	今市	木次	松江	船木	
伯耆	河村	因幡	隱岐	石見	石見	石見	出雲	出雲	出雲	長門	厚狹
汗入郡	河村郡	八東郡	周吉郡	美濃郡	那賀郡	安濃郡	神門郡	大原郡	松江市	豐浦郡	郡内
會見郡	久米郡	智頭郡	穩地郡	鹿足郡	邑智郡		出雲郡	仁多郡	島根郡	豐東村	
	八橋郡	高草郡	知夫郡				橋縫郡	飯石郡	意宇郡		
		岩井郡	海士郡						秋鹿郡		
		氣多郡							能義郡		
		八上郡									

○第一編憲法○第五章裁判所構成法附錄○第二節

百四十五

新			
御船肥後			
三角肥後			
熊本肥後			
阿蘇郡ノ内 宮地村 山田村 産山村	下益城郡ノ内 松橋町 小野部村 杉上村 年稱村	上益城郡ノ内 登立村 大草郡ノ内 守宮村 下益城郡ノ内 宇土郡ノ内 白益城郡ノ内	熊本市ノ内 阿蘇郡ノ内 山田郡ノ内 上益城郡ノ内
南通村 尾ヶ石村 南小國村	海東村 隈庄村 豊田村	維和村 杉合村	熊野村
内牧村 黒川村 北小國村	豊野村 常尾村 東砥用村	上村	託麻郡
古城村 波野村 菅尾村	小川町 豊福村 西砥用村	中村	合志郡
坂梨村 永水村 馬見原町	河江村 豊川村 中山村	湯島村	
	高木村 秋津村 乙女村 福田村 小坂村 白糸村		
	飯野村 木山町 龍野村 陣野村 御岳村		
	河原村 甲佐町 六嘉村 白旗村 豊秋村 下矢部村		
	木倉村 飯野村 木山町 龍野村 陣野村 御岳村		
	上島村 津森村 七瀬村 濃尾村 中島村 名連川村		

大分			
分杵			
築豊後			
中津豊前			
玉津豊後			
豊前			
豆田豊後			
八坂村 南端村 東國東郡ノ内 富來村 旭日村 西安岐村	宇佐郡ノ内 天津村 横山村 長洲村 東院内村 龍王村	西國東郡ノ内 玉津村 東都甲村 西眞玉村 柳村 速見郡ノ内 立石村 東國東郡ノ内 伊美村 姫島村	豊前 宇佐郡ノ内 對戸村
東山香村	宇佐町 麻生村 西馬城村 高竝村 津房村	高田町 西都甲村 中眞玉村 三重村	玖珠郡
中山香村	長峰村 糸口村 驛鋪村 院内村 佐田村	美和村 上眞玉村	北馬城村
山浦村	八幡村 柳ヶ浦村 豊川内村 南院内村 和開村	河内村 草地村 白野村	
上村	安心院村 四日市村 雨川村 明治村 高家村	田染村 奥崎村 三浦村	來浦村
	國崎村 西武藏村 奈狩江村		
	豐崎村 中武藏村 南安岐村		
	武藏村 安岐村		
	上國崎村		
	豐崎村		
	西武藏村		
	奈狩江村		
	小原村		
	朝來村		
	大内村		

百四十四

拆										
盛岡										
水澤	磐井		宮古	福岡		遠野	花巻	盛岡		
陸中	陸前	陸中	陸奥	陸中	陸奥	陸中	陸中	陸中		
陸中 膽澤郡	陸前 氣仙郡	陸中 西磐井郡	陸奥 二戸郡	陸中 南九戸郡	陸奥 二戸郡	陸中 西閉伊郡 中閉伊郡 小國村	陸中 稗貫郡	陸中 盛岡市		
江刺郡	東磐井郡	東閉伊郡 北閉伊郡 門馬村	北九戸郡			東和賀郡 西和賀郡	南岩手郡 北岩手郡	紫波郡		
						大寶寺村 田川村 上郷村	京田村 福榮村 加茂村	桑村 温海村 大山町	東郷村 念珠閣村 西郷村	

控										
山形										
田島	山形	新庄	米澤	長井	酒田		鶴岡			
岩代	形羽前	莊羽前	澤羽前	井羽前	羽前	羽後	羽前	羽前		
南會津郡	山形市 東置賜郡 中川村	最上郡	米澤市 東置賜郡 南置賜郡	西置賜郡	東田川郡 新堀村 西田川郡 柳浦村	東田川郡 大泉村 東郷村 横山村 東榮村 十六合村	東田川郡 西閉伊郡 内	東田川郡 内	鶴岡市 羽前	
	南村山郡 東村山郡 北村山郡 西村山郡		二井宿村 糠野目村 屋代村 沖郷村 吉野村 赤宮内村	廣野村 余目村	本郷村 黒川村 抑切村 手向村 五七里村	山添村 廣瀬村 長沼村 立谷澤村 桑村	黄金村 泉村 八榮島村 狩川村	齋村 渡前村 藤高村 大和村		

○第一編憲法○第五卷裁判所構成法附錄○第三節

青森			
八戸陸奥	五所川原陸奥	鰺ヶ澤陸奥	弘前陸奥
三戸郡 三木村 下田村	北津輕郡 畑岡村 新和村 南津輕郡 内	西津輕郡	中津輕郡 内 弘前市 津輕郡 内 下北郡 浦野館村 大深内村 六ヶ所村
法奥澤村 白石村 三澤村	上北郡 内 三木村	尾崎村 金田村 田舎館村 大杉村 黒石町 南津輕郡 内	和徳村 岩木村 大浦村 女鹿澤村 五郷村 中郷村 浅瀬石村 大鰹村 藤崎村
藤坂村	三戸郡	大光寺村 山形村 六郷村 宮本館村 野澤村 常盤村 猿賀村 柏木町村 石川村	豊田村 相馬村 船澤村 高杉村 堀越村 東目屋村 西目屋村 千原村 裾野村
六戸村	上磯郡	蔵館村	尾上村 光田寺村 渡岡村
茅部郡		碓ヶ関村	

秋田									
野邊地陸奥	青森陸奥	湯澤羽後	横手羽後	大曲羽後	花輪陸奥	大館羽後	雫代羽後	本荘羽後	秋田羽後
野邊地村	東津輕郡	平鹿郡 内 増田村	雄勝郡 内 八澤木村 醒醐村	仙北郡 内 平鹿郡 内 角間川村	鹿角郡	北秋田郡	山本郡	由利郡	秋田市
横濱村	十文字村	山内村 境町村 大森村	大森村 吉田村	川西村					南秋田郡 河邊郡
甲地村		桑川村 黒川村 浅舞村 館合村	沼館村 福地村 阿氣村	田根森村					
天間林村		旭村 植田村 里見村 三重村							
七戸村									

院											
控											
札						函					
幌						館					
岩	小	增	幌	札	壽	福	江	江	江	江	江
内	樽	毛	泉	幌	都	山	刺	刺	刺	刺	刺
後	後	北	日	石	後	渡	後	後	後	後	後
志	志	見	高	狩	志	島	志	志	志	志	志
古	小	宗	沙	札	島	松	久	久	久	久	久
宇	樽	谷	流	幌	牧	前	遠	遠	遠	遠	遠
郡	郡	郡	郡	區	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡
根	忍	枝	檉	空	壽	福	大	大	大	大	大
室	路	幸	泉	知	都	山	樽	樽	樽	樽	樽
根	古	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡
室	宇	岩	中	有	壽	福	福	福	福	福	福
郡	郡	内	川	珠	都	山	福	福	福	福	福
花	古	岩	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡
咲	平	内	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡
郡	郡	岩	天	千	壽	福	福	福	福	福	福
野	美	内	盛	放	都	山	福	福	福	福	福
付	國	岩	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡
郡	郡	内	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡
標	積	岩	苦	三	壽	福	福	福	福	福	福
津	丹	内	前	石	都	山	福	福	福	福	福
郡	郡	岩	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡
日	高	内	留	浦	壽	福	福	福	福	福	福
梨	島	岩	前	河	都	山	福	福	福	福	福
郡	郡	内	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡

院			
根			
室			
釧	厚	根	
路	岸	室	室
十	釧	北	北
勝	路	見	見
河	厚	斜	斜
東	岸	里	里
郡	郡	郡	郡
廣	厚	網	網
尾	岸	走	走
郡	郡	郡	郡
當	釧	常	常
上	路	呂	呂
川	郡	郡	郡
郡	郡	郡	郡
十	川	紋	紋
勝	上	別	別
郡	郡	郡	郡
阿	阿	紗	紗
寒	寒	那	那
郡	郡	郡	郡
中	中	色	色
川	川	丹	丹
郡	郡	郡	郡
河	河	藁	藁
西	西	取	取
郡	郡	郡	郡

○第三節 地方裁判所支部及其管轄表

○明治廿三年八月司法省令第三號
 明治廿三年二月法律第六號裁判所構成法第三十一條ニ依リ地方裁判所支部及其管轄左表甲乙號ノ通相定メ甲號支部ニ於テハ重罪公判及民事第二審ヲ除ク外地方裁判所ノ裁判權ニ屬スル事務乙號支部ニ於テハ豫審ヲ要スルモノヲホク外地方裁判所ノ裁判權ニ屬スル刑事第一審ノ事務ヲ取扱ハシム

但本令ハ明治二十三年十一月一日ヨリ實施ス

○第一編總法○第五章裁判所構成法附錄○第三節

支部	管轄區裁判所
八王子	八王子
八日市場	八日市場 佐原
木更津	木更津 北條
土浦	土浦 麻生 龍ヶ崎
下妻	下妻
栃木	栃木 佐野
熊谷	熊谷 大宮
高崎	高崎 宮岡
濱松	濱松 掛川
松本	松本 上諏訪 大町 福島
飯田	飯田 伊奈

上田	上田 岩村田
新發田	新發田 村上
長岡	長岡、柏崎 六日町
高田	高田 糸魚川
相川	相川
宮津	宮津 峰山 福知山 舞鶴
洲本	洲本
姫路	姫路 社 龍野
豐岡	豐岡 村岡
津山	津山 勝山
彦根	彦根 長濱
小濱	小濱 敦賀
七尾	七尾 高濱 輪島

○第一編 附錄 ○第五章 裁判所構成法附錄 ○第三節

田邊	脇町	宇和島	岡崎	山田	高山	尾道	赤間關	濱田	西郷	米子	平戸
田邊	脇町	宇和島	岡崎	山田	高山	尾道	赤間關	濱田	西郷	米子	平戸
御坊	川島		西尾	木本		福山	船木	大森		溝口	武生水
新宮			豊橋					益田			
			新城								

福江	嚴原	久留米	小倉	中津	豆田	天草	大島	石巻	白河	平	岩松	米澤
福江	嚴原	久留米	小倉	中津	豆田	天草	大島	石巻	白河	平	岩松	米澤
		福島	行事	玉津				登米			田島	長井
		柳河						氣仙沼				

○第一編 鹽法 ○第五卷 裁列所 播成法附録 ○第三節

玉島	玉島	笠岡
小松	小松	大聖寺
高岡	高岡	杉木新
西條	西條	今治
丸龜	丸龜	觀音寺
四日市	四日市	龜山
上野	上野	
三次	三次	庄原
岩國	岩國	柳井津
萩	萩	
島原	島原	
唐津	唐津	伊萬里
八代	八代	人吉

○第一編憲法○第五章裁判所構成法附錄○第三節

乙號

酒田	酒田	
鶴岡	鶴岡	
磐井	磐井	水澤
大曲	大曲	横手 湯澤
弘前	弘前	鱈澤 五所川原
八戸	八戸	
支部	管轄區	裁判所
沼津	沼津	下田 吉原
谷村	谷村	
圓部	圓部	
篠山	篠山	柏原
高梁	高梁	新地

延岡	延岡	高千穂
古川	古川	
宮古	宮古	
能代	能代	大館 花輪

○第四節 判事檢事官等俸給令

○明治二十三年八月勅令第五百五十八號
朕茲ニ判事檢事官等俸給令ヲ裁可ス

御名 御璽

判事檢事官等俸給令

第一條 判事檢事ノ官等年俸ハ別表定ムル所ニ依ル

第二條 判事檢事ノ各職ニ付其人員官等年俸ヲ限定スルコト左ノ如シ

大審院

長

助任一等

一人 年俸五千圓

部長

三人

但特ニ年俸五千五百圓ヲ給スルコトアルヘシ

助任一等二等

年俸四千五百圓四千圓

判事

助任二等乃至奏任三等

二十七人

大審院檢事局

年俸三千五百圓乃至千八百圓

檢事總長

一人

檢事

助任一等

年俸五千圓又ハ四千五百圓

控訴院

助任二等乃至奏任三等

年俸三千五百圓乃至千八百圓

長

七人

東京 助任一等

年俸四千五百圓

大阪 助任二等

年俸四千圓三千五百圓

部長

十五人

奏任一等二等

年俸二千六百圓乃至千八百圓

判事

八十五人

奏任三等四等

年俸千六百圓乃至千圓

控訴院檢事局

檢事長

七人

助任二等

東京 年俸四千圓 大阪 千圓

檢事

其他三千五百圓二千圓

奏任一等乃至四等

二十人 年俸二千四百圓乃至千圓

○第一編憲法○第五卷裁判所構成法附錄○第四節

地方裁判所

長

東京 奏任一等

四十八人

大阪 奏任一等乃至三等

年俸二千四百圓乃至千六百圓

部長

九十人

奏任三等四等

年俸千四百圓乃至千圓

判事

四百十五人

奏任四等乃至六等

年俸九百圓乃至五百圓

地方裁判所檢事局

檢事正

四十八人

東京 奏任一等

年俸二千四百圓

大阪 奏任二等乃至四等

年俸二千二百圓乃至千百圓

檢事

百二十五人

奏任四等乃至六等

年俸千圓乃至五百圓

區裁判所

判事

八百四十人

奏任四等乃至六等

年俸九百圓乃至五百圓

區裁判所檢事局

檢事

二百七十五人

奏任四等乃至六等

年俸九百圓乃至五百圓

第三條 豫備判事ハ其人員ヲ二十五人トシ豫備檢事ハ其人員ヲ十五人トス

豫備判事豫備檢事ハ奏任六等ニ就シ年俸四百圓ヲ給ス
司法官試補ハ其人員ヲ百十人トス

第四條 第二條ノ各職中年俸ニ等差アルモノハ每俸平等ニ其人員ヲ定ム但端數ノ人員ヲ生スルト
キハ最下級ヨリ漸次上級ノ人員ニ併合ス

第五條 裁判所構成法第六十二條ニ依リ新任スル判事又ハ檢事ニシテ直チニ補職スル者ハ奏任六
等ニ就シ年俸五百圓ヲ給ス豫備判事又ハ豫備檢事ニシテ補職スル者モ亦同シ

第六條 裁判所構成法第六十五條第一項ニ依リ新任スル判事又ハ檢事ハ其補スヘキ職ノ最下ノ官等ニ就
シ最下ノ年俸ヲ給ス

第七條 判事又ハ檢事ニシテ他ニ轉官シ若ハ退官シタル者ヲ更ニ判事又ハ檢事ニ任スルトキハ前官ト同
等若ハ其以下ノ官等ニ就シ前官ト同年俸若ハ其以下ノ年俸ヲ給ス

第八條 判事又ハ檢事ノ進級ハ關員アルトキニ限り之ヲ行フ

第九條 判事又ハ檢事ノ進級ハ第二條ニ掲ケタル各職毎ニ先任ノ順序ニ依リ之ヲ行フ但區裁判所
判事ハ地方裁判所判事ト併合シ區裁判所檢事局檢事ハ地方裁判所檢事局檢事ト併合シテ先任順
序ヲ定メ進級セシム

第十條 大審院ノ部長判事大審院檢事局ノ檢事總長檢事控訴院ノ部長判事控訴院檢事局ノ檢事長檢事
地方裁判所ノ部長判事及地方裁判所檢事局ノ檢事正ノ補職ハ拔擢ヲ以テ之ヲ行フコトヲ得但官等
ヲ超越セシムルコトヲ得ス又其補スヘキ職ノ最下ノ年俸ニ非サレハ給スルコトヲ得ス

第十一條 東京大阪ノ控訴院ノ長同院檢事局ノ檢事長及東京大阪ノ地方裁判所ノ長同地方裁判所檢事局ノ
檢事正ノ補職モ亦拔擢ヲ以テ之ヲ行フコトヲ得但官等ヲ超越セシムルコトヲ得ス

第十二條 第八條 判事檢事ノ各職ニ於ケル先任順序ハ年俸ノ多寡ニ依リ之ヲ定ム年俸相同シキモノハ年俸

○第一編 憲法 ○第五章 裁判所構成法附錄 ○第四節

百六十五

下賜辭令ノ日付ノ前後ニ依リ其日付相同シキモノハ前年俸下賜辭令ノ日付ノ前後ニ依リ其日付相同シキモノハ年齢ニ依リ之ヲ定ム

第九條 判事又ハ檢事轉職スルトキハ前職ト同年俸若ハ其以下ノ年俸ニ非サレハ給スルコトヲ得

第十條 高等官官等俸給令第二條第三條第四條第六條第二十一條乃至第二十四條第二十六條及第二十七條ハ判事檢事ニモ亦之ヲ適用ス

第十一條 裁判所構成法實施ノ際敍任スル者ハ第七條第一項ノ規程ニ依ラス進級セシムルコトヲ得

第十二條 裁判所構成法實施ノ際在職ノ裁判官檢察官ハ其官等年俸第二條ニ定メタル官等年俸ヨリ高等多額ナルモ其官等年俸ノ儘其職ニ補スルコトヲ得

第十三條 本令ハ明治二十三年十一月一日ヨリ施行ス

官等	勅		任													
	一	等	二	等	一	等	二	等	三	等	四	等	五	等	六	等

年俸	五千五百圓		四千四百圓		三千五百圓		二千四百圓		一千四百圓		九百圓		六百圓		四百圓	
	上	五	千	四	中	三	千	四	下	二	千	四	百	九	百	四

第五節 判事懲戒法

明治二十三年八月法律第六十八號 朕判事懲戒法ヲ裁可シ茲コ之ヲ公布セシム

御名 御璽

判事懲戒法

第一章 總則

第一條 凡ソ判事ヲ懲戒スルハ左ノ場合ニ於テ懲戒裁判所ノ裁判ヲ以テスヘシ

第一 職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ

第二 官職上ノ威嚴又ハ信用ヲ失フヘキ所爲アリタルトキ

第二章 懲罰

第二條 懲罰ハ左ノ如シ

第一 譴責

第二 減俸

第三 轉所

第一編 懲戒法ノ裁判所構成法附錄第五節

第四 停職
第五 免職

第三條 前條何レノ懲罰ヲ適用スヘキヤ否ハ所犯ノ輕重ニ從ヒ懲戒裁判所之ヲ定ムヘシ
 懲戒裁判所ハ懲罰ノ適用ヲ定ムルニ當リ平生ノ行狀ヲ斟酌スルコトヲ得
 第四條 減俸ハ一月以上一年以下年俸月割額ノ三分ノ一以內ヲ減ス
 第五條 轉所ハ他ノ裁判所若ハ他ノ職ニ轉セシム但シ情狀ニ因リ減俸ヲ併セ科スルコトヲ得
 第六條 停職ハ三月以上一年以下職務ノ執行ヲ停止ス
 停職中ハ俸給ヲ給セズ
 第七條 免職ノ言渡ヲ受ケタル者ハ現任ノ官ヲ失ヒ及恩給ヲ受クルノ權ヲ失フ

第三章 懲戒裁判所

第八條 懲戒裁判所ハ各控訴院及大審院ニ之ヲ置ク
 第九條 控訴院ニ於ケル懲戒裁判所ハ控訴院長ヲ加ヘ其ノ院ノ判事五人ヲ以テ組立テ院長ヲ以テ長トス
 大審院ニ於ケル懲戒裁判所ハ大審院長ヲ加ヘ其ノ院ノ判事七人ヲ以テ組立テ院長ヲ以テ長トス
 第十條 控訴院長及大審院長ハ每年部長ト協議シ前以テ懲戒裁判所ノ判事ヲ定メ故ニ裁判所長判事差支アルトキノ代理順序ヲ定ム
 第十一條 懲戒裁判所ノ判事ノ忌避回避ニ付テハ治罪法ノ規程ヲ准用ス
 第十二條 控訴院ニ於ケル懲戒裁判所ノ檢事ノ職務ハ檢事長之ヲ行ヒ大審院ニ於ケル懲戒裁判所ノ檢事ノ職務ハ檢事總長之ヲ行フ
 第十三條 控訴院ニ於ケル懲戒裁判所長ハ其ノ院ノ裁判所書記ノ中ヨリ懲戒裁判所ノ書記ヲ命シ大審院ニ於ケル懲戒裁判所長ハ其ノ院ノ裁判所書記ノ中ヨリ懲戒裁判所ノ書記ヲ命シ
 第十四條 控訴院ニ於ケル懲戒裁判所ハ院長及部長ヲ除ク外其ノ院ノ判事及其ノ管轄區域內ノ總

テノ下級裁判所ノ判事ニ對スル懲戒事件ヲ管轄ス
 第十五條 大審院ニ於ケル懲戒裁判所ハ左ノ事件ヲ管轄ス

第一 第一審ニシテ終審トシテ大審院ノ判事、控訴院長及控訴院部長ニ對スル懲戒事件
 第二 控訴院ニ於ケル懲戒裁判所ノ裁判ニ對スル抗告及控訴
 第十六條 懲戒裁判所ノ管轄ハ所犯ノ地ニ拘ラス裁判手續開始ノトキ判事ノ奉職スル裁判所ニ依テ定マルモノトス

第四章 裁判手續

第十七條 懲戒裁判所ハ檢事ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ懲戒裁判ヲ開始スヘキヤ否ヲ決定ス但シ職權ヲ以テスル場合ニ於テハ檢事ノ意見ヲ聽クヘシ
 第十八條 檢事ハ裁判手續ノ開始ヲ拒ミタル懲戒裁判所ノ決定ニ對シテハ七日ノ期間內ニ抗告裁判所ニ抗告ヲ爲スコトヲ得
 第十九條 抗告裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キタル後抗告ヲ裁判ス若シ抗告ヲ正當ナリト認メタルトキハ裁判手續開始ノ決定ヲ爲シ管轄懲戒裁判所ヲ命シテ其ノ後ノ手續ヲ爲サシムヘシ
 第二十條 開始決定ニハ懲戒スヘキ所爲及證據ヲ開示スヘシ
 第二十一條 開始決定ハ檢事及被告ニ送達スヘシ
 第二十二條 懲戒裁判所ニ於テ下調ヲ必要ナリト決定スルトキハ懲戒裁判所長ハ懲戒裁判ヲ開始シタル院ノ判事若ハ管轄區域內ノ地方裁判所ノ判事ニ下調ヲ命スヘシ
 第二十三條 下調ノ命ヲ受ケタル判事ハ必要ナル證據ヲ集取スヘシ
 受命判事ハ被告ヲ呼出シテ事實ヲ陳述セシムルコトヲ得
 被告ハ代理人ヲシテ代理セシムルコトヲ得
 證人ハ治罪法ノ規程ニ從ヒ之ヲ訊問スヘシ
 第二十四條 受命判事ハ證人訊問其ノ他證據集取ヲ他ノ裁判所ノ判事ニ囑託スルコトヲ得

○第一編 第五卷 懲戒裁判所構成法附錄 ○第五節

- 第二十五條 受命判事ハ下調結了ノ後調書及一切ノ證據ヲ懲戒裁判所長ニ差出シ裁判所長ハ二十四時内ニ檢事ニ之ヲ送付スヘシ
- 第二十六條 檢事ハ三日内ニ意見ヲ付シ記錄ヲ懲戒裁判所長ニ送付スヘシ
- 第二十七條 懲戒裁判所ハ下調十分ナリト思料スルトキハ口頭辯論ヲ爲スノ決定ヲ爲シ又ハ免訴ノ判決ヲ爲スヘシ
- 免訴ノ理由ナキモ現時裁判ニ若手スルコトヲ得サルトキハ訴追停止ノ決定ヲ爲スヘシ
- 第二十八條 前條ノ裁判ハ檢事及被告ニ送達スヘシ
- 第二十九條 懲戒裁判所長ハ口頭辯論ノ期日ヲ定メ被告ヲ呼出スヘシ
- 第三十條 辯論ハ之ヲ公行セズ
- 第三十一條 口頭辯論ハ裁判所書記開始決定ヲ期調スルヲ以テ始マルモノトス
- 裁判長ハ先ツ被告ヲ審訊シ次テ證據ヲ爲シ檢事及被告ヲシテ證據ノ結果ニ付辯論ヲ爲サシメ被告ニ最終ノ發言ヲ許スヘシ
- 第三十二條 懲戒裁判所ハ被告若ハ檢事ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ更ニ證據ヲ提出セシムルコトヲ適當ナリトスルトキハ之カ爲必要ナル命令ヲ發シ且辯論ヲ他日ニ延期スルコトヲ得
- 第三十三條 被告ハ他人ヲシテ辯護セシメ又ハ代理人ヲ用ルコトヲ得
- 第三十四條 懲戒裁判所ハ事件ノ辯論既ニ十分ナリトスルトキハ之ヲ終結シ評議判決スヘシ
- 第三十五條 判決ハ即時ニ之ヲ言渡ス若シ即時ニ之ヲ言渡スコト能ハサルトキハ七日内ニ判決ヲ被告及檢事ニ送達スヘシ
- 第三十六條 被告又ハ代理人辯論期日ニ出頭セスト雖判決ヲ言渡スコトヲ得
- 第三十七條 評議及言渡ニ關シテハ裁判所構成法ノ規程ニ從ヒ證據ノ判斷ニ關シテハ治罪法ノ規程ニ從フ
- 第三十八條 被告及檢事ハ十四日ノ期間内ニ控訴ノ申立ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ期間ハ判決言渡

- ヨリ起算ス若シ被告出頭セサルトキハ判決ノ送達アリタルヨリ起算ス
- 第三十九條 控訴ノ申立ハ判決ヲ受ケタル懲戒裁判所ニ之ヲ爲スヘシ
- 控訴狀ハ控訴ノ申立ヲ爲シタルヨリ十四日ノ期間内ニ之ヲ差出スヘシ
- 第四十條 懲戒裁判所ハ控訴ノ申立及控訴狀ノ謄本ヲ對手人ニ送達スヘシ
- 對手人ハ送達ヲ受ケタルヨリ十四日ノ期間内ニ答辯書ヲ差出スコトヲ得
- 第四十一條 懲戒裁判所ハ前條ノ期間經過シタル後其ノ書類ヲ控訴裁判所ニ送付スヘシ
- 控訴裁判所長ハ口頭辯論ノ期日ヲ定メ被告ヲ呼出スヘシ
- 第四十二條 控訴裁判所ハ第一審ニ於テ申出テサル證據ヲ提出シタルトキハ之ヲ取調フヘシ若シ第一審ニ於テ訊問シタル證人ノ再訊問ヲ申立テタルトキハ其ノ重要ノ點ニ於テ陳述ヲ異ニシ又ハ新ナル重要ノ事實ヲ證言セントノ推測十分ナルトキニ限り之ヲ許ス
- 職權ヲ以テスル訊問ハ何時ニテモ之ヲ爲スコトヲ得
- 第四十三條 第二審ニ於ケル裁判手續ハ第三十條乃至第三十七條ノ規程ヲ適用ス
- 第四十四條 控訴理由ナシトスルトキハ判決ヲ以テ之ヲ棄却シ其ノ費用ヲ控訴人ニ負擔セシムヘシ
- 控訴理由アリトスルトキハ第一審判決言渡ヲ取消シ控訴裁判所更ニ判決ヲ爲シ且其ノ費用ニ付裁判ヲ爲スヘシ
- 控訴完結ノ後其ノ記錄ハ第二審ニ於テ爲シタル判決ノ認證アル謄本ト共ニ原裁判所ニ之ヲ還付スヘシ
- 第四十五條 調書ノ調製期間ノ計算及書類ノ送達ニ付テハ治罪法ノ規程ニ從フ
- 懲戒裁判手續ノ費用ハ刑事裁判費用ニ關ル規程ニ從フ
- 第四十六條 懲戒裁判所ノ裁判ハ確定ノ後ニ非サレハ之ヲ執行スルコトヲ得ス
- 第四十七條 懲戒裁判確定シタルトキハ懲戒裁判所長ハ司法大臣ニ事件ノ情況ヲ報告シ且判決ノ

附本ヲ差出スヘシ

第四十八條 懲戒裁判所減俸轉所若ハ停職ノ裁判ヲ言渡シタルトキハ司法大臣其ノ執行ノ手續ヲ爲ス

第五章 職務停止

第四十九條 判事ハ左ノ場合ニ於テハ當然職務ヲ停止セララルモノトス

第一 刑事裁判手續ニ於テ勾留セラレタルトキ

第二 刑事裁判ニ依テ官職ノ喪失ニ該ル刑ノ言渡ヲ受ケタルトキ

第三 懲戒裁判ニ依テ免職ノ言渡ヲ受ケタルトキ

第五十條 刑事裁判ニ依テ拘留ノ刑ノ確定裁判ヲ受ケタルトキハ其ノ刑期ノ終ルマテ當然職務ヲ停止セララルモノトス

第五十一條 懲戒裁判所ハ懲戒事件ノ轉所停職若ハ免職ニ該當スルモノト思料スルトキハ何時コトモ職權ヲ以テ又ハ檢事ノ申立ニ因リ懲戒裁判手續結了ニ至ルマテ被告ノ職務ヲ停止スルコトヲ決定スルヲ得但シ職權ヲ以テ決定ヲ爲ストキハ檢事ノ意見ヲ聽クヘシ
刑事裁判手續中何レノ場合ニ於テモ懲戒裁判所ハ其ノ手續結了ニ至ルマテ被告ノ職務ヲ停止スルコトヲ決定スルヲ得

第五十二條 懲戒裁判所ノ決定ニ因リ又ハ當然職務ヲ停止セラレタル後其ノ判事ノ爲シタル職務上ノ行爲ハ無効トス

第五十三條 被告ハ職務停止ノ決定ニ對シ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

第六章 懲戒裁判手續ト刑事裁判手續トノ關係

第五十四條 刑事裁判手續中ハ同事件ニ付被告ニ對シ懲戒裁判手續ヲ開始スルコトヲ得ス

懲戒裁判所ニ於テ判決ノ言渡前同事件ニ付被告ニ對シ刑事訴訟ノ始マリタルトキハ其ノ事件ノ判決ヲ終ルマテ懲戒裁判手續ヲ停止スヘシ

第五十五條 刑事裁判ニ依テ法律ニ觸レサルニ因リ免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタルトキト雖同一ノ所爲ニ付懲戒裁判手續ニ於テ仍ホ訴追スルヲ妨ケス

刑事裁判ニ依テ官職ノ喪失ヲ起ササル刑ノ言渡ヲ受ケタルトキハ懲戒裁判手續ニ於テ仍ホ訴追スルコトヲ得

第七章 補則

第五十六條 懲戒スヘキ所爲ハ本法實施前ニ關ルモノト雖本法ニ從ヒ之ヲ訴追ス

第五十七條 此法律ハ明治二十三年十一月一日ヨリ施行ス

第六節 裁判官檢察官裁判所書記ノ官名及裁判官休職ニ係ル規定

○明治二十三年十月勅令第二百五十四號

朕裁判官檢察官裁判所書記ノ官名及裁判官休職ニ係ル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

第一條 裁判所構成法實施ノ際在職ノ裁判官檢察官及裁判所書記ハ同法ニ定メタル判事檢事及裁判所書記トス

第二條 裁判所構成法實施ノ際在職ノ裁判官ニシテ同法ニ依リ更ニ補職セラレサル者ハ休職トス

第三條 判事十五年以上奉職ノ者裁判所構成法實施後疾病其他ノ事故ニ因リ職務ヲ執ルコト能ハサルニ至リ休職ヲ願出タルトキハ司法大臣ハ休職ヲ命スルコトヲ得但檢事ヨリ判事ニ轉任シタル者ハ檢事ノ勤務年數ヲ通算ス

第四條 休職中ノ俸給ハ現俸三分ノ一ヲ支給ス

第五條 休職判事ノ俸給支給ノ方法ニ付テハ一般非職官吏ノ例ニ依ル

○第一編附法○第五章裁判所構成法附錄○第六節